

国立国語研究所学術情報リポジトリ

談話語の実態

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立国語研究所 公開日: 2017-06-09 キーワード: 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001222

国立国語研究所報告 8

談話語の実態

国立国語研究所

1955

国立国語研究所報告 8

談話語の実態

国立国語研究所

1955

はじめに

どこの国語でも、話しことばと書きことばとは、別な体系であるといわれている。しかし、われわれの国語ほど、この二つがかけはなれた体系として発達しているものはないであろう。

近代になって、言文一致運動が起り、口語文がだんだん発達している。その結果、口語の語いや語法が、要素としてかなりとり入れられているが、まだ、その根本性格は、国民の口言葉を基礎として形成された口語文になりきっているとはいえない、今後、このような問題の解決のためにも、話しことばの研究が、書きことばの研究と相たずさえて進められなければならないであろう。書きことばについては、調査研究も少ないとは言いがたいが、話しことばについての調査研究は、非常に乏しいようである。国立国語研究所では、話しことばについての基礎的研究を一つの課題としている。この研究報告8は、その調査研究の一部をまとめたものである。

国立国語研究所は、創立以来、国語合理化の確実な基礎を築くために、国語および国民の言語生活に関する、総合的科学的な調査研究を行っている。この報告は、これまでにすでに刊行された多くの研究報告と相まって、われわれが現在つき当っている言語生活上の問題について答えようとするものである。

昭和30年2月8日

国立国語研究所長 西 尾 実

目 次

はじめに	1
1 調査の概要	1
11 調査の目的	1
12 調査の計画とその実施	1
121 調査資料の範囲	1
122 資料の録音	2
123 録音資料の文字化	2
124 分析用定本の作成	2
125 分析のための言語単位	4
126 結果の処理と報告書の作成	5
13 結果のあらまし	6
131 イントネーション	6
132 文・文節・語の長さ	7
133 文の構造	9
134 語の種類・使用度数・用法	12
2 イントネーションの調査	15
21 句末・文末のイントネーションの概観	15
211 はしがき	15
212 句末のイントネーション	15
213 文末のイントネーション	18
214 句末・文末のイントネーションの話し手別百分率	19
215 句末・文末のイントネーションの合計と、その百分率	24
22 イントネーションの 2, 3 の問題	25
221 句末と文末との比較	25
222 音の上下の方向	28

223	性・年齢・教養とイントネーションとの関係	30
224	同一人の場面による相違	32
225	ラジオのニュース・ニュース解説と日常の談話との比較	34
23	文末文節・文末助詞のイントネーション	35
231	文末の文節のイントネーション	35
232	文末の助詞のイントネーション	45
3	文・文節・語の長さ	52
31	文の長さ	52
311	文節を尺度とした文の長さ	53
312	語を尺度とした文の長さ	56
313	音節を尺度とした文の長さ	59
314	文節・語と文	61
32	文節の長さ	61
321	語を尺度とした文節の長さ	61
322	音節を尺度とした文節の長さ	67
33	語の長さ	69
34	文の長さの差異とその条件	71
341	採集地区と文の長さ	72
342	生活環境と文の長さ	73
343	性別と文の長さ	74
344	年齢と文の長さ	74
345	教養・相手と文の長さ	75
346	基礎話調と文の長さ	75
347	談話の目的・態度と文の長さ	76
4	文の構造	77
41	成分の組合せ	77
411	「次」の多少	77
412	成分の組合せの型	79

4121	第一次の成分の組合せの型	79
41211	第一次の成分の組合せの型 1	79
41212	第一次の成分の組合せの型 2	90
41213	第一次の成分の組合せの型 3	94
4122	第二次以下の成分の組合せの型	96
41221	第二次の成分の組合せの型	96
41222	第二次以下の成分の組合せの型	99
42	各成分の比率	112
43	各成分の構造	113
431	主語	113
432	述語	114
433	連体修飾語	124
434	連用修飾語	127
435	独立語	130
44	調査方法	133
5	語の種類・使用度数・用法	137
51	まえがき	137
52	品詞の使用率	138
521	品詞の使用率一覧	138
522	性・教養・年齢・場面別に見た品詞の使用率	140
523	ニュース・ニュース解説における品詞の使用率	141
524	調査の結果から	141
53	融合形	143
531	融合形の種類と使用度数	143
532	融合形の分類	145
54	副詞	148
541	異語数と延べ語数	148
542	語の種類と使用度数	148

543	擬声語・擬態語の副詞	152
544	書きことばとの比較	153
55	接続詞	155
551	異語数と延べ語数	155
552	語の種類と使用度数	155
553	類別による語数	157
554	書きことばとの比較	157
555	用法別の使用率・使用度数	157
5551	用法別使用率	157
5552	各語の用法別使用度数	161
5553	ニュース・ニュース解説における用法別語数	163
56	形容詞	163
561	異語数と延べ語数	163
562	活用形のあらわれ方	164
563	語の種類と使用度数	165
57	形容動詞	172
571	異語数と延べ語数	172
572	活用形のあらわれ方	172
573	語の種類と使用度数	173
574	字音語の形容動詞	177
6	調査への反省	178
7	参考文献	182
	事項索引	187
	図表・数表一覧	192

1 調査の概要

11 調査の目的

話しことばの調査研究は、その資料としての話しことばが、瞬間的に流れ去り、捕捉することが困難であったため、個人の自省や、児童の言語についての観察の二三が試みられただけで、成人を対象とした量的な調査は待望されながら、従来ほとんど行われなかった。

そこで、話しことばの調査研究の第1段階として、テープ式録音器を用いて、日常の談話を採集し、機械速記(Soku-Taipu)によって文字化した後、音節・語・文節・文を単位とする構造上の諸問題に着目しつつ、直接には、

イントネーション

語・文節・文の長さ

文の構造

語の種類・使用度数・用法

などの基本的な問題を探ることを、この調査の課題とした。

12 調査の計画とその実施

この調査のためには2年間を予定し、第1年度(1952年)の前半は、採集すべき調査資料の範囲の決定、録音資料採集のための現地作業、採集された録音資料の文字化、分析のための言語単位の検討、文字化された資料に言語単位の記号その他所要の記号を記入し、分析用定本を作成する作業に、後半以降は、各項目ごとの分析の作業に予定した。

121 調査資料の範囲

この調査は、おおむね東京都内で行うことを予想し、また、そのために準備された録音テープの数は第1年度約80巻、第2年度約20巻であったため、それらを、第1年度には東京における日常談話の言語の資料に集中させることとし、第2年度の20巻は比較資料としてのニュース・ニュース解説・座談会・

落語・講談・講義・劇などにあてることとした。第1年度の資料としては、日常の談話が多く得られる場合として、衣食住・社交等の生活機能と家庭・近隣・職場・市町村などの生活環境との切点から、具体的な談話の場面を収集して一覧表を作り、同時に、話し手・聞き手の性・年齢・教養・相手（の人数、未知既知）・地域などにもなるべく片寄りのすくないことを目安として、調査地点・調査対象・調査場面の予定表を作成した。

122 資料の録音

この予定表に従って1952年7月初旬から9月末日までの間に、資料としてのテープ80巻の採集を終った。折あしく当時は電力事情が悪く、また作業員が大都市での採集に不慣れであって、混入する雑音についての知識と経験とがとぼしかったため、電力低下・雑音混入により、多くの使用不能のテープを生じ、かろうじて分析に堪える明瞭度に録音されたものは60巻に過ぎなかった。第2年度の比較資料17巻は予定通り順調に採集された。

123 録音資料の文字化

録音テープを定本化する第一着手としての文字化のためには、当初から機械速記(Soku-Taipu)によることを計画した。そして機械速記によってローマ字文によるタイプ原稿正副2通を作成し、さらに録音テープとタイプ原稿とを照合して、誤脱を正し、所要の記入を終了したのは1月中旬であった。

また、第2年度の比較資料は、同様の手続きにより1953年10月以降12月中旬までに、上記の作業を終了した。

124 分析用定本の作成

上述の経過により、分析のために予定された日時が僅少となり、録音テープのすべてを分析することが危ぶまれたので、第1年度録音テープ60巻を、明瞭度を異にし、その他の諸条件のほぼ同質を予想されるA・B両資料群に分ち、A資料群および第2年度採集の比較資料によって分析を行うこととした。A資料群および比較資料を具体的に示せば次の通りである。

Reel No.	略 称	録音状態の可否	地 区	場 所	性		年 齢		教 養			相 手					
			下山周町	家近学職 庭隣校場	公 共 施 設	男 女 男 女	男 女 男 女	若 若	若 若	義 専	義 専	義 専	1人	2人	5人	8人以上	未 既 知
3	I 夫 芸	可	×	×		×	×	×		×		×					×
7	T家雑談	可	×	×		×	×	×	×	×	×	×					×
67	N家座談	可		×		×	×	×	×	×	×	×					×
86	トクン屋	可	×	×		×		×	×	×	×	×					×
76	じいさん ばあさん	可	×	×		×	×	×	×		×						×
93	魚屋雑談	可	×	×		×	×	×		×	×	×					×
97	U 氏 談	可	×	×		×	×	×		×		×					×
61	学 生 1 座 談	可	×	×		×		×		×		×					×
66	井 戸 端	可	×	×		×		×	×	×	×	×	×				×
98	友 の 会	可	×	×		×		×	×	×	×	×	×				×
2	女 子 生	可	×	×		×		×		×	×	×	×				×
59	松 根 屋	可	×		×	×		×		×	×	×	×				×
57	高 島 屋	可	×		×	×	×	×	×	×	×	×	×			×	×
100	柳 橋 美 髪	可	×		×	×	×	×	×	×	×	×	×				×
5	絵 画 館 おばさん	可	×		×	×	×	×		×	×	×	×				×
25	床 屋	稍可	×		×	×		×	×	×	×	×	×				×
51	一研雑談	可	×		×	×	×	×		×	×	×	×				×
64	三 藤 女 工	稍可	×		×	×		×		×		×					×
62	学 生 2 座 談	稍可	×	×		×	×	×	×	×	×	×	×				×
104	三 越 室 美 容	稍可	×		×	×		×	×	×	×	×	×				×
15	結 婚 申 込	可	×		×	×	×	×	×	×	×	×	×				×
87	職 安 男 子	可	×		×	×		×	×	×	×	×	×				×
88	職 安 女 子	可	×		×	×	×	×		×	×	×	×				×
79	無 尽 の 会	可	×	×		×	×	×	×	×	×	×	×				×
70	女 子 大 室 事 務	可	×	×		×	×	×	×	×	×	×	×				×

- (注) 1. 性の男男・女女・男女・女男、年齢の若若・壮壮・若壮・壮若は、それぞれ話し手と聞き手との性別・年齢を示す。
 2. 年齢の若は39歳まで、壮は40歳以上を示す。
 3. 教養の義は義務教育終了者を、専はそれ以上の学歴を示す。

なお、比較資料としては
 Reel No. 121, 122, 154, 190, 183 ラジオ座談, Reel No. 117 講義, Reel No. 118 講談, Reel No. 119 落語, Reel No. 120 劇, Reel No. 123 おとぎばなし, Reel No. 113, 114, 115, 116 ニュース解説, Reel No. 110, 111, 112 ニュースなどがある。

125 分析のための言語単位

雑誌「言語生活」の「録音器」欄を資料とし、それらの資料を、従来の各種の言語単位を用いて分析し、その得失を検討した結果、この調査のためには、おおむね文部省中等文法によりつつ、若干の修正を施すに止めた。たとえば、中等文法では1語と認めている「勉強する」「調査する」などのサ行変格活用の動詞は、「愛する」「禁ずる」などの外は2語として取扱い、名詞に助動詞「だ」がついた2語であるか、1語の形容動詞であるかの判別の困難なものについては、

	形容動詞は	名詞+だは
1. 格助詞「が、を、(へ、と、より、から)」が	つかない	つく
2. 接尾辞「～さ」が	つく	つかない
3. 体言に連なる形が	「一な」	「一の」
4. 連体修飾語によって修飾	されない	される
5. 連用修飾語によって修飾	される	されない

ただし、5の連用修飾語には下記のような副詞を識別の参考とする。

すっかり、極めて、ごく、すこぶる、すこし、ずっと、たいへん、
ちよっと、はるかに、もっとも、やや、もっと、そっと、もう、
しばしば、いくぶん、いささか、一層、かなり

次の副詞は除外して考慮する。

おおむね、おのおの、すくなくとも、すべて、やはり、本当に、
まるで、全く、陳述の副詞、比況の副詞

のような識別の基準を設け、その3項をみたすものをそれぞれ、形容動詞または名詞+助動詞として取扱い、また談話に多くあらわれる倒置文・補充法については、正常の文に置きかえて不自然でないものを1文、それ以外ものは2文またはそれ以上と認めて処理した。それらの具体的な処置は関係項目を参照されたい。このようにして資料に記入された言語単位の一例を示せば次の通りである。

1研(52)—7

話し手	聞き手	言葉	備考
4		• soryâ//atui/wa/nê///	
5	1	• kyô/wa//dannasama/wa//doko/e/ mo//asobi/ni//it/terassyara/nai/no///	
4	1	• ee//ika/nai/to//omoi/masu/kedo///	
5	1	• demo//sekkaku//yotei//si/te//	
4	1	irassyat/ta/noni/ne///	
3	1	• titto//yûkotyan/mo/enko//si/te// goran//nasai///	
4	1	• kage/e//ire/toi/te//yara/nai/to// • hai///	

(注) /は語の切れ目, //は文節の切れ目, ///は文の切れ目を示す。

126 結果の処理と報告書の作成

以上の作業には室員のすべてが当たったが、その後の調査分析は次のような分担によった。

イントネーション	宇野義方
語・文節・文の長さ	中村通夫 進藤咲子
文の構造	飯豊毅一
語の種類・使用度数・用法	大石初太郎

なお、この報告書では、調査の結果のうちから、おもなものを選んで述べるここととしたが、その執筆に当たったものは、調査の概要と語・文節・文の長さの項は中村通夫、イントネーションは宇野義方、文の構造は飯豊毅一、語の種類・使用度数・用法の項は大石初太郎である。

なお、2年間の作業を通して、臨時筆生、樋口きよ子（2年）、芳賀俊子（1年）、染谷佳子（1年）が所員を助けた。

13 結果のあらまし

131 イントネーション

イントネーションの調査では、日常の会話に現われるイントネーションのうち、文中の切れ目に注意しつつ、特に文の終りに重点をおいて、その大体を概観し、さらに問題となる二三の点について調査を進め、考察を加えることとした。

21では、リール10巻について、発言量の比較的多い話し手、延べ44人のイントネーションを量的に記述し、その百分比を調べた。その結果、イントネーションは、文中の切れ目では32種類、文の終りでは42種類に分けられた。

全体として見れば、極端に低く発音されるものはかなり少なく、極端に高く発音されるものは大体1割から1割5分を占め、残りはその中間の高さに発音されるものであった。

22では、まず、文中の切れ目と文の終りとを比べてみた。多量に現われたイントネーションについて比べると、大体において非常によく一致しているので、量的に多く調べる場合には文中の切れ目を省略して文の終りだけを扱っても大差は無さそうであるという見当がついた。

次に、いわゆるイントネーションの型とも言うべきものを調べるために、発音の上下の方向に注目して、少数の型にまとめてみた。その結果、文の終りの平らになるものが5割弱を占めて圧倒的に多く、少し上るものと少し下るものが2割前後でこれにつぎ、多く上るものが1割強となっている。

次に、性・年齢・教養がイントネーションに影響するのではないかとの予想で調べた。その結果、全体としてみれば、予想したほどの大きな影響は出て来なかった。つまり、それらの条件は、イントネーションにあまり決定的な影響を与えないのではないかと考えられる。ただし、細かく見れば、多少の影響らしいものがあることは、言うまでもない。

次に、同一人のイントネーションが、場面の相違によって、どのように変

るかを調べた。ここでは、わずかに3人について調べるに止ったが、相手が変わることにより、かなり注目すべき差が現われてくることが認められた。

次に、日常の談話と、ラジオのニュース・ニュース解説とを比べてみた。ラジオの方は合計5巻で量的には少ないのだが、イントネーションの種類が4つしか出て来ないことと、極端に高い発音や極端に低い発音が全然現われていないことが、特に目立った。これによって、それぞれの話し方の特徴が、かなり明らかとなった。

23では、まず文末の文節のイントネーションを調べた。扱ったリールは、日常の談話では、先にあげた10巻のうちの5巻、ラジオの方は先にあげた5巻である。しかし、紙面の都合で、それぞれの種類から、各1巻をとって示した。

文末文節が同じ語から成り、しかも同じイントネーションをもつ場合は、日常の会話では、若干のいわゆる感動詞を除けば、極めて少ないのに対して、ラジオの方では、かなり多いことが目立っている。しかし、文末文節が数語から成るものについては、終りの2,3語が同じになっているものが、日常の会話にも、ラジオの方にも、ともに多いことも注目される。

次に、文末の助詞のイントネーションを調べたが、ここでは、日常の談話の5巻分を扱った。その結果、最も多く現われたのはネで、次いで、ヨ、カ、ネー、ノの順となった。音の高さを無視して、同じ文末助詞をまとめてみれば、ネ、ヨ、ノ、カ、ネーの順となる。

なお、ヨの現われ方については、男と女とで、やや相違が認められたが、他の助詞では、あまり大きな差は出なかった。

132 文・文節・語の長さ

日常談話における語・文節・文の長さを18巻の資料について調査し、同時に比較資料17巻によってそれとの異同を調査した結果は、およそ次の通りであった。

まず、文の長さについては、文節を尺度とした場合、その平均文節数は、3.81文節、ほぼ4文節弱を示し、1文節文は全体の約3分の1、1,2文節文の合計は全体の約半数を占める。これに対して、比較資料のうちニュース・ニュース解説はそれぞれその平均文節数16.48文節、21.02文節であって、談話語の4倍または6倍の長さを示しており、1文節文はそれぞれ、1.98%、2.04%を示すにすぎない。その他の比較資料は談話語とニュース解説との間に位し、談話語の長さにより近い。

語を尺度として文の長さを計った場合、その平均語数は7.66語であり、1語文は全体の5分の1強を示し、10語以内の文は日常談話語の4分の3を占める。これに対して、比較資料のうちニュース・ニュース解説はそれぞれ平均語数28.81語、39.40語を示し、きわめて長い。また度数の最も高いものは日常談話では1語文であるのに対して、ここではそれぞれ20語文、7語文を示し、1語文は全体の1.32%、1.53%を示すにすぎない。

音節を尺度として文の長さを計ると、その平均音節数は16.15音節であり、度数の最も高いものは2音節文であり、また10音節以内の文は全体の約半数を占めている。これに対して、比較資料としてのニュース・ニュース解説の平均音節数はそれぞれ、80.31音節、97.80音節であり、4音節以内の文は認められず、10音節以内の文はそれぞれ全体の1.98%、5.54%を示すにすぎない。

次に、文節の長さについては、語を尺度とした場合、その平均語数はほぼ2語であり、1語文節から最長6語文節までの幅を持っている。その中でも1語文節すなわち自立語1の文節が最も多く、自立語1、附属語1の文節がこれに次いでいる。これを比較資料のうちニュース・ニュース解説と比べてみると、ここでは平均語数それぞれ1.75語、1.70語とやや下回わり、6語文は認められず、また2語文節が最も高い使用度数を示している。

音節を尺度として、文節の長さを計った場合、その平均音節数は4.24音節すなわち、4音節強を示す。3音節の文節が最も多く、次いで4音節、2音

節と「つりがね型」の度数分布を示している。これに対して、比較資料のうちニュース・ニュース解説はそれぞれ平均音節数4.66音節、4.88音節でやや上回わり、最も度数の高い文節は談話語の3音節に対して、4音節を示す。

語の長さについては、これを音節を尺度として計った場合、その平均音節数は2.11音節、すなわち2音節強を示すのに対して、比較資料のうち、ニュース・ニュース解説のそれはやや長く、それぞれ2.48音節、2.79音節を示している。

なお、資料としての各巻の中には、それぞれ、採集地区、生活環境、性、年齢、教養、相手の人数、相手の既知・未知、談話の基礎話調、談話の目的・態度、を異にするものが含まれていた。それらの差異を含む巻を相互に比較してみると、およそ次のような傾向がうかがわれた。ただし、その差異は談話語の持つ幅の中での小異であって、いずれの場合にもニュース・ニュース解説などの持つ幅と合致することはない。(ここでは長短の目印を文節を尺度とした文の長さに限って述べる。)

1. 下町地区で採集されたものは、山の手地区で採集されたものよりも文が短く現われる傾向がある。
2. 公共施設で採集されたものは比較的文が短く、家庭内で採集されたものは比較的文が長い。
3. 女性相互の会話のみの巻は、その他の資料と比べて、文がやや短い。
4. 若年層は文が短く、壮年層は文が長い傾向がある。
5. 「だ調」を基礎話調とする談話は、その他の場合と比べて、文が短い傾向がみられる。
6. 事務的な態度で知的反応を目的とする談話は、その他の場合より文が短い傾向が見られる。

133 文の構造

談話語の文の構造を文の成分に重点を置いて、成分の組合せ、成分の比率、

成分の構造という観点から調査した。(資料としてテープ10巻を採用した。)

文中の各成分が述語と第何次の関係にあるかということは文の複雑さを計る一つの方法となりうるであろうが、この観点から談話語の文を調査すると、大部分の文は一次の文であって、二次、三次、四次の文は次第に少なくなっている。これは、ニュースの文などで三次、四次の文が多いのと比べて、大きな違いである。(比較資料としてニュース3巻を採用した)

成分の組合せという観点から談話語の文4693を調査すると、第一次の成分のうち主語・述語・連用修飾語(述・用の修飾語——上に対して述語, 下に対して連用修飾語となっているもの——とそれ以外のものとに分ける)の配列の順序の型は253種である。このうち倒置の型は106種、一回しか現われない型は126種である。注意しなければならないのは少数の型が頻用されていることで、10種の型でもって文の総数の77%を占めている。

主語のある文は総数の26%であるが、これはニュースなどでは63%を占めているのと著しく対照的である。

倒置の文(主として述語との関係)は総数の7%である。(ニュースには全く現われない。)

成分が5以上あるものは総数の5%弱である。(ニュースでは30%)

次に、第一次の成分のうち、主語・述語・連用修飾語(述・用の成分とそれ以外とに分ける)・独立語について、連体修飾語によって修飾されているかどうかを考慮しつつ、それらの配列の順序の型を調査すると、型の数は768である。独立語を含む文は談話語に多いのであるが、これは各巻によって違いがある。たとえばR.61(学生座談)では99(総数の24%)であるが、R.2(女子学生)では267(47%)である。

次に、第二次の成分のうち、主語・連用修飾語(述・用の成分とそれ以外とに分ける)を中心として配列の順序の型を調査すると、型の種類は67種(延べ数は2022)である。この場合にも少数の型が頻用されていて、14種の

型でもって全体の94%を占めている。主語のあるものは19%である。

次に、各成分の比率を談話語・ニュース・新聞についてみると、

談話語	主 12.0	述 26.0	体 7.0	用 35.7	独 19.3%
ニュース	主 11.1	述 7.5	体 29.1	用 43.5	独 8.8
新聞	主 12.0	述 15.2	体 31.5	用 38.7	独 3.5

のようになっている。(新聞は「新聞用語研究」第25号による。以下同じ。)

つまり、談話語では連体修飾語の割合が少なく、独立語の割合が多いことが注意される。

次に、各成分の構造についてみると、主語においては、格助詞が見つからないで体言だけで主語となっているものが29%ある。これはニュースでは全く現れないし、新聞では10%となっている。また～入助詞によるものは24%であり、ニュース・新聞がそれぞれ71%、47%であるのと比べて大きな差異を示している。

述語においては、文末助詞を有するものは73%で、そのうち～ネ(25%)～ヨ(15%)、～ノ(7%)、～カ(6%)などが目だっている。

連体修飾語では、体言または体言に格助詞がついているものなどは55%であり(ニュース61%、新聞75%)、形容語によるものは21%(ニュース12%、新聞3%)である。(新聞は調査方法が不詳なので厳密な比較にはならない。)

連用修飾語では体言または体言に格助詞がついているもの30%(ニュース35%)、副詞など形容語によるもの29%(ニュース4%)、主として接続助詞などによる述・用の成分24%(ニュース28%)となっている。形容語によるものがかなりあることが注意される。述・用の成分は文の構造上注意したい。その割合はあまり変りないが、その内部構造は談話語とニュースとで異っているのはもちろんだが、各巻によってもかなり異同がみられた。

独立語では、接続・対等・感動・間投・応答などのそれぞれが各巻によっ

でそれぞれ使用度数が異なっている。たとえば、間投の成分はR.2(女子学生), R.98(友の会)などに多く(文の数の12%), R.64(三鷹女工), R.3(I夫妻)に少ない(4%, 5%)。なお、間投助詞はどの成分にも同様についているのではなくて、主語ではそのうちの8%, 連体修飾語では3%, 連用修飾語では12%についている。また同じ連用修飾語でも格助詞・接続助詞・副詞などにより、つく割合が異なっているし、また接続の成分などについてもその類別により異なっていることが注意された。もちろん各巻によっても異同がある。(ニュースには間投助詞のついていないものは現われない)

134 語の種類・使用度数・用法

語に関する調査では、最初に、20巻の録音テープの内容延べ83620語について、品詞の使用率を調べた。この種の調査は、従来、新聞の文章や小説の文章については行われたものがあつたが、話しことばについてはほとんどなかった。そこで、この調査の結果を従来の調査と比較してみるることによって、日常談話の性格を明らかにするための一つの手がかりを得ようとしたのである。

調査の結果は、次のように出た。

体言	動詞	形容詞	形容動詞	副詞	連体詞	接続詞
20.5%	12.2%	2.7%	1.2%	6.1%	0.8%	1.9%
感動詞	助詞	助動詞	融合形	計	コソアド語計	
4.7%	34.7%	12.9%	2.3%	100.0%	4.6%	

さらに、比較のためにラジオのニュース・ニュース解説のことばについても、同様の調査を試みた。

上の結果を、従来の新聞文章の調査の結果やニュース・ニュース解説のことばの調査の結果と対比してみると、日常談話では、(1)名詞が少ない、(2)名詞と動詞との比較において、動詞が多い、(3)動詞と形容詞との比較において、形容詞が多い、(4)副詞が多い、(5)感動詞が多い、(6)融合形が多い、(7)コソアド語が多い、等の事実が明らかにされた。

次に、与えられた時間内において、いくつかの問題的な部面について調べてみようという計画のもとに、融合形・副詞・接続詞・形容詞について、それぞれ若干の調査を行った。

融合形については、延べ語数（かりに「語」と数える。）1904、異語数117を得て分類したが、「てる（て—いる）」「でる（で—いる）」「とく（て—おく）」「ちゃう（て—しまう）」等の、「て・で」+補助用言に対応するものが延べ1077語で、圧倒的に多く、「こんだあ（今度—は）」「かっちゃあ（勝ち—は）」「じゃあ（で—は）」等の、諸種の語+「は」に対応するものが延べ627語、「すりゃあ（すれ—ば）」「なけりゃあ（なけれ—ば）」等の、諸種の語+「ば」に対応するものが延べ100語で、以上の類によって融合形の大部分がしめられていた。

副詞については、延べ語数5003、異語数318が得られたが、318語中、擬声語・擬態語が115語数えられた。これは36%に当る。なお、使用度数の高い20語を取って、新聞（国立国語研究所資料集2「語彙調査——現代新聞用語の一例——」による。）および婦人雑誌（国立国語研究所報告4「現代語の語彙調査 婦人雑誌の用語」による。）の副詞と対比してみると、両者の間に語の種類と使用度数順位にかなりの相違のあることが見られた。

接続詞については、延べ語数1558、異語数85を得て、副詞と同様の方法で書きことばとの比較を行い、やはり同様の結果を得た。なお、用法の調査を行なった。文中に用いられる場合、文頭に用いられる場合、話頭に用いられる場合、と分けて見た結果は、次のとおりである。

文中 15% 文頭 53% 話頭 32%

次に、A——前の語・句・文と後の語・句・文とをつなぐ、B——前後をつなぐ関係は明確でないが、一つの意味を受けて次を導き出す、C——遊びことば的、D——不明、と分けて見た結果は、次のとおりである。

A 75% B 15% C 10% D 2%

形容詞は延べ語数2276, 異語数170で, これを活用形によって分け, さらにそれを接続関係によって分けた。その結果, 「～かる」が0, 「～けれ」が0.6%できわめて少なく, 「～く」の中止や「～い」の終止も少ないことが注目された。

形容動詞は延べ語数922, 異語数178で, 形容詞・形容動詞を比べてみる時, 形容詞は語の種類が少なく使用度数が高く, 形容動詞はこれに反するという実情が明らかにされた。形容動詞178語中には, 字音語が108語(61%に当る。), 「～的」の形の語が32語(うち, 字音語31語)数えられた。活用形では, 「～なら」が0, 「～だろ」が0.3%, 「～だ」の終止が0.7%でいずれも少ないこと, 語幹だけの用法が20.4%をしめていることなどが注目された。

2 イントネーションの調査

21 句末・文末のイントネーションの概観

211 はしがき

われわれは、日常の談話にどのようなイントネーションを用いているであろうか。たとえば、大学に在学中の若い女性とその友人に話していることばのうち、1つの文をとって、音の高低を模式的に表わすと次のようになる。

(1) イ^{****}ラ^{****}シタ コト アル? (行ったことがあるか)

また、専門学校を卒業した20代の主婦が、商店の御用聞きと話していることばのうち、1つの文をとって、同様に表わすと、次のようになる。

(2) フ^{****}ーン。 (驚きと、感嘆の気持をこめた、あいづち)

この報告では、音の高さを表わすのに、(1)の「ル」を1、(1)の「ラ」を2、(1)の「イ」を3、(2)の「フ」を4とする。

ところで、イントネーションを記述するには、文全体の高低が問題になるが、ここでは文末部に注目し、あわせて句末部をみることにした。^{*****}

212 句末のイントネーション

録音テープのうちから、録音状態の良いものを選び、さらに地区・場所・性・年齢・教養・相手について、^{*****}偏りの少いようにつとめた。話し手の内訳は表2のとおりである。このようにして、リール10巻を決定し、イントネーションを調査した。その結果は〔表1〕のとおりである。

* ここで句といつたのは、息の長落の意味である。イントネーションの項では、以下同じ。

** 文は、文法でいう場合の意味に使う。イントネーションの項では、以下同じ。

*** イントネーションを「ヨトバの中に現われるラング以外の要素、特に陳述のちがいを表わす音の高低に関する要素」の意味に使う。文献(2)49べ参照。

**** イントネーションは、純粹に音の高さとしてみれば、決して4つの線分で表わせるものではないが4段階を設け、それで表わすことも1つの方法として認められるであろう。文献(1)参照。音の高低は担当者が録音を耳でくり返し聞いて判断した。

***** 日常の談話やラジオのニュース・ニュース解説などでは、文末部が特に重要であり、句末部がそれに次ぐと考えられる。文献(2)49、50べ参照。ここでは、大体最後の2音節をとるに止めた。

***** 「国立国語研究所年報-4-」8べ参照。

[表1] 句末のイントネーション

ルール番号	2					3		59				61						67				
話し手番号 イントネーション	1	2	3	5	7	1	2	1	2	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
1		3																1	1			
1 ₂ *								4														
1 ₃																						
11																						
11 ₃																						
13									1										1			
2		1											1				1	1	2			
21		5	1	1	11	14	1					1						9				
21 ₁																			2			
21 ₂							2											4			1	
21 ₃								1														
22		15	2	2	18	20	8	2				13	9	12	2	4			30			2
22 ₁						1		2														
22 ₃		3			2	1	10	5				4	3	2	1	1		21	19			1
23		5			14	10						5	7	4	2	2		12	33		1	1
23 ₁						2																
23 ₂		1	1		1								1			1			1			
3																						
31		19	1	4	11	5	2				3	2	1	1		1	3	5	8			
31 ₁																						
31 ₂																			3			1
31 ₃							2	1	1									1				
32	1	56	1	2	5	36	30	9	8	2	1	6	9	7	1	3	1	33	24		4	3
32 ₁								1														
32 ₂																						
32 ₃		9	1	5	5	6	10	45	10	1	2	12	5			3		33	20			1
33	1	15			2	43	32		7	1	2	16	19	18	1	4	2	32	52	1		5
33 ₁																						
33 ₂			1	3		4																
4 ₂																						
43							1															
44																						
合計	2	132	3	15	19	150	124	85	35	5	8	59	55	44	7	19	7	152	196	1	5	15

* 1音節よりも短いように思われる発音が認められた場合に、その高さを小字で表わした。

この表によって、句末のイントネーションを概観すれば、33, 32の高さが最も多く、32₃, 22の高さが、それに次ぎ、以下に23, 22₃, 31, 21が目立つ。つまり、3と2との間にあるものが約8割5分を占め、圧倒的に多いが、終りの1になるものが約1割を占めることも、注意しておきたい。

〔表 2〕 話し手の分布

リール番号 性・年齢・教養	2	3	59	61	67	79	86	93	97	100
男 壮 専				5	3				3	
男 壮 義			1, 2, 6		1, 2		2		1	
男 若 専		2		1, 2, 3, 4			3			
男 若 義								1, 2		5
女 壮 専						3			2	
女 壮 義					5	2				1, 3, 8
女 若 専	1, 2, 3, 5, 7	1	5	6	4	4, 6	1	3, 4		
女 若 義						1, 5				2, 6

(注) ここに現われたところでは、かなり偏りがあるが、それは発語量の少ないものを省略したためである。

ここでは、イントネーションが32の種類に分けられている。しかし、観察を重ねれば、他の高さも現われるかも知れない。

213 文末のイントネーション

句末のイントネーション調査(212)に使用したりリール10巻について、同様の方式で文末のイントネーションを調査した。その結果は〔表3〕のとおりである。

この表によって、文末のイントネーションを概観すれば、33の高さが最も多く、32, 31, 23, 22の高さがそれに次ぎ、以下に32₃, 21, 22₃, 31₂が目立つ。ここでは、3と2との間にあるものが約7割8分を占め、圧倒的に多いが、終りの1になるものが約1割5分を占めることも、注意しておきたい。

ここでは、イントネーションが42の種類に分けられている。しかし、観察を重ねれば、他の高さも現われるかも知れない。

ところで、上に述べた3と2との間にあるものが圧倒的に多いことについ

で、更に考察を進めると、これらのものは、ここに掲げた延べ44人* のほとんど全部か、あるいは大多数の人によって用いられている。ここで扱ったリールが、わずかに10巻であることを考えると、調査に当って、なるべく偏りの少いように努めたとはいいながらも、これをもって日常談話の平均的な見本とみなしてよいかどうかに疑問がないではない。しかし、それを心得た上で考えても、どうも2と3との間にある高さは、日常談話において、かなり多く使われる傾向があるらしいと認められる。これは句末でも同様である。

また、終りが1の高さになるものの率にも注意したが、これは話し手の年齢や、話す態度、話の内容などにより、かなり相違するのではないかと思われる。

214 句末・文末のイントネーションの話し手別百分率

話し手の1人1人が、それぞれのイントネーションを、どのような割に用いているかを知るために、話し手別にその百分率を計算した。その結果は、〔表4〕のとおりである。

ここでは、句末・文末を合せて50回以上になる人だけを選んで表を作成した。50回未満の人を省略しても、大体の傾向を知るためにはさしつかえないことだと考える。

なお、百分率の最後のケタの数は4捨5入によって得たものである。イントネーションの項では以下同じ。

〔表4〕によって見ても、前項(213)の終りで考察したことが確かめられる。とくに、33の高さでは1割5分と5割5分との間にすべてが入り、32の高さでは7分5厘と3割5分との間にすべてが入る。

* 調査した10巻のリールでは、発音者が延44人よりも多い。しかし話し手の発音が不明確であったり、録音状態が部分的に不良であったりして調べられないものを省略したなどの理由で、ここには44人について表を作成した。

[表 3] 文末のイントネーション

ルール番号	2						3		59						61						67							
話し手番号	1	2	3	4	5	7	1	2	1	2	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5				
イントネーション																												
1							1	4	1							1							2					
1 ₁							1																					
1 ₂							1																					
1 ₃									2	2																		
11	1								2	2																		
11 ₂									2	1																		
11 ₃																												
12									9																			
13	1						1	2																				
2	6						1	6	1						1 1													
2 ₁							1																					
2 ₃																					1							
21	11 2						2	3	17	18	3	1	1	2	4	5	6	1	6	2	2	1						
21 ₁																												
21 ₂	1								3	2	1												1					
22	11 5						1	3	28	67	8	4	2	1	11	12	13	10	23	5	11	9	6	3	7			
22 ₁	1								1 2 1												1							
22 ₃	1 4						1		5	13	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1			
23	28 2						2	6	33	33	20	8	2	2	1	9	18	5	4	8	3	11	14	2	2			
23 ₁	3						1								1													
23 ₂	1						3		2	4													2					
23 ₃																												
3	1																											
31	1 53						3	12	9	67	26	20	3	1	7	1	11	9	12	26	3	7	10	7	6	3		
31 ₁																												
31 ₂	1 3								2						3 2						2 2 1							
31 ₃	1								3						1						1 1							
32	1 32						1	1	12	22	72	43	24	16	2	26	30	23	8	15	6	23	11	6	6	10		
32 ₁	1						1		1												1							
32 ₂																					1							
32 ₃	6						2		3	4	29	5	1	4	5	5	14	1	4	2	4	1	4	1	34			
33	2 49						1	16	11	80	75	63	56	9	7	22	55	65	66	22	38	12	51	59	7	8		
33 ₁	2						1								1						1							
33 ₂									2						2						1							
33 ₄									1																			
34							12		7							1												
4 ₂							1		1												3							
42																					1							
42 ₃																					1							
43																												
43 ₂																												
44									1												1							
合計	7	215	10	7	52	59	325	290	119	107	20	26	28	123	148	132	44	141	31	118	117	38	28	57				

〔表 4〕 句末・文末のイントネー

ルール番号	2			3		59		61					67		
話し手番号	2	5	7	1	2	1	2	1	2	3	4	5	1	2	5
イントネーション															
1	0.86			0.21	0.24	1.45			0.49				0.37	0.96	
1 ₂					0.24	1.45									
1 ₃						0.72	1.41								
11	0.29						1.41							0.32	
11 ₂															
11 ₃															
12					0.24		6.35								
13				0.21	0.48	0.35							0.37		
2	2.02			0.21	1.44		0.70	0.55	0.98				0.37	0.64	
2 ₁				0.21											
21	4.61	4.47	5.13	5.90	7.70	1.45		1.65	1.96	2.85		3.75	5.55	0.64	
21 ₁														0.64	
21 ₂				0.66	0.48	0.72							0.83	1.41	
21 ₃						0.35									
22	7.49	4.47	6.40	9.67	21.00	5.64	1.41	13.20	10.30	14.25	23.50	16.90	4.07	12.40	12.62
22 ₁				0.21		0.35	2.82								
22 ₃	2.02	1.49		0.42	1.44	8.10	3.50	2.75	2.45	2.27	1.96	1.88	8.15	6.70	1.41
23	9.50	2.98	7.70	9.87	12.00	7.05	5.60	7.70	12.25	5.12	11.70	6.24	8.50	15.00	4.22
23 ₁				0.42				0.55				0.62			
23 ₂	0.50	5.97	2.57	1.05					0.49			1.88		0.32	
23 ₃															
3	0.29														
31	20.75	19.40	16.70	16.40	7.48	7.75	2.10	7.15	4.91	7.40		16.90	4.45	5.75	4.22
31 ₁															
31 ₂	0.86			0.42		1.05	1.41						0.75	1.60	1.41
31 ₃	0.29					1.65	0.70	0.55	0.49			1.22		0.64	
32	25.36	20.90	34.70	22.70	17.60	11.61	16.90	17.60	19.20	17.00	17.70	11.20	21.50	11.20	18.12
32 ₁	0.29					0.72									
32 ₂												0.62			
32 ₃	4.30	10.40	10.30	1.32	3.37	26.10	10.55	8.80	4.91	2.85		10.60	13.70	7.00	2.82
33	18.44	23.80	16.70	25.90	25.80	22.20	44.40	39.00	41.50	47.70	45.00	26.30	30.70	35.50	54.90
33 ₁	0.50	1.49						0.55							
33 ₂		4.47		1.32		0.72									
33 ₄						0.35									
34				2.64	1.68					0.57					
4 ₂				0.21											
42					0.24							1.88			
42 ₃														0.32	
43				0.21											
43 ₂															
44						0.70								0.32	
合計実数	347	67	78	475	414	283	142	182	203	176	51	160	270	313	72

シヨンの話し手別百分率

79					86	93			97			100				
1	2	3	4	5	2	1	2	3	1	2	3	1	2	3	4	8
	0.65			0.87 0.87	0.73	0.60						1.01	1.15	0.83 0.83	1.75	0.87
0.77	0.65		1.32 4.05	0.87		0.20		0.65 0.65							0.83	
	0.65										0.76 0.76					
		1.86	4.05	0.87	0.73	1.00	1.32							3.45	1.66	
4.65	1.95	1.86		3.50 2.63	3.40	1.40	3.64	3.90	2.47	3.80	4.10	0.82	2.02	1.15	2.50	7.82
1.55	1.30			0.87	0.73	0.60	1.95		1.52						0.83	
7.00	8.42	11.50	5.40	9.60	6.52	4.80	10.90	9.10	12.60	14.50	19.70	14.30	9.20	12.50	7.00	3.47
2.32	1.95			1.32	4.12	5.60	3.64	0.65	1.84	0.76	2.50	3.03	3.45	2.50		2.60
8.50	7.80	12.95	1.32	6.10	6.80	5.80	5.45	18.80	16.60	16.80	7.40	8.08	16.00	1.83	14.00	15.60
	0.65				0.73	0.20	1.30					1.01		1.67		1.74
1.55	2.60			0.87	3.15				0.31							0.87
			1.32													
16.20	12.16	14.80	13.20	8.75	3.40	6.00	9.20	14.30	4.00	10.30	12.30	12.30	4.60	11.65	29.80	23.40
	0.65		4.05													
	1.95	7.40	1.32	2.63				3.25		6.88	0.82	2.02	3.45	6.68	3.50	
	1.30							0.65	0.62							
24.00	22.10	11.50	13.20	27.20	14.20	24.20	30.90	14.30	18.50	7.60	12.30	24.50	19.60	8.30	8.75	13.00
1.55	0.65		1.32		1.26			0.65							1.66	
0.77	1.30	1.86	5.40						0.62							
5.42	6.50	5.55	2.70	5.26	19.20	13.40	3.64	8.40	3.40	3.05	4.90		4.60	3.32		11.25
26.50	24.00	27.50	39.00	28.80	34.70	36.00	30.90	16.90	41.30	32.80	34.40	28.60	32.20	25.00	35.00	19.10
	1.95															
		1.86			0.24 0.48											
											0.82					
		1.86						0.65								
								0.65 0.65								
						0.20										
129	154	54	74	114	412	500	55	154	324	131	122	98	87	120	57	115

215 句末・文末のイントネーションの合計と、その百分率

[表1, 表3] をまとめ計算すると,[表5] とすることができる。

[表5] 句末・文末のイントネーションの合計と、その百分率

イントネーション	句 末	文 末	合 計
1	6 (0.281)	21 (0.499)	27 (0.426)
1 ₁		1 (0.024)	1 (0.016)
1 ₂	4 (0.188)	4 (0.095)	8 (0.126)
1 ₃	1 (0.047)	4 (0.095)	5 (0.079)
11	2 (0.094)	10 (0.238)	12 (0.189)
11 ₂		3 (0.071)	3 (0.047)
11 ₃	1 (0.047)	3 (0.071)	4 (0.063)
12		11 (0.262)	11 (0.174)
13	3 (0.141)	5 (0.119)	8 (0.126)
2	10 (0.469)	35 (0.832)	45 (0.710)
2 ₁		2 (0.048)	2 (0.032)
2 ₃		1 (0.024)	1 (0.016)
21	82 (3.844)	130 (3.091)	212 (3.344)
21 ₁	2 (0.094)	3 (0.071)	5 (0.079)
21 ₂	19 (0.891)	19 (0.452)	38 (0.600)
21 ₃	1 (0.047)		1 (0.016)
22	262 (12.283)	382 (9.082)	644 (10.159)
22 ₁	3 (0.141)	8 (0.190)	11 (0.174)
22 ₂	126 (5.907)	61 (1.450)	187 (0.950)
23	189 (8.861)	421 (10.010)	610 (9.623)
23 ₁	7 (0.328)	17 (0.404)	24 (0.379)
23 ₂	19 (0.891)	21 (0.499)	40 (0.631)
23 ₃		1 (0.024)	1 (0.016)
3	1 (0.047)	2 (0.048)	3 (0.047)
31	114 (5.345)	533 (12.672)	647 (10.207)
31 ₁	1 (0.047)	4 (0.095)	5 (0.079)
31 ₂	12 (0.563)	53 (1.260)	65 (1.025)
31 ₃	9 (0.422)	14 (0.333)	23 (0.363)
32	461 (21.613)	686 (16.310)	1147 (18.094)
32 ₁	4 (0.188)	13 (0.309)	17 (0.268)
32 ₂	1 (0.047)	12 (0.285)	13 (0.205)
32 ₃	313 (14.674)	181 (4.303)	494 (7.793)
33	467 (21.925)	1494 (35.521)	1961 (30.935)
33 ₁	1 (0.047)	7 (0.166)	8 (0.126)
33 ₂		7 (0.166)	16 (0.252)
33 ₃	9 (0.422)	3 (0.071)	3 (0.047)
34		21 (0.499)	21 (0.331)
4 ₂		1 (0.024)	1 (0.016)
42	1 (0.047)	7 (0.166)	8 (0.126)
42 ₃		1 (0.024)	1 (0.016)
43	1 (0.047)	1 (0.024)	2 (0.032)
43 ₂		1 (0.024)	1 (0.016)
44	1 (0.047)	2 (0.048)	3 (0.047)
合 計	2133	4206	6339

22 イントネーションの 2, 3 の問題

221 句末と文末との比較

イントネーションの種類が、句末では32、文末では42あり、文末の方が、10種類多い。このうち、文末になく、句末にあったのは 21₃、ただ1つであり句末になく、文末にあったのは、1₁、11₂、12、2₁、2₃、23₃、33₄、34、4₂、42₃、43₂ の 11 である。*

次に、句末の合計と文末の合計とについて、多く出るものの順位を比べると、

順位	1	2	3	4	5	6	7	8
句末	33(21.9%)	32(21.6)	32 ₃ (14.7)	22(12.3)	23(8.9)	22 ₃ (5.9)	31(5.3)	21(3.8)
文末	33(35.5%)	32(16.3)	31(12.7)	23(10.0)	22(9.1)	32 ₃ (4.3)	21(3.1)	22 ₃ (1.5)

のようになる。1, 2位は百分率こそ違え、順位は全く同じである。32₃ と 31以下はやや順位が異なるが、全体としてみると順位8までに含まれるイントネーションが句末と文末とで全く一致することは、注目に値する。ただし、この一致が偶然のものであるかどうかについては、何とも言えない。

なお、この比較に忘れられないのは、イントネーションの合計が、句末は2133、文末は4206^{*}で、文末が句末の約2倍に当ることである。これは、耳で聞きとれないものを省略したことを考慮に入れても、文の長さとも密接な関係がある。つまり、1息で言える短い文が日常の会話にかなり多いことの1つの現われだと言えるのではないか。

さて、イントネーションの表記で小字を用いた部分については問題があるので、小字を含めて終りの2つをとったものと、かりに小字の部分の部分を切捨てて終りの2つをとったものとをまとめると、句末と文末とは〔表6〕のようになる。

*〔表5〕参照

〔表6〕について、小文字を含むものと、切捨てたものについて、多く出るものの順位を比較する。まず、句末についてみると、次のようになる。

順位	1	2	3	4	5	6
含む	23(29.4%)	32(22.9)	33(21.8)	22(12.3)	31(5.7)	21(4.1)
切捨	32(36.5%)	33(22.3)	22(18.3)	23(10.0)	31(6.3)	21(4.8)

また、文末についてみると、次のようになる。

順位	1	2	3	4	5	6
含む	33(35.5%)	32(16.9)	23(15.8)	31(13.2)	22(9.3)	21(3.6)
切捨	33(35.9%)	32(22.1)	31(14.3)	23(10.9)	22(10.7)	21(3.6)

〔表6〕 句末と文末と

無小字		1	11	12	13	2	21	22	23	3
有小字	1	1								
	11	6(0.281)	11				21 ₁			
	12	0(0.000)	2(0.094)				2(0.094)			
	13	4(0.188)	0(0.000)	0(0.000)			19(0.891)			
	2	1(0.047)	1(0.047)		3(0.141)		21 ₃			
	21					2				
	22					10(0.469)				
	23					2 ₁	21	22 ₁		
	3					0(0.000)	82(3.844)	3(0.141)		
	31							22		
	32							262(12.283)		
	33					2 ₃		22 ₃	23	
	34					0(0.000)		126(5.907)	189(8.861)	
	42									3
	43									1(0.047)
	44								23 ₁	
合計		11(0.516)	3(0.141)	0(0.000)	3(0.141)	10(0.469)	104(4.876)	391(18.313)	215(10.080)	1(0.047)

したがって、このようにしても、順位の1から6までをとると、そこに含まれるイントネーションの種類はそれぞれ全く一致する。ここで注意すべきことは、句末の場合に、23の順位がかなり異なるが、文末の場合には、全体として順位が大部分一致する点である。

この順位を、句末と文末とについて比べても、大体において、一致していると考えられるであろう。したがって、221の最初に示した句末と文末との比較とも大体において一致するのである。

の 比 較 —(句 末)—

31	* 32	33	34	4	42	43	44	合 計
								6(0.281)
31 ₁	1(0.047)							5(0.235)
31 ₂	12(0.563)							35(1.642)
31 ₃	9(0.422)							15(0.704)
								10(0.469)
	32 ₁							
	4(0.188)							89(4.173)
	32 ₂							
	1(0.047)							263(12.330)
	32 ₃				42 ₃			
	313(14.674)				0(0.000)			628(29.442)
								1(0.047)
31		33 ₁						
114(5.345)		1(0.047)						122(5.720)
	32	33 ₂				43 ₂		
	461(21.613)	9(0.422)				0(0.000)		489(22.926)
		33						
		467(21.894)						467(21.894)
		33 ₄	34					
		0(0.000)	0(0.000)					0(0.000)
				4 ₂	42			
				0(0.000)	1(0.047)			1(0.047)
						43		
						1(0.047)		1(0.047)
							44	
							1(0.047)	1(0.047)
136(6.377)	779(36.522)	477(22.363)	0(0.000)	0(0.000)	1(0.047)	1(0.047)	1(0.047)	2133

〔表 7〕 句末と文末と

無小字	1	11	12	13	2	21	22	23	3
1	1 21(0.499)								
11	1 ₁ 1(0.024)	11 10(0.232)				21 ₁ 3(0.071)			
12	1 ₂ 4(0.095)	11 ₂ 3(0.071)	12 11(0.262)			21 ₂ 19(0.452)			
13	1 ₃ 4(0.095)	11 ₃ 3(0.071)		13 5(0.119)		21 ₃ 0(0.000)			
2					2 35(0.832)				
21					2 ₁ 2(0.048)	21 130(3.091)	22 ₁ 8(0.190)		
22							22 382(9.082)		
23					2 ₃ 1(0.024)		22 ₃ 61(1.450)	23 421(10.010)	
3									3 2(0.048)
31								23 ₁ 17(0.404)	
32								23 ₂ 21(0.499)	
33								23 ₃ 1(0.024)	
34									
42									
43									
44									
合 計	30(0.713)	16(0.380)	11(0.262)	5(0.119)	38(0.904)	152(3.614)	451(10.722)	460(10.957)	2(0.048)

このようなことがわかったので、調査にあてる時日と労力を考慮して、224以下に扱った問題に関しては、句末は省略して文末だけを取り上げることとした。

222 音の上下の方向

日常の談話で、われわれの用いるイントネーションでは、句末・文末の部分が重要な意味をもっている。いままで述べて来たことを、もっと要約してみれば、イントネーションが最後に上るか、下るか、平らであるかということが問題だとも言えるのである。このような見方は、かなりおおまかなもの

の比較—(文末)—

31	32	33	34	4	42	43	44	合計
								21(0.499)
31 ₁								18(0.428)
4(0.095)								90(2.140)
31 ₂								26(0.618)
53(1.260)								35(0.832)
31 ₃								153(3.638)
14(0.333)								394(9.367)
	32 ₁							665(15.811)
	13(0.309)							2(0.048)
	32 ₂							557(13.242)
	12(0.285)							715(16.999)
	32 ₃				42 ₃			1495(35.545)
	181(4.303)				1(0.024)			24(0.570)
								8(0.190)
31		33 ₁						1(0.024)
533(12.672)		7(0.166)						1(0.024)
	32	33 ₂				43 ₂		2(0.048)
	686(16.310)	7(0.166)				1(0.024)		2(0.048)
		33						2(0.048)
		1494(35.521)						2(0.048)
		33 ₄	34					2(0.048)
		3(0.071)	21(0.499)					2(0.048)
				4 ₂	42			2(0.048)
				1(0.024)	7(0.166)			2(0.048)
						43		2(0.048)
						1(0.024)		2(0.048)
							44	2(0.048)
							2(0.048)	4206
604(14.360)	892(21.207)	1511(35.924)	21(0.499)	1(0.024)	8(0.190)	2(0.048)	2(0.048)	

ではあるが、イントネーションにおける重要な点であることは間違いない。

ここでは、最後の2音節をとって、それがどのようなカーブを描くかを考え、それについて実数合計とその比率とを調べた。まとめ方としては、このほか□のような形で23₂, 23₁、をまとめ、▽のような形で32₃, 42₃, 21₃, 31₃などをまとめるというような方式があることは言うまでもない。

なお、1音節で1文をなすものは、音の方向を考慮することができないので別にまとめた。その結果は〔表8〕のとおりである。

この表によると、句末では(2)、(3)、(4)、(6)の順で、文末では(2)、

(4), (3), (6) の順となる。順位は近いが、百分率の違うことは注目すべきだろう。合計は、文末と同じ順だが(4)と(3)とがほぼ同じであるから、その順位が一定していると考えerことは危険である。話し手の性、年齢、話す態度、話の内容などが変れば、それに応じて、ある程度異なった結果が出るかも知れないのである。

〔表 8〕 音の上下の方向

番号	模式	イントネーション	句 末	文 末	合 計
(1)	・	1; 2; 3	17 (0.797)	58 (1.379)	75 (1.183)
(2)	→	11, 1 ₁ , 21 ₁ , 31 ₁ ; 22, 32 ₂ ; 33, 23 ₃ ; 44	736 (34.506)	1909 (45.388)	2645 (41.725)
(3)	↘	12, 1 ₂ , 11 ₂ , 21 ₂ , 31 ₂ ; 23, 2 ₃ , 22 ₃ , 32 ₃ , 42 ₃ ; 34, 33 ₄	663 (31.084)	779 (18.521)	1442 (22.748)
(4)	↗	21, 2 ₁ , 22 ₁ , 32 ₁ ; 32, 23 ₂ , 33 ₂ , 43 ₂ ; 43	579 (27.146)	869 (20.661)	1448 (22.843)
(5)	∟	13, 1 ₃ , 11 ₃ , 21 ₃ , 31 ₃	15 (0.704)	26 (0.618)	41 (0.647)
(6)	↶	31, 23 ₁ , 33 ₁ ; 42, 4 ₂	123 (5.767)	565 (13.432)	688 (10.854)

223 性・年齢・教養とイントネーションとの関係

一般に、女性は男性に比べて高い調子で話すとか、若い者は老人に比べて高い調子で話すことが多いと考えられているようだし、また、実際にそうかも知れない。また、教養の違いもイントネーションに影響するところがあるのではないかと、一応は予想される。

それで、文末におけるイントネーションを規定する諸条件のうちから、話し手を、いわば外面的に制約する条件をとり上げて、考察を試みた。それらの条件のうち、ここでは、性・年齢・教養の3つを問題とした。その結果は〔表9〕のとおりである。

〔表9〕についていえば、このように分けてみても、イントネーションの多く現われるところは前に述べてきたところと、もちろん変りがない。さらに、全体としてみれば、性の相違も、年齢の相違も、また教養の相違も、予想したほど、はっきりとは出ていない。これは、意外なことであったが、この結

〔表 9〕 性・年齢・教養別のイントネーションの合計と、その百分率

イントネーション	男	女	壯	若	専	義
1	13(0.54)	8(0.44)	13(0.72)	8(0.33)	7(0.26)	14(0.95)
1 ₁	0(0.00)	1(0.06)	0(0.00)	1(0.04)	1(0.04)	0(0.00)
1 ₂	1(0.04)	3(0.17)	1(0.06)	3(0.13)	3(0.11)	1(0.07)
1 ₃	4(0.17)	0(0.00)	4(0.22)	0(0.00)	0(0.00)	4(0.27)
11	5(0.21)	5(0.28)	5(0.28)	5(0.21)	4(0.15)	6(0.41)
11 ₂	0(0.00)	3(0.17)	0(0.00)	3(0.13)	0(0.00)	3(0.20)
11 ₃	0(0.00)	3(0.17)	0(0.06)	2(0.08)	2(0.07)	1(0.07)
12	10(0.42)	1(0.06)	10(0.55)	1(0.04)	2(0.07)	9(0.61)
13	2(0.08)	3(0.17)	1(0.06)	4(0.17)	5(0.18)	0(0.00)
2	14(0.58)	21(1.17)	11(0.61)	24(1.00)	24(0.88)	11(0.75)
2 ₁	1(0.04)	1(0.06)	1(0.06)	1(0.04)	2(0.07)	0(0.00)
2 ₃	1(0.04)	0(0.00)	1(0.06)	0(0.00)	1(0.04)	0(0.00)
21	67(2.78)	63(3.50)	44(2.42)	86(3.59)	98(3.58)	32(2.18)
21 ₁	0(0.00)	3(0.17)	0(0.00)	3(0.13)	3(0.11)	0(0.00)
21 ₂	7(0.29)	12(0.67)	7(0.39)	12(0.50)	11(0.40)	3(0.54)
22	239(9.92)	143(7.95)	147(8.09)	235(9.82)	282(10.29)	100(6.81)
22 ₁	4(0.17)	4(0.22)	5(0.28)	3(0.13)	3(0.11)	5(0.34)
22 ₃	41(1.70)	20(1.11)	37(2.04)	24(1.00)	30(1.10)	31(2.11)
23	213(8.84)	208(11.56)	188(10.35)	233(9.74)	284(10.37)	137(9.33)
23 ₁	3(0.12)	14(0.78)	7(0.39)	10(0.42)	11(0.40)	6(0.41)
23 ₂	6(0.24)	15(0.84)	10(0.55)	11(0.46)	16(0.58)	5(0.34)
23 ₃	0(0.00)	1(0.06)	0(0.00)	1(0.04)	0(0.00)	1(0.07)
3	1(0.04)	1(0.06)	0(0.00)	2(0.08)	1(0.04)	1(0.07)
31	220(9.14)	313(17.40)	196(10.79)	337(14.09)	181(13.91)	152(10.35)
31 ₁	0(0.00)	4(0.22)	1(0.06)	3(0.13)	1(0.04)	3(0.20)
31 ₂	13(0.54)	40(2.22)	28(1.54)	25(1.05)	31(1.13)	22(1.50)
31 ₃	9(0.37)	5(0.28)	8(0.44)	6(0.25)	9(0.33)	5(0.34)
32	380(15.79)	306(17.01)	247(13.60)	439(18.35)	485(17.70)	201(13.69)
32 ₁	3(0.12)	10(0.56)	8(0.44)	5(0.21)	5(0.18)	8(0.54)
32 ₂	2(0.08)	10(0.56)	5(0.28)	7(0.29)	5(0.18)	7(0.48)
32 ₃	123(5.11)	58(3.22)	93(5.12)	88(3.68)	96(3.50)	85(5.79)
33	1000(41.55)	494(27.46)	723(39.81)	771(32.23)	892(23.56)	602(41.00)
33 ₁	1(0.04)	6(0.33)	2(0.11)	5(0.21)	7(0.26)	0(0.00)
33 ₂	5(0.21)	2(0.11)	2(0.11)	5(0.21)	6(0.22)	1(0.07)
33 ₃	3(0.12)	0(0.00)	3(0.17)	0(0.00)	0(0.00)	3(0.20)
34	9(0.37)	12(0.67)	1(0.06)	20(0.84)	21(0.77)	0(0.00)
4 ₂	0(0.00)	1(0.06)	0(0.00)	1(0.04)	1(0.04)	0(0.00)
42	4(0.17)	3(0.17)	3(0.17)	4(0.17)	7(0.26)	0(0.00)
42 ₃	1(0.04)	0(0.00)	1(0.06)	0(0.00)	0(0.00)	1(0.07)
43	0(0.00)	1(0.06)	0(0.00)	1(0.04)	1(0.04)	0(0.00)
43 ₂	0(0.00)	1(0.06)	0(0.00)	1(0.04)	1(0.04)	0(0.00)
44	2(0.08)	0(0.00)	2(0.11)	0(0.00)	0(0.00)	2(0.14)

果から、そのような条件で分ければ大体同じような割合でイントネーションが用いられるということが、かなりはっきりとしたのである。

もっとも、こまかく見れば、31のところが女に多く男に少ないし、22のところが専に多く義に少ないのが、わずかに目立っている。また、31では女・若・専に多く、22では男・若・専に多い。このようにみれば、31の方は、ある程度、常識に合った結果が出たと言えるであろう。

性・年齢・教養の3つを組合せて8通りに分けても、大した差はないので省略した。

次に、[表8]のうちの文末について、この3つの条件をあてはめてみたのが[表10]である。(2)では男・若・専に多く、(6)では女・若・専に多くなるが、そのほか、(4)においても、男・若・専の多いことが目につく。

[表10] 音の上下の方向と性・年齢・教養

番号	模式	男	女	壮	若	専	義
(1)	・	28	30	24	34	32	26
(2)	→	1248	661	883	1026	1188	721
(3)	↘	422	357	370	409	479	300
(4)	↗	466	403	317	552	617	252
(5)	ㄣ	15	11	14	12	16	10
(6)	ㄣ	228	337	208	357	407	158

224 同一人の場面による相違

調査した10巻のリールのうち、たまたま3人が2巻あるいは3巻に重複して話し手となっている。聞き手がリールごとに相違しており、話し手としては、話す態度や話の内容がそれぞれ異なっていると思われたので、[表11]を作成した。

[表11]についてみると、まずO夫人は、リール67で23のところと0であることに気づく。その他、O夫人では22, 31, 33に、かなりの差がある。また、1, 11がリール79だけに出ていることなどが注目される。次に、S夫人では、

〔表 11〕 同一人の場面による相違

話し手	O氏			O夫人			S夫人	
	61	67	97	61	67	79	86	93
リール番号								
イントネーション								
1						1(1.15)		
1 ₂					1(3.57)	1(1.15)		
11						1(1.15)		
11 ₃								1(0.75)
2								1(0.75)
2 ₁			1(0.96)			1(1.15)		2(1.49)
2 ₃		1(2.63)						
21	6(4.26)	2(5.26)	5(4.81)	1(3.23)	1(3.57)	4(4.60)		5(3.73)
21 ₁						3(3.45)		
21 ₂								
22	23(16.31)	6(15.79)	17(16.35)	5(16.13)	3(10.71)	6(6.90)	3(8.33)	2(1.49)
22 ₁					1(3.57)		1(2.78)	11(8.21)
22 ₃	2(1.42)		3(2.88)					1(0.75)
23	8(5.67)	2(5.26)	8(7.69)	3(9.68)		7(8.05)	6(16.67)	27(20.15)
23 ₁	1(0.71)							1(0.75)
23 ₂	2(1.42)					1(1.15)		
31	26(18.44)	7(18.42)	13(12.50)	3(4.68)	6(21.43)	10(11.49)	4(11.11)	21(15.67)
31 ₂		1(2.63)	1(0.96)			3(3.45)		5(3.73)
31 ₃	2(1.42)	1(2.63)						
32	15(10.64)	6(15.79)	11(10.58)	6(19.35)	6(21.43)	23(26.44)	8(22.22)	20(14.92)
32 ₁					1(3.57)			1(0.75)
32 ₂	1(0.71)							
32 ₃	14(9.93)	4(10.53)	5(4.81)	1(3.23)		2(2.30)	2(5.56)	10(7.46)
33	38(26.95)	7(18.42)	39(37.50)	12(38.71)	8(28.57)	24(27.59)	11(30.55)	23(17.16)
33 ₂		1(2.63)						
34			1(0.96)					
42	3(2.13)				1(3.57)			1(0.75)
43								1(0.75)
43 ₂								1(0.75)
合計	141	38	104	31	28	87	36	134

22にかなりの差がある。また、11, 11₃, 21および42, 43, 43₂がリール93だけに出ていることが注目される。また、O氏では、31, 32, 32₃, 33に、かなりの差がある。

したがって、これらの相違が場面の相違によって起ったのではないかと考えられる。ところが、たまたま、O氏に直接たしかめる機会があったので、発言当時の心持を尋ねたところ、リール61, 67, 97のそれぞれの場合に、自分としては同じような気持で話していたつもりだという答であった。これは

かなり興味のある問題であって、さらに研究すべきものであるが、少なくとも次のことは言える。つまり、この程度の相違は、場面の相違によって起るのではないかも知れないと考えられる一方に、話し手は意識していなくても、聞き手が異なることによって相違が出るのかも知れないと考えられるということである。

ところで、調査担当者が、それぞれのリールについて、話し手相互の関係を調べたところによれば、リール79だけにO夫人が1, 11を使っていることと、リール93だけにS夫人が11, 11₃, 21および42, 43, 43₂を使っていることとは、その理由がかなりはっきりと推察されるのである。またO氏の31における相違もある程度見当がつくように思う。それゆえ、〔表11〕に現われた程度の相違でも、かなり意味のあることだと考えたい。またO氏の答については、かりに話し手が意識していなくても聞き手が異なれば、イントネーションに相違が起るものと考えたい。

225 ラジオのニュース・ニュース解説と日常の談話との比較

日常の談話と比較するため、ここではニュース3巻とニュース解説2巻とについて、調査した。その結果は〔表12〕のとおりである。

〔表 12〕 ニュース・ニュース解説のイントネーションの話し手別分布と百分率

リール番号	110	111	112	小計	113	(%) 114	小計
アナウンサー・解説者	T ₁	K	S ₁		T ₂	S ₂	
イントネーション							
22	5(9.62)	28(53.84)	6(11.76)	39(25.16)	3(7.89)	5(7.93)	8(7.21)
23	7(13.46)	1(1.92)	8(15.69)	16(10.32)	12(31.57)	10(15.87)	22(19.82)
32						1(1.59)	1(0.90)
33	40(76.92)	23(44.23)	37(72.55)	100(64.52)	23(60.51)	47(74.60)	70(63.06)
合計	52	52	51	155	38	63	111

ラジオについては、合計5巻しか調査できなかったので、きわめて小さなものとなったが、比較材料としては、これでも相当程度使えると思う。

表12によっていえば、イントネーションは4種類で、しかも32はニュース

には1回も現われず、わずかに、ニュース解説に1回出たにとどまる。したがって、種類の数の上で大いに相違する。同時に、その百分率も大いに異っている。その理由としては、ニュース・ニュース解説が朗読されたり、語られる形で朗読されたるようなものであるため、話し言葉としても日常の会話とは根本的に違う点があることが考えられる。そのような話し手の態度の違いから、ニュース・ニュース解説の方には1や4のような、特に感情を表現するイントネーションの高さが使われないことも説明されるであろう。

次に、ニュース相互では、K氏が他と違い22が多い。これは、あるいは、K氏の性格（personality）の問題に基づくことかも知れない。

ニュースとニュース解説とでは、ニュースに22が多く、ニュース解説に23が多くなっているが、K氏を除けば、ほぼ同様の百分率を示すことに注目しておきたい。

23 文末文節・文末助詞のイントネーション

231 文末の文節のイントネーション

イントネーションの音の高さだけを問題にして、種々の考察を行なって来たが、さらに進んで、言葉と音の高さとを問題にしてみる。これは、本書の「4 文の構造」とも関係する。

文末の1文節をとり、これに高さを書き加えたものを、1文節が1語から成るもの、2語から成るもの、……と組分け、各組は終りの語の50音順*に並べ、それが同じ場合は順次前にさかのぼって50音順に並べた。

実際にはリール10巻のうちから、さらに番号が2, 3, 86, 93, 100の5巻について調査し、ラジオのニュース・ニュース解説については、110, 111, 112, 113, 114の5巻について調査した。しかし、紙数の関係で、ここでは、リール93の1巻と、ニュースの112, ニュース解説の114の各巻とについての

* 語としては同じで、高さだけが異なるものについては、高さの順序が不同である。表15まで同様。

分だけを、それぞれの見本として掲げるに止める。

なお、ここでは、録音テープを再度聴取して、確かめたので、その際に前回は聞きとれなかったものを聞きとることができたものは加え、また若干の修正すべきものを修正したため、数の上では多少の出入がある。

文末文節についてみれば、日常の談話ではいわゆる感動詞の若干を除いてほとんどが1, 2回ずつしか現われないのに対して、ラジオのニュース・ニュース解説では同じものが何回もかたまって現われるという点で、かなり相違していることが目立つ。

また、1文節が数語から成るものについては、終りの2, 3語が同じだというものが、日常の談話でも、ラジオのニュース・ニュース解説でも、共に多いことも注目される。

〔表 13〕 文末文節のイントネーション (1) — 日常の談話から —

話し手番号				注、かたかなの下につけた数字は、その音節の高さを示す。数字のついてない音節の高さは、その直前の音節の高さと同じである。							
1	2	3	4	文 末 文 節	小 計	1	2	3	4	文 末 文 節	小 計
1				アア 2	1	1				ウチ 2	1
	1			アソコ 3 2	1		1			ウウン 2 3 2	1
		1		アソコ 3	1		1			ウフー 2	1
			1	アソコソチ 3 2	1	1	7	1		ウン 2 3	9
			1	アブナイ 3 2	1		1			ウン 3	1
			1	アラ 2 3	1		2			ウン 2	2
			3	アル 2 3	3	7	2			エエ 2 3	9
			1	イイ 2	1		1			オカネモチ 3 2 1	1
		1		イエ 2 3	1		1			オクサンチ 2 3	1
		1		イクツ 3 2 1	1		1			オフロ 3 2 3	1
			1	イタバシ 3 2 3	1		1			クル 3	1
			1	イチバ 2 3	1		1			コーサク 2 3	1
		1		ウチ 3	1		1			コーバ 3 2	1

1	2	3	4	文 末 文 節	小計	1	2	3	4	文 末 文 節	小計
	1			ゴヨ一キキ 3 2 3	1		2			フン 3 2	2
1				コンド 2 3	1		1			フン 3 1	1
	1			ジュ一ロク 3 2	1		1	2		フ一ン 2	3
		1		スル 2 2	1	1	5	1		フ一ン 3 2	7
			1	ワクワクスル 3 3 1	1			1		フ一ン 4 3 2	1
		1		ゼンゼン 2	1			1	1	フ一ン 4 2	2
1	1	2		ソー 2 3	4			1		フ一ン 2 3	1
			2	ソー 3	2			1		フ一ン 2	1
			1	ソー 3 〃	1			1		ヘ一 2	1
1	1			ソー 2	2		1			ヘ一 3 2	1
		1		ソーオ 2 3 1	1			1		ヘ一 3 2 1	1
			4	1	5			1		ヘ一 2 1	1
1	1			ソーオ 3 2 3	2			1		ホ一 2	1
		1		ソーオ 3 1 2	1		1			ホ一 3 2	1
1				ソート一 2	1			1		マ一 2 3	1
1				ソクシ 3 2	1		1			マツクラ 3 2 3	1
		1		ダカラ 2 3	1			1		ミノヤサン 3 2 3	1
			1	ナンカ 2 3	1			1		ミョ一ジ 3 2	1
	2			ネ 2	2			1		モ一 2 3	1
		2		ネ 1	2			1		モ一 3	1
			2	ハ一 2	2			1		ワタシ 3 2 1	1
			1	ハ一 3 2	1						
			1	ハ一 2 1	1		1			ショ一ガッコー 2 3 3	1
1				ハジメテ 3 2 3	1		1			ナマエ オ 3 2 2	1
1				ヒコーキ 3 2 3	1			1		フジムラサン カ 3 2 3 2	1
1				ヒト 2	1		1			キョ一サンブン ガ 2 3 3	1
		1		フ一 2 3	1		1			ヒコーキ ガ 3 2 3 3	1
1	8			フン 2 3	9			1		シゼンブンショ一 カシラ 3 2 3 3	1

1	2	3	4	文 末 文 節	小計	1	2	3	4	文 末 文 節	小計
	1			イケナイ カラ 3 2 3	1	1				ワケ ネ 3 1	1
1				キ (補)* タ 3 3	1	1				ワケ ネ 3 2	1
	1			カケ チャウ 3 3	1	1				オクサン ネー 3 2 3	1
	1			キ (補) テ 3 3	1		1			ソー ネー 3 2	1
1				デ テ 2 3	1	1				デモ ネー 2 3 2	1
1				ウチ デ 2 3	1	1				ナルホド ネー 2 3 2 3	1
1				トコ デ 3 3	1	1				モン ネー 2 3 2 3	1
1				トコロ デ 3 3 3	1	1				ソー ネー エ 3 2 3	1
	1			フタリ デ 3 2 3 3	1	2				アル ノ 2 3 1	2
	1			ソー デシヨ 2 3 2	1	1				クン ノ 2 3 3	1
1				ニュー デシヨ 3 3 2	1	1				タテル ノ 3 2 3 1	1
1				オカネモチ デス 3 2 3 3	1	1				ツクル ノ 3 3	1
2				ソー デス 2 3 3	2	1				トキ ノ 2 2	1
1				ソー デス 2 3	1	1				ナイ ノ 2 3 3	1
	1			ヒコーシ デス 3 2 3 3	1	1				ナイ ノ 3 3	1
1				ナル (補) ト 3 3	1	1				ハヤイ ノ 3 2 3 3	1
	1			ワカン ナイ 3 2 3 3	1	1				ワルイ ノ ニ 3 2 3 3	1
	1			シ ニ 3 2	1	1				キョーダイ パッカリ 2 3 3 2	1
1				ホー ニ 2 3	1	1				イ マス 2 2 3	1
1				アレ ネ 3 2 2	1	2				ナイ モン 2 3 3	2
	1			コー ネ 3 3	1	1				ナイ モン 2 3	1
	1			スル ネ 3 2 2	1	1				ソー ヨ 2 3 2	1
	1	1		ソー ネ 2 3 2	2	2				ナサイ ヨ 2 3 3	1
1				ソンド ネ 3 2	1	1				トコ ワ 2 3	1
	1			タメダ ネ 3 2 3 2	1						
1				ミンナ ネ 3 2	1	1				アケル デシヨ ー 3 2 3 2 2	1
1				モト ネ 2 3 2	1	4	1	1		アル デシヨ ー 2 3 3 2 2	6

* (補)は補助用言。以下同じ。

1	2	3	4	文 末 文 節	小計
1				アル デシヨ 一 2 3 3 1 1	1
1				アル デシヨ 一 3 3 2 2	1
1				アン デシヨ 一 2 3 3 2 2	1
1				アン デシヨ 一 2 3 3 1 1	1
1				アン デシヨ 一 3 3 3 3 3	1
1				アン デシヨ 一 3 3 2 2	1
	1			イイ デシヨ 一 2 3 3 3 3	1
1				イイ デシヨ 一 3 3 2 2	1
2				イク デシヨ 一 3 2 3 2 2	2
1				イク デシヨ 一 3 2 2 2	1
2				イク デシヨ 一 3 2 2 2	2
	1			イッパイ デシヨ 一 3 2 2 1 1	1
1				イル デシヨ 一 3 3 2 2	1
1				オリル デシヨ 一 3 2 3 3 2 2	1
	2			カウ デシヨ 一 3 3 1 1	2
1				クル デシヨ 一 2 3 3 3	1
1				クル (補) デシヨ 一 2 3 3 2 2	1
1				コール デシヨ 一 2 3 3 3	1
1				コワレル デシヨ 一 3 2 3 3 2 2	1
1				サンビヤクエン デシヨ 一 2 3 3 3 2 2	1
1				セイト デシヨ 一 2 3 3 1 1	1
1				チイサイ デシヨ 一 2 3 3 3 1 1	1
1				チッチャイ デシヨ 一 3 3 2 3 3 2 2	1
1				ナイ デシヨ 一 2 3 3 2 2	1
1				ナカ デシヨ 一 2 3 3 2 2	1
2				フル デシヨ 一 3 3 2 2	2
1				ヤル デシヨ 一 3 3 2 2	1
1				オオイ デス 2 3 3 3	1

1	2	3	4	文 末 文 節	小計
	2			ソー デス カ 2 3 3 3	2
	1			ワルイ ノ カシラ 3 2 3 3 3	1
	1			オリ ラレル カシラ 3 2 2 3 3	1
1				ミンナ ガ サ一 2 3 3 2 3	1
1				カカル ケド サ一 3 2 3 3 2 3	1
1				ツッコン ジャツ タ 3 2 3 3 3	1
1				ナン テツ タツケ 2 3 3 3	1
1				アル ン デス 3 3 3 3	1
1				ツカウ ン デス 3 2 3 3 3	1
1				デキル ン デス 3 2 3 3 3	1
2				ナイ ン デス 2 3 3 3	2
	1			ドー カ ナ 2 2 2 2	1
1				ナカ エ ネ 2 3 3 2	1
1				ナマエ オ ネ 2 2 2 2	1
1				ウチ ガ ネ 3 3 2 2	1
1				アル カラ ネ 2 3 3 2	1
	1			ミエ ッパリダ カラ ネ 3 2 3 3 2 2	1
1				オッカナグツ テ ネ 3 2 3 3 3 2	1
1				ダシ テ ネ 2 3 3 2	1
1				アレ デ ネ 3 3 2 2	1
	1			イミ デ ネ 2 3 3 2	1
	1			コゾー ドー シ デ ネ 3 2 3 3 3 2	1
	1			シンヨ 一 デ ネ 3 2 2 1 1	1
1				ヨビタイ デ ネ 2 3 3 2 2	1
1				スゴイ デス ネ 3 2 3 3 2	1
	1			ソー デス ネ 2 3 3 2	1
1				モ ン デス ネ 3 3 3 2	1
	1			ヨク ナイ ネ 2 3 3 2	1

1	2	3	4	文 末 文 節	小計
1	ワ	カ	ン	ナ イ ネ	1
	3	2	3	3 2	
1	ア	ル	ノ	ネ	1
	2	3	3	2 3 2	
1	ナ	ル	(補)	ノ ネ	1
	2	3	3	3 2	
1	マ	ジ	メ	ナ ノ ネ	1
	3	2	1	2 3 2	
1	ヤ	マ	ム	ラ サ ン モ ネ	1
	3	2	2	2 2 1	
1	ア	ウ	ラ	シ イ ネ	1
	2	3	3	3 2	
1	オ	オ	イ	ワ ネ	1
	3	2	3	2 3 2	
1	モ	ト	ワ	ネ	1
	2	3	3	2 3 2	
1	ハ	ズ	カ	シ イ カ ラ ネ	1
	3	2	3	3 3 2 3	
1	オ	モ	ウ	ケ ヲ ネ	1
	3	2	3	3 3 2 3	
1	ノ	ツ	タ	ノ	1
	3	2	3	3 2 3	
1	ハ	イ	ツ	タ ノ	1
	2	3	3	3 1	
1	イ	ツ	テ	ル ノ	1
	3	3	3	3 2	
1	ソ	ー	ナ	ノ	1
	2	3	3	3 3	
1	ソ	ー	ナ	ノ	1
	3	1	3	3 3	
1	ソ	ー	ナ	ノ	1
	3	1	2	2 3	
1	モ	ッ	テ	マ ス	1
	2	3	3	3 3	
1	コ	ー	パ	ダ モ ン	1
	3	2	3	3 3	
1	ジ	ュ	ー	イ チ ニ ン デ ス モ ノ	1
	2	3	3	3 3 3	
1	ア	ン	デ	ス ヨ	1
	2	3	3	3 3	
1	イ	ソ	ガ	シ イ デ ス ヨ	1
	2	3	3	3 3 2	
1	オ	ッ	コ	チ ン デ ス ヨ	1
	3	2	3	3 3 3	
1	キ	レ	ー	デ ス ヨ	1
	2	3	3	3 2	
1	ク	ン	デ	ス ヨ	1
	2	3	3	3 2	
2	シ	ン	ダ	イ デ ス ヨ	2
	2	2	3	3 3 3	
1	タ	イ	ソ	ー デ ス ヨ	1
	3	2	2	3 3 3	
1	タ	ダ	デ	ス ヨ	1
	2	3	3	3 3	
1	ナ	イ	デ	ス ヨ	1
	2	3	3	3 3	

1	2	3	4	文 末 文 節	小計	
1	ナ	イ	デ	ス ヨ	1	
	1	3	3	3 3		
1	ホ	ー	デ	ス ヨ	1	
	3	3	3	3 3		
1	ム	ゲン	デ	ス ヨ	1	
	3	2	3	3 3 3		
1	ヨ	ン	マ	ン エ ン デ ス ヨ	1	
	2	2	2	3 3 3		
1	ワ	ケ	デ	ス ヨ	1	
	3	3	3	3 3		
1	イ	ク	ノ	ヨ	1	
	3	2	3	3 3		
1	ナ	イ	ノ	ヨ	1	
	3	3	3	3 3		
1	イ	マ	ス	ヨ	1	
	2	2	3	3 3		
1	オ	レ	マ	ス ヨ	1	
	3	3	3	3 3		
1	デ	マ	ス	ヨ	1	
	3	2	3	3 3		
1	ク	ル	ワ	ヨ	1	
	2	3	3	3 2		
1	ク	ル	ワ	ヨ	1	
	3	3	3	3 2		
1	ア	ッ	タ	ワ	1	
	2	3	3	3 2		
1	ヘ	ン	デ	ワ	1	
	2	2	3	3 3		
1	シ	ッ	テ	ル ワ	1	
	3	3	3	3 2		
1	ユ	ー	ノ	ワ	1	
	2	3	3	3 3		
1	ナ	ル	ン	ダ	ロ	1
	3	3	3	3 3		
1	ナ	ン	カ	デ	シ	1
	2	3	3	3 2	2	
1	ア	ッ	タ	デ	シ	1
	2	3	3	3 3	3	
1	イ	タ	デ	シ	1	
	3	3	3	3 2	2	
1	イ	ッ	タ	デ	シ	1
	2	3	3	3 2	2	
1	イ	ッ	タ	デ	シ	1
	3	3	3	3 2	2	
1	オ	モ	シ	ロ	カ	1
	3	2	3	3 3	3 3	
1	カ	カ	ッ	タ	デ	1
	2	3	3	3 2	2	
1	カ	ッ	タ	デ	シ	1
	3	3	3	3 3	3	
1	デ	キ	タ	デ	シ	1
	2	3	3	3 2	2	
1	デ	タ	デ	シ	1	
	2	3	3	3 3	3	

1	2	3	4	文 末 文 節	小計
1	ナ	ッ	チャウ	デシヨ一	1
	3	3	3	3 1	
1	ム	イ	テル	デシヨ一	1
	3	2	3	3 1	
1	デ	テン	デシヨ一	1	
	2	3	3	3 2	
1	ワ	カン	ナイ	デシヨ一	1
	3	2	3	3 2	
1	イ	ル	ン	デシヨ一	1
	2	3	3	3 3	
1	イ	ル	ン	デス	1
	3	3	3	3 3	
1	ユ	ー	ン	デス	1
	3	3	3	3 2	
1	イ	キ	テン	ノ	1
	2	3	3	3 3	
1	ア	タ	ラ	シ	1
	3	2	3	3 3	
1	オ	モ	ウ	ン	1
	3	3	3	3 3	
1	ワ	カ	ン	ナイ	1
	3	2	3	3 3	
1	シ	ラ	ナ	ク	1
	3	2	2	3 3	
1	シ	ッ	テル	ケ	1
	2	2	2	3 2 3	
1	シ	ダ	ン	デス	1
	3	3	3	3 3	
1	ヒ	ロ	ゲ	タ	1
	3	2	2	3 3	
1	オ	ケ	ナ	イ	1
	3	3	3	3 3	
1	オ	フ	ロ	ナ	1
	3	3	3	3 3	
1	シ	ロ	ー	ト	1
	2	3	3	3 3	
1	シ	ナ	イ	モ	1
	2	2	3	3 2	
1	ナ	ン	テ	ダ	1
	2	3	3	3 3	
1	ワ	カ	イ	ン	1
	3	3	3	3 2 3	
1	イ	イ	デ	シ	1
	3	3	3	3 2	
1	ク	ル	デ	シ	1
	2	3	3	3 3	
1	ソ	ー	デ	シ	1
	2	3	3	3 1	
1	ス	グ	ダ	カ	1
	2	3	3	3 2	
1	イ	ッ	タ	ケ	1
	3	2	3	3 2	
1	シ	ン	デ	ス	1
	2	3	3	3 2	
1	ハ	ヤ	サ	ダ	1
	2	3	3	3 3	

1	2	3	4	文 末 文 節	小計
1	ナ	ッ	(補) チャ	ッ	1
	2	3	3	3 2	
1	ワ	ス	レ	チャ	1
	3	2	2	3 2	
1	イ	ナ	イ	デ	1
	3	2	3	3 2	
1	ク	ラ	シ	イ	1
	3	2	2	3 3	
1	ハ	ヤ	イ	ラ	1
	3	2	2	3 3	
1	シ	ン	ケ	ン	1
	2	2	2	3 3	
1	ト	ー	レ	ナ	1
	2	3	3	3 2	
1	ワ	ル	イ	ラ	1
	3	2	2	3 3	
1	ア	ッ	タ	ワ	1
	2	3	3	3 2	
1	ソ	ー	ダ	ワ	1
	2	3	3	3 2	
1	ナ	ッ	チャ	ウ	1
	3	3	3	3 1	
1	ワ	カ	ッ	チャ	1
	3	2	3	3 3	
1	ソ	ー	デ	ス	1
	2	3	3	3 2	
1	カ	チ	ア	ワ	1
	2	2	2	3 3	
1	シ	ッ	テ	ル	1
	3	2	3	3 3	
1	ナ	イ	チャ	ッ	1
	3	3	3	3 2	
1	ヨ	カ	ッ	タ	1
	2	3	3	3 3	
1	ナ	イ	デ	ス	1
	2	3	3	3 2 3	
1	ア	ル	ワ	ヨ	1
	2	3	3	3 2 3	
1	ナ	イ	ワ	ヨ	1
	2	3	3	3 2	
1	ウ	チ	ダ	ワ	1
	3	3	3	2 3	
1	ソ	ー	ダ	ワ	1
	2	3	3	2 3	
1	ナ	ン	カ	ワ	1
	2	3	3	1 3	
1	イ	ジ	ク	ッ	1
	3	2	3	3 3	
1	ウ	イ	テ	ン	1
	2	2	3	3 3	
1	ツ	ラ	イ	テ	1
	3	2	2	3 3	
1	ヤ	ッ	テ	ン	1
	3	2	3	3 3	
1	キ	カ	ナ	イ	1
	3	2	2	3 3	

1	2	3	4	文 末 文 節	小計
1	キ	カ	ナ	イ デ ス ヨ	3
1	ア	ク	ン	デ ス ヨ	3
1	ア	ル	ン	デ ス ヨ	3
1	イ	ク	ン	デ ス ヨ	3
1	イ	ク	ン	デ ス ヨ	3
1	オ	キ	ル	ン デ ス ヨ	3
1	キ	ル	ン	デ ス ヨ	3
1	ク	ル	ン	デ ス ヨ	3
1	ス	ゴ	イ	ン デ ス ヨ	3
1	ス	ゴ	イ	ン デ ス ヨ	2
1	ス	ル	ン	デ ス ヨ	3
1	ダ	ス	ン	デ ス ヨ	2
1	ナ	イ	ン	デ ス ヨ	3
1	チ	イ	ン	デ ス ヨ	3
2	ナ	イ	ン	デ ス ヨ	3
1	ナ	イ	ン	デ ス ヨ	2
1	ハ	イ	ル	ン デ ス ヨ	3
1	ブ	ツ	カ	ル ン デ ス ヨ	3
1	ホ	ソ	ナ	ガ イ ン デ ス ヨ	3
1	ヤ	ル	ン	デ ス ヨ	3
1	ユ	ー	ン	デ ス ヨ	3
4	ユ	ー	ン	デ ス ヨ	3
1	シ	ッ	テ	マ ス ヨ	3
1	ツ	カ	ッ	テ マ ス ヨ	3
1	デ	テ	タ	デ シ ヨ	2
1	イ	ワ	レ	タ デ シ ヨ	2
1	ヤ	ラ	レ	タ デ シ ヨ	1

1	2	3	4	文 末 文 節	小計
1	カ	ッ	タ	ン デ シ ヨ	2
1	モ	ラ	エ	ナ イ ン デ シ ヨ	1
1	ア	ガ	ル	ン デ ス ヨ	3
1	イ	ッ	チャ	ッ タ ン デ ス	3
1	ウ	カ	ッ	チャ ッ タ ン デ ス	3
1	ダ	シ	チャ	ッ タ ン デ ス	3
1	イ	リ	マ	セ ン ワ ナ ン テ	3
1	ハ	イ	ッ	チャ ッ テ ル カ ラ ネ	3
1	ヤ	ッ	タ	ラ シ イ ケ ド ネ	2
1	イ	ッ	テ	ル ラ シ イ ケ ド ネ	2
1	オ	ツ	ツ	カ ナ イ ン ダ ネ	2
1	ヒ	ト	ダ	ケ ダ モ ン ネ	2
1	ア	ッ	タ	ラ シ イ モ ン ネ	2
1	ナ	ッ	テ	ン デ ス ヨ	2
1	ミ	チ	ヤ	イ マ ス ヨ	2
1	キ	テ	マ	シ タ ヨ	3
1	ノ	ン	ジ	ヤ ウ ン デ ス ヨ	3
1	ア	ッ	タ	ン デ ス ヨ	3
1	キ	タ	ン	デ ス ヨ	3
1	カ	ブ	リ	ツ イ タ ン デ ス ヨ	3
1	シ	タ	ン	デ ス ヨ	3
1	セ	メ	タ	ン デ ス ヨ	3
1	ナ	カ	ッ	タ ン デ ス ヨ	3
1	ハ	ヤ	ッ	タ ン デ ス ヨ	3
1	ム	イ	タ	ン デ ス ヨ	3
1	ヤ	ッ	タ	ン デ ス ヨ	2
1	カ	ケ	チャ	ウ ン デ ス ヨ	3
1	シ	チ	ヤ	ウ ン デ ス ヨ	2

1 2 3 4	文末文節	小計	1 2 3 4	文末文節	小計
1	タベチャウンデスヨ 2 3 3 3 3 3	1	1	ウチダツタシ 3 3 3 3 3 3	1
1	ウツチャウンデスヨ 3 3 3 3 3 3	1	1	キクスイダツタシ 3 2 3 3 3 3	1
1	デテルンデスヨ 2 3 3 3 3 3	1	1	モリダツタシ 3 2 3 3 3 3	1
1	ヤツテルンデスヨ 3 2 3 3 3 3	1	1	ヤマダツタシ 3 2 3 3 3 3	1
1	アレナンデスヨ 3 2 2 3 3 3	1	1	ウレチャツタシ 3 2 3 3 3 3	1
2	カキイレナンデスヨ 3 2 2 3 3 3	2	1	ヤツチャツタシ 3 2 2 3 3 3	1
2	ワケナンデスヨ 2 3 3 3 3 3	2	1	イツテタシ 2 2 3 3 3 3	1
1	イケナインデスヨ 3 2 2 3 3 3	1	1	ヤツテタシ 3 2 3 3 3 3	1
1	コワレナインデスヨ 3 2 3 3 3 3	1	1	シナカッタシ 3 2 3 3 3 3	1
1	ダサナインデスヨ 3 2 3 3 3 3	1	1	ツカナカッタシ 2 2 3 3 3 3	1
1	シタシ 3 3 3 3 3 3	1	1	トーレナカッタシ 2 3 3 3 3 3	1
1	キタバツカリダモンナ 3 2 3 2 3 3 2	1	1	イワレタシ 3 2 2 3 3 3	1
1	タテタシカラネ 2 3 3 3 3 2	1	1	オリラレナイシ 3 2 2 3 3 3	1
1	オチチャウンデスモノネ 2 3 3 3 3 2	1	1	ネラレナイシ 3 2 2 3 3 3	1
1	マトメタシ 3 2 2 3 3 3	1	1	オドロカサレタシ 3 2 2 2 3 3	1

〔表 14〕 文末文節のイントネーション(2)—ラジオのニュースから—

文末文節	小計	文末文節	小計
アル(補) 3	4	アリ(補) 3	5
イル(補) 2	2	アリ(補) 2 2 3	1
エービーキョードー 3 2 3	1	イタシ(補) 2 2 3	2
カンガエル 3 2 3	1	オリ(補) 3 2 3	1
フクオカホーソークョクハツ 3 2 3 2 3 2 3	1	オリ(補) 3 3	1
		オリ(補) 3	1
アロ 3 3	1	2	2
アツ(補) タ 2 3	1	イイワタシ 3 2 2 3 3	1
キタ 3 3	1	オコナイ 3 2 2 3 3	1
シタ 3 3	1	オリ(補) 3 3 3	1

文末文節	小計	文末文節	小計
キ マシ タ 3 3 3	1	ム カ エ マシ タ 3 2 2 3 3	1
コ タ エ マシ タ 3 2 2 2	1	オ ヨ ビ マ セ ソ 3 2 2 3	1
ゴザイ (補) マシ タ 3 2 2 3 3	1	ミ ラ レ マシ タ 3 2 2 2	1
シ マシ タ 2 2 3 3	4	オ ク ラ レ マシ タ 3 2 2 2 3 3	1
シ マシ タ 3 3 3	1	オ コ ナ ワ レ マシ タ 3 2 2 2 3 3	1
ナリ (補) マシ タ 3 3 3	2	サ レ マシ タ 2 2 2 3 3	1
ノベ マシ タ 3 2 2 3 3	3	ヒ ラ カ レ マシ タ 3 2 2 2 3 3	1
ノベ マシ タ 3 2 2 2	1	マ キ コ マ レ マシ タ 3 2 2 2 3 3	1
フ ミ マシ タ 3 2 2 3 3	1		
ム カ イ マシ タ 3 2 2 3 3	1		

〔表 15〕 文末文節のイントネーション(3)ーラジオのニュース解説からー

文末文節	小計	文末文節	小計
アル (補) 2 3	1	シ ナ イ 3 2	1
ウ シ ナ ウ 3 2 3	1	ス ギ ナ イ 3 2 3	1
コ ン バ ン ワ 3 2	1	ナ ラ (補) ナ イ 3 2 3	1
サ ヨ ー ナ ラ 3 2 3	1	ア リ マ ス 3 3	2
ス ル 3 2	1	ア リ (補) マ ス 3 3	12
ス ル 3	1	ア リ (補) マ ス 2	1
デ キ ル 3 2 3	1	オ リ (補) マ ス 3 3	11
ナ ル (補) 2 3	1	オ リ (補) マ ス 2 2	1
ア タ エ タ 3 3	1	オ ワ リ マ ス 2 3	1
ホ ー リ ッ ツ デ ス 2 2 3	1	ナ リ (補) マ ス 3 3	2
モ ノ デ ス 3 3	1	ア リ マシ タ 3 2 2 3 3	1
アル (補) ト 2 3 3	1	シ マシ タ 2 2 3 3	1
デ キ ル ト 3 2 3 3	1	ナ リ (補) マシ タ 2 2 3 3	1
イ (補) ナ イ 2	1	ノ コ リ マシ タ 3 2 2 3 3	1
オ コ リ エ ナ イ 3 2 3	1	イ ル (補) ソ ー デ ス 3 2 2 3 3	1

文末文節	小計	文末文節	小計
ト ₃ ソー ₂ デス ₃	1	サ ₃ レ ₂ マシ ₃ タ ₃	1
イル (補) ₂ ノ ₃ デス ₃	1	ナク ₃ ナッ ₂ タ ₃ ノ ₂ ダ ₃	1
スル ₃ ノ ₃ デス ₃	1	ホー ₂ リッ ₂ ナ ₂ ノ ₃ デス ₃	1
オモ ₃ ワ ₂ レ ₂ マス ₃	1	カン ₃ ガエ ₂ ラレ ₂ マセ ₂ ソ ₃	1
サ ₂ レ ₂ マス ₃	1		
		キ ₂ (補) タ ₂ ノ ₃ デシ ₃ タ ₃	1

232 文末の助詞のイントネーション

文末文節の表をみると、文末にくる助詞の種類は比較的少く、1つの助詞が何回も用いられていることが目立つ。ここではリール5巻* について、いわゆる終助詞ばかりでなく、文末に助詞が来た場合には、これをすべてとり上げて、イントネーションと話し手別、性・年齢・教養別の分布を調べた。その結果は表16のとおりである。

また、文末の助詞の音の高さを記すに当っては、それに先行する1音節の高さをつけ加えた。その先行音節の高さと文末の助詞の高さとを合せた高さを、かりに、その文末の助詞のイントネーションとして扱った。

[表16]についてみると、1つで最も多いのは、ネ_{3 2} (263回)、次いで ヨ_{3 3} (226) カ_{3 3} (78)、ネー_{3 2 3} (58)、ノ_{3 3} (57) の順となる。音の高さを無視しても、ネが最も多く、順位5までをとれば、すべてが終助詞あるいは間投助詞である。

「4 文の構造」で、倒置の文が多いもので約1割**になるようだが、その影響が文末助詞の5つにまでは及んでいないことと考えられる。

なお、ヨ_{3 2}では、男女の差が相当現れている。

* 5巻のリールは、231と同様、2, 3, 86, 93, 100 である。

** この報告の41参照。

[表 16] 文末助詞のイントネーションの話し手別分布

(注) 語としては同じで、音の高さだけが異なるるのについては、高さの順序が不同である。

リール 番号	2					3		86				93				100								男		女					
	1	2	3	4	5	6	1	2	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	5	6	8	専	義	専	義					
								1					1				1	1							2			1			
																1				1								1			
								1					1							1				1	1		1				
																											1				
								1	1				1	1										1				1			
	1	1					3		1	2	6	9	3	4					1	6	2	0	1	2	カ ₃ カ ₃	26	15	5	23	3	6
	1						1																カ ₂ カ ₂	1			1				
	1												2	1	1							カ ₂ カ ₂	2	2		2	1	1			
													2	2			1	3			2		2			カ ₃ カ ₁			6	2	
													1									カ ₃ カ ₂						1			
																						カ ₃ カ ₂									
																						ガ ₂ ガ ₁									
																						ガ ₃ ガ ₃									
																						ガ ₂ ガ ₂	2	2	2	1	2				
																						ガ ₂ ガ ₂	2	1		1	1				
																						ガ ₂ ガ ₂						1			
	1																					ガ ₂ ガ ₁						1			
																						カ ₂ シラ		1							
																						カ ₃ シラ						4			
																						カ ₂ シラ	2	1		1	1				
																						カ ₃ シラ	2			1	8				
																						カ ₃ シラ	2				1				
																						カラ	2								
																						カラ	4	4		3	3				
																						ケ ₃ ケ ₃		1							
																						ケ ₂ ド						1			
	1	1					9	1														ケ ₃ ド	1				12				
																						ケ ₃ ド						1			

リール番号	2					3				86				93				100								男		女		
	1	2	3	4	5	6	1	2	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	5	6	8	壮	若	壮	若
話し番号	1	2	3	4	5	6	1	2	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	5	6	8	専義	専義	専義	専義
					1																									1
								2																						2
								1																						1
									1																		1			
									3		1		1		1	1											4	1		1
									1																		1			

リール 番号	2					3		86				93				100								男		女	
	1	2	3	4	5	6	1	2	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	5	6	8	壮	若	壮	若	
話し 番号	1	2	3	4	5	6	1	2	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	5	6	8	専	義	専	義	
							1																1				
	1																									1	
	1						2	1					1	1			1						2		1	3	
							1																			1	
							1						3												1	1	
					1																				3	1	
											1												1				
	1						1	1																		1	
	7	1					2		1	1							1	1	1				1	1	1	2	
	1						1	2				1													2	2	
	12	2	3	6			13	4	5	2			7	2	2							3	2	4	7	5	
									1																1		
	1						1	2																	2	5	
	1	10					3	3	12	17	4	7	5				8	3	4		4	2	6	2	7	5	
									1																	1	
									1																1		
	2																									2	
									1																	1	
																										1	
	1																									1	
																										1	
	1																									2	
							1																			1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	
																										1	

リール 番号 話し 手 番号	2					3	86				93				100								男		女			
	1	2	3	4	5	6	1	2	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	5	6	8	専	義	専	義		
	1		1	2		6							2														12	
			1			1	19	1	1				2										19	1	1		2	2
	1				1	1		2	1		1													2	1		4	
																	1										1	
					1																						1	
							2																2					
																	1										1	
																											1	

3 文・文節・語の長さ

31 文の長さ

文の長さを調査するために用いた資料は、日常談話の資料としては、

Reel No 2, 3, 15, 24, 59, 61, 62, 66,
67, 70, 76, 79, 86, 87, 88, 97, 98, 100

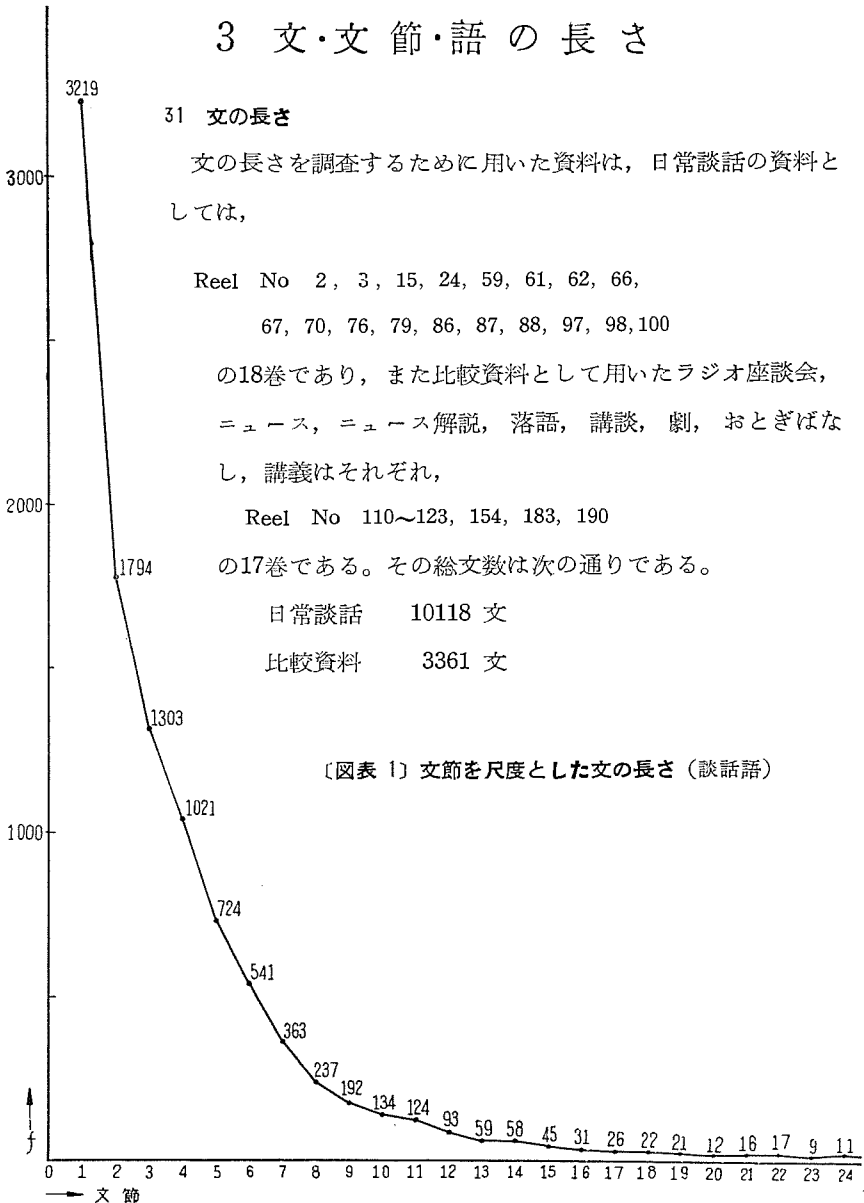
の18巻であり、また比較資料として用いたラジオ座談会、ニュース、ニュース解説、落語、講談、劇、おとぎばなし、講義はそれぞれ、

Reel No 110~123, 154, 183, 190

の17巻である。その総文数は次の通りである。

日常談話	10118 文
比較資料	3361 文

〔図表 1〕 文節を尺度とした文の長さ（談話語）



311 文節を尺度とした文の長さ

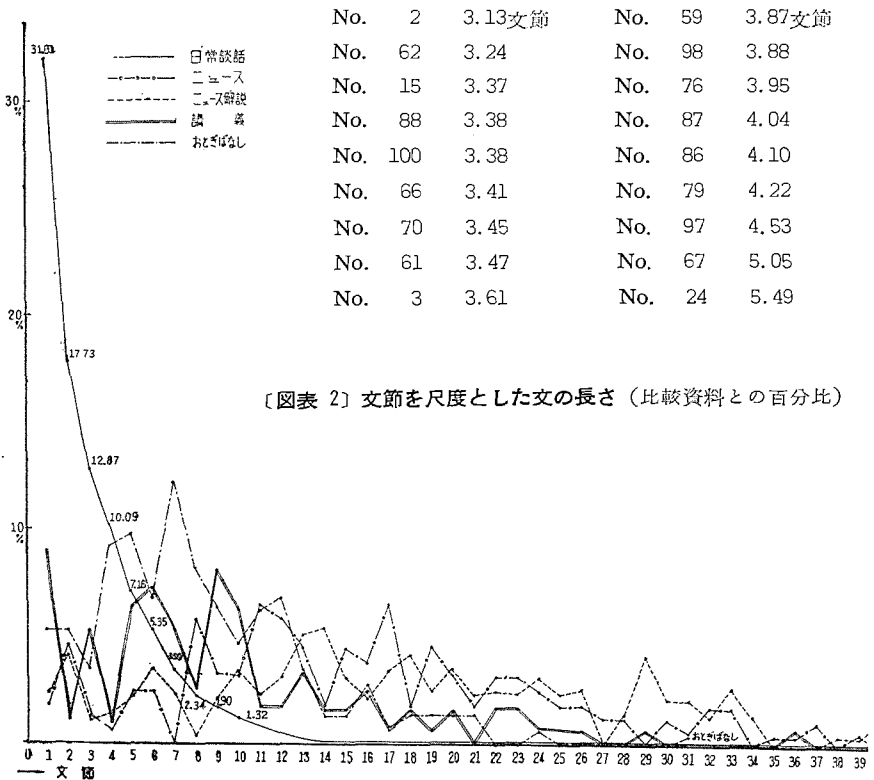
日常談話の資料における文の長さは文節を尺度とした場合〔図表1〕のようになる。

すなわち、非対称型のいわゆる「しの字型」の度数分布を示し、1文節文の数は3219文であって、全文数の約3分の1（31.81%）を示している、その内容が呼びかけ、応答、問投などの語であることを予想させる。また1文節文、2文節文の合計は全文数の約半数（49.54%）に達し、全文数の約4分の3（72.5%）までが4文節以内の文であることが知られる。一般に日常談話語の文は短いという印象を持たれているが、それは平均して短いと同時に1文1文が短いという構造に負っているところが多いであろう。このことは日常談話の文の大きな特質の一つと考えられ、比較資料としてのニュース、ニュース解説その他と対比してみると、大きな差異を示す。

〔図表2〕のうち、ニュース・ニュース解説に例をとってみると、ここでは日常談話の文に多くあらわれた1文節文は、それぞれ全文の1.98%、2.04%すなわち2%前後を示すに過ぎない。また4文節以内の文は日常談話の文では約

75%を示していたのに対して、ニュース8.57%、ニュース解説8.67%で、両者ともほぼ8%強を示すに過ぎないことは注目される。度数分布の型も日常談話の文では「しの字型」であったのに対して、ここでは不規則な「のこぎり型」を示していて、度数の最も高い文節も日常談話の1文節に対して、ニュースは17文節文、ニュース解説は14文節文に移っている。なお日常談話の文にあらわれた最長文節文は50文節文であり、ニュース51文節文、ニュース解説79文節文であった。

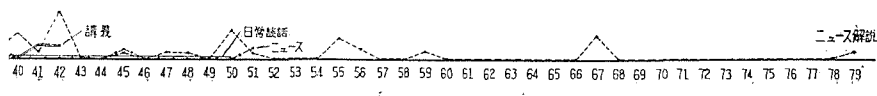
日常談話の資料にあらわれた1文の長さの平均は3.81文節であり、ほぼ4文節弱を示している。各巻による差異は、



を示し、最低3.13、最高5.49。なお文節を単位として文を計る作業はこのような操作によらないでも、二つの数取器を用いて生の会話から計ることも可能なので、その方法によって他の若干の談話について調査した結果、ほぼ最低最高の幅の中で4文節前後にあらわれることが再認された。これに対して、比較資料としての17巻の1文における平均文節数は次の通りである。

落語	4.04文節 (会話 3.88, 地の文 7.42)
講談	5.04 (会話 4.65, 地の文 7.50)
座談会 (5巻)	5.49
劇	5.62
おとぎばなし	8.34
講義	9.31
ニュース (3巻)	16.48
ニュース解説 (4巻)	21.02

すなわち、これらのすべては、日常談話の平均文節数を上回っている。しかし、落語の会話の部分は、日常談話の平均文節数とほぼ同じであり、講談の会話の部分は日常談話の資料のあるものにも見られるものである。また座談会の平均文節数は日常談話の資料の最高と同じであり、劇の平均文節数はそれよりやや上回るに過ぎず、それらと日常談話の平均文節数との間の差異はさほどはなはだしくはない。それに対して、ニュース・ニュース解説の平均文節数は日常談話のそれと比べて、顕著な差異を示している。日常談話の平均文節数3.81に対して、ニュースの平均文節数16.48は約4倍強に当り、ニュース解説の21.02は6倍弱に当る。すでに知られている新聞文章の1文平均文節数18.8とともに、日常談話の文の長さや較べて、これらはきわめて長いといえることができる。落語、講談における地の文、おとぎばなし、講義の平均文節数は、日常談話とニュース・ニュース解説との中間の長さであ



り、日常談話のそれに近接している。

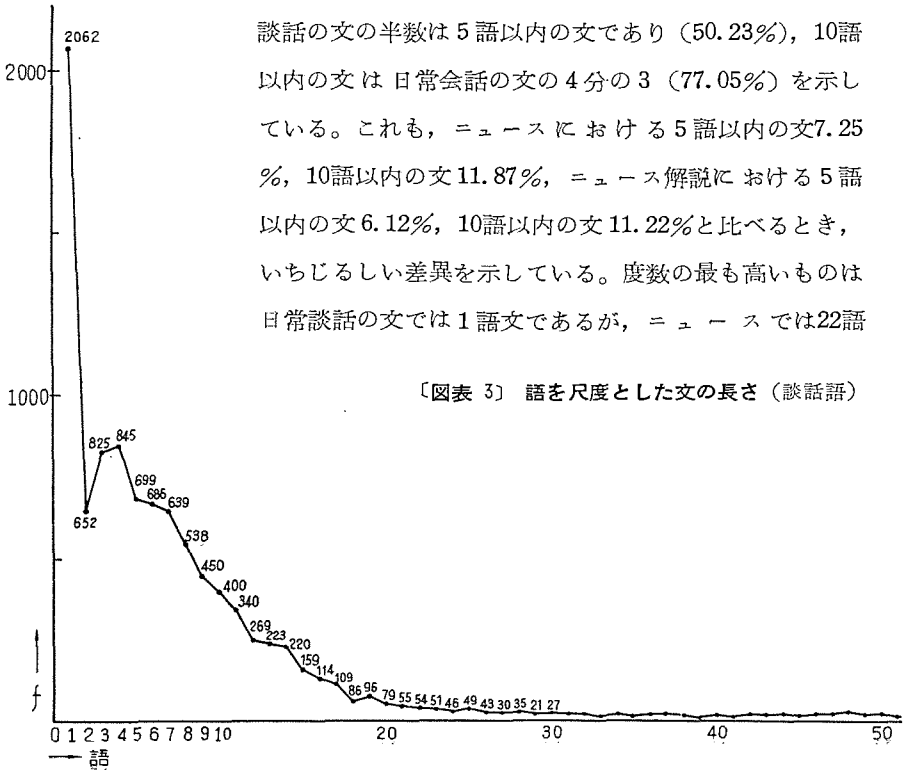
312 語を尺度とした文の長さ

語を尺度とした日常談話の文の長さは〔図表3〕の通りである。

これによれば、度数の最も多いものは1語文の2062であり、2語文が6位にあることを除けば、3語文、4語文がほぼ近似し、ついで5語文、6語文、7語文、8語文とその度数はおおむね漸減している。

文節を単位とした場合1文節文は3219であったが、いま1語文の2062と対比してみると、1文節文の60%強が自立語1つでできていることがわかる。

また、1語文の度数2062は全文数の20.38%に当り、ニュースの1.32%、ニュース解説の1.53%に比べて、いちじるしく高い。日常談話の文の半数は5語以内の文であり(50.23%)、10語以内の文は日常会話の文の4分の3(77.05%)を示している。これも、ニュースにおける5語以内の文7.25%、10語以内の文11.87%、ニュース解説における5語以内の文6.12%、10語以内の文11.22%と比べると、いちじるしい差異を示している。度数の最も高いものは日常談話の文では1語文であるが、ニュースでは22語



〔図表 3〕 語を尺度とした文の長さ (談話語)

文、ニュース解説では7語文となっている。なお、日常談話の最長語文は10語文であり、ニュース97語文、ニュース解説は149語文となっている。

〔図表 4〕 語を尺度とした文の長さ（ニュース）

最長語文は97語文であり、51語文以下は次のようにあらわれる。

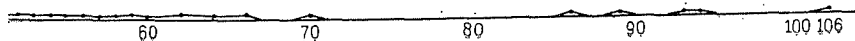
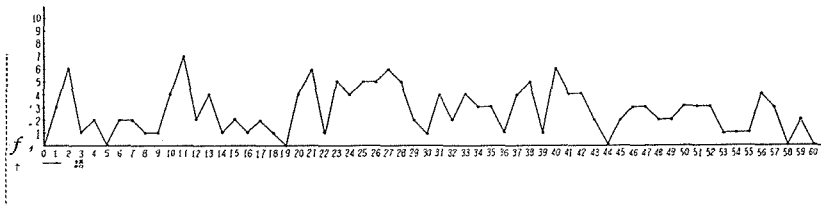
51語文—1	61語文—0	82語文—1
52 " —1	62 " —0	97語文—1
53 " —1	63 " —1	
54 " —1	64 " —1	
55 " —2	65 " —0	
56 " —1	66 " —0	
57 " —0	67 " —2	
58 " —0	68 " —0	
59 " —1	69 " —0	
60 " —2	70 " —0	



〔図表 5〕 語を尺度とした文の長さ（ニュース解説）

最長語文は149語文であり、61語文以下は次のようにあらわれる。

61語文—3	71語文—2	81語文—0	91語文—0	101語文—0	120語文—1
62 " —1	72 " —0	82 " —1	92 " —1	102 " —1	129 " —1
63 " —0	73 " —1	83 " —0	93 " —0	103 " —0	149 " —1
64 " —0	74 " —0	84 " —0	94 " —1	104 " —1	
65 " —0	75 " —0	85 " —1	95 " —0	105 " —0	
66 " —2	76 " —1	86 " —1	96 " —0	106 " —0	
67 " —2	77 " —1	87 " —0	97 " —1	107 " —1	
68 " —1	78 " —0	88 " —1	98 " —2	108 " —0	
69 " —2	79 " —1	89 " —0	99 " —0	109 " —1	
70 " —1	80 " —0	90 " —0	100 " —0	110 " —0	



日常談話の資料にあらわれた1文の平均の長さは7.66語であり、ほぼ6～8語とみられる。各巻による差異は、

No.	2	6.12	No.	87	7.63
No.	15	6.36	No.	98	7.72
No.	66	6.60	No.	76	7.91
No.	100	6.64	No.	59	8.22
No.	62	6.75	No.	79	8.57
No.	70	6.83	No.	86	8.81
No.	88	6.97	No.	97	9.00
No.	3	6.97	No.	67	10.23
No.	61	7.33	No.	24	10.78

を示し、最低6.12、最高10.78。なお、さきあげた1文における平均文節数3.81はほぼ自立語数と考えられるから、1文における平均語数7.66のうち附属語は3.85を占め、自立語・附属語ほぼ相半ばする。

これに対して、比較資料としての17巻の1文における平均語数は、次の通りである。

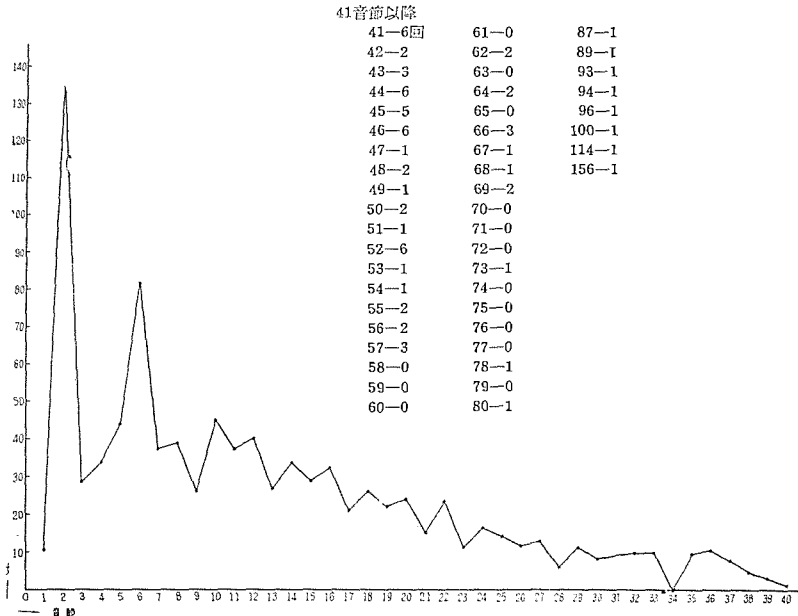
落語	7.64語 (会話 7.34 地の文 14.33)
講談	9.59 (会話 8.92 地の文 13.86)
座談会 (5巻)	10.42
劇	10.38
おとぎばなし	16.66
講義	16.71
ニュース (3巻)	28.81
ニュース解説 (4巻)	39.40

すなわち、これによれば、1文における平均文節数に示されたと同様に、落語・講談の会話の部分、座談会・劇は日常談話の文の平均語数に近く1グループをなし、ニュース・ニュース解説はそれらと極めて対比的な平均語数を示しつつ、他のグループをなし、落語・講談の地の文、おとぎばなし、講義はそれらの中間にあって、日常談話のグループにより近い平均語数を示しつつ、第三のグループをなしていることが知られる。

313 音節を尺度とした文の長さ

音節を尺度とした日常談話の文の長さは〔図表6〕の通りである。ただし、下の図および表の数値は10分の1のサンプル調査によるものである。その総文数は1044文であった。

〔図表 6〕 音節を尺度とした文の長さ（談話語）



これによれば、度数の最も高いものは2音節文の135で12.23%を示し、次いで6音節文82(7.85%)5音節文48(4.60%)10音節文45(4.31%)となっている。4音節以内の文は20%強を示し、10音節以内の文は全文数の約半数(46.84%)を占めている。これに対して、比較資料としてのニュース・ニュース解説には4音節以内の文は認められず、10音節以内の文も、ニュースに1.98%、ニュース解説に5.54%が認められたに過ぎない。また日常談話の文では20音節以内の文はそれぞれ20回以上の使用度数を持ち、27音節以内の文はそれぞれ10回以上用いられ、これに対して37音節以上の文は10回以上あら

われることがすくなくないのに対して、ニュース・ニュース解説では、度数の最も高い音節はそれぞれ、39音節(ついで、62・72音節)、9音節(ついで、56・58・84・118音節)に移り、日常談話の文と対比していちじるしい差異を示している。

なお、日常談話文の最長音節文は156音節文(サンプル)であり、ニュース235音節文、ニュース解説340音節文であった。

日常談話資料における1文の平均の長さは16.15音節であり、10分の1のサンプル調査では15.90, Reel No, 15, 59, 66, 97, 104の5巻について行った準備調査では15.98音節であった。ほぼ16音節である。各巻の差異は、

No. 2	13.09	No. 76	16.63
No. 66	13.51	No. 59	16.85
No. 100	13.76	No. 86	17.38
No. 62	14.00	No. 87	17.67
No. 70	14.41	No. 79	17.97
No. 3	14.50	No. 97	19.68
No. 15	14.63	No. 67	22.29
No. 61	14.74	No. 24	23.34
No. 98	16.14		

を示し、最低13.09、最高23.34。

これに対して、比較資料としての17巻の1文における平均音節数は次の通りである。

落語	15.91 (会話 15.14 地の文 33.50)
講談	21.02 (会話 19.53 地の文 30.45)
座談会 (5巻)	22.28
劇	21.87
おとぎばなし	34.44
講義	39.11
ニュース (3巻)	80.31
ニュース解説 (4巻)	97.80

これによれば、平均文節数、平均語数においても見られたと同様の3つの

グループをなすことが知られる。

314 文節・語と文

文の長さを計る尺度として、文節・語・音節を用いたが、いまそれらのうち、音節を除いて、文節を尺度とした場合を縦軸とし、語を尺度とした場合を横軸として、相互の関係を表示したのが表17である。これによれば、例えば1文節文3219の内訳は1語文2062, 2語文450, 3語文484……以下7語文までの分布を示すことが知られ、横軸3語文825の内訳は、1文節のもの484, 2文節のもの302, 3文節のもの39であることが知られる。

32 文節の長さ

文節の長さをはかるための資料としたものは、文の長さの場合と同じ日常談話18巻, 比較資料17巻であり、その文節総数は、日常談話38606文節, 比較資料23612文節である。また、日常談話の資料はほぼ10分の1に当るサンプルを用いた場合がある。その総文節数は4108文節である。

それらによる結果の2, 3を記述してみよう。

321 語を尺度とした文節の長さ

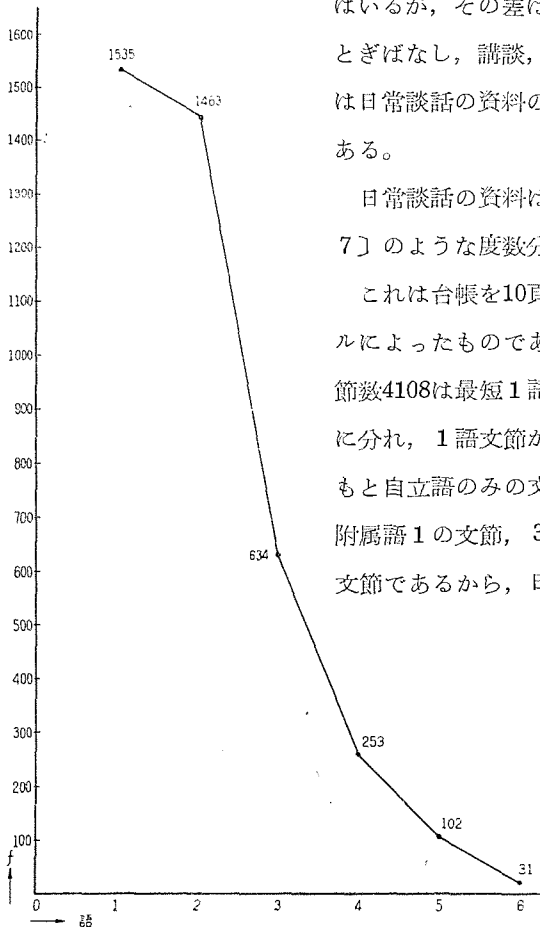
語を尺度として日常談話の文節の長さを計ると、その平均は2.01語、すなわちほぼ2語を示している。資料による差異の幅は僅少であり、最低1.88語最高2.14語、その大半が1.9台, 2.0台を示している。

No.	86	2.14	No.	97	1.98
No.	59	2.12	No.	98	1.98
No.	61	2.11	No.	24	1.96
No.	62	2.08	No.	100	1.96
No.	88	2.06	No.	2	1.95
No.	79	2.03	No.	66	1.93
No.	67	2.02	No.	3	1.92
No.	76	1.99	No.	15	1.88
No.	70	1.98	No.	87	1.88

いまこれを、比較材料17巻と対比してみると、

おとぎばなし	2.00
講談	1.90 (会話 1.92 地の文 1.85)
落語	1.89 (会話 1.89 地の文 1.93)
ニュース解説 (4巻)	1.88
劇	1.85
講義	1.79
ニュース (3巻)	1.75
座談会 (5巻)	1.70

〔図表 7〕 語を尺度とした
文節の長さ(談話語)



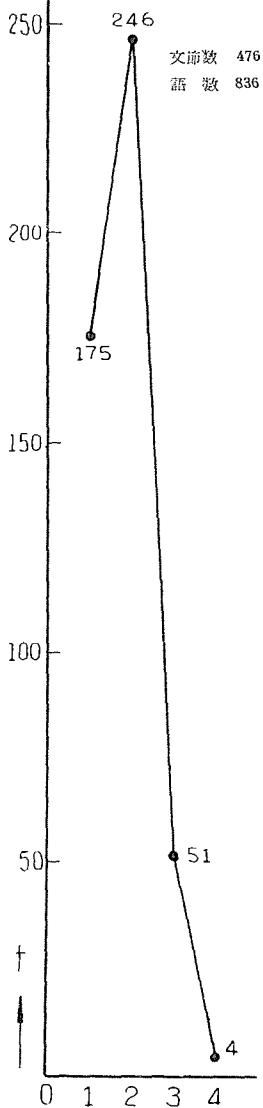
となり、日常談話の平均語数よりやや下回って
はいるが、その差は顕著ではない。とくに、お
とぎばなし、講談、落語、ニュース解説のそれ
は日常談話の資料のある巻にもみられたもので
ある。

日常談話の資料は語を尺度とした場合〔図表
7〕のような度数分布の型を示す。

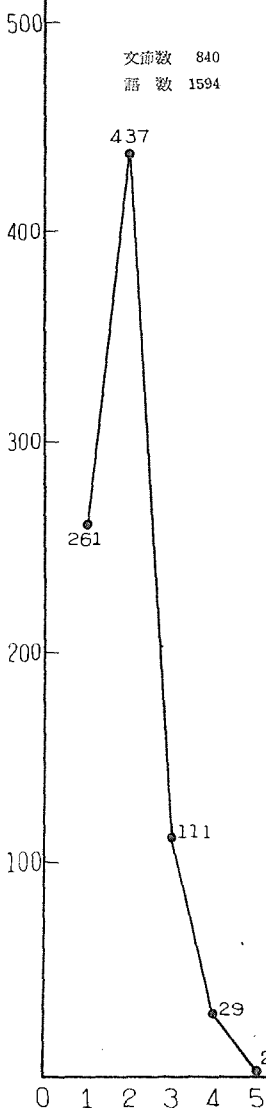
これは台帳を10頁毎に等間隔に抜いたサンプ
ルによったものであるが、これによれば、総文
節数4108は最短1語文節から最長6語文節まで
に分れ、1語文節が最も多い。1語文節はもと
も自立語のみの文節、2語文節を自立語1、
附属語1の文節、3語文節以下附属語2以上の
文節であるから、日常談話の文節は自立語のみ

の文節が最も多く、自
立語1附属語1の文節
がこれにつき、自立語
1附属語5の文節が最
長文節であると言いか
えることもできる。

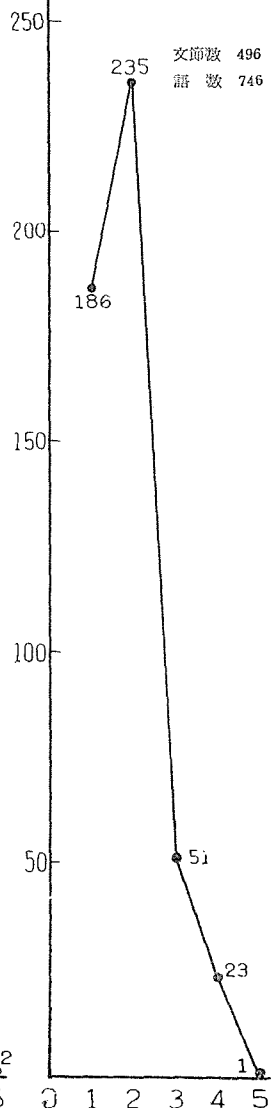
〔図表8〕 語を尺度とした文節の長さ(ニュース)



〔図表9〕 語を尺度とした文節の長さ(ニュース解説)



〔図表10〕 語を尺度とした文節の長さ(講義)



→ 語

これに対し、比較資料としてのニュース・ニュース解説、講義は日常談話と同じ方法のサンプルによればそれぞれ[図表8, 9, 10]のようにあらわれる。

これによると、日常談話が6語文節を持っていたのに対して、ニュース解説、講義は5語文節が最長であり、ニュースは4語文節が最長である。また日常談話のモードが1語文節であったのに対して、比較資料はすべて2語文節が度数が高い。いま、日常会話・ニュース・ニュース解説・講義の4つの度数を百分比にして示すと次の通りである。

〔表 18〕語を尺度とした文節の長さ（比較資料との百分比）

	1 語文節 自立語のみ	2 語文節 (自+附1)	3 語文節 (自+附2)	4 語文節 (自+附3)	5 語文節 (自+附4)	6 語文節 (自+附5)
日常談話	37.37%	35.61	15.43	6.16	2.48	0.75
ニュース	36.76	51.68	10.71	0.84		
ニュース解説	31.07	52.20	13.21	3.45	0.02	
講義	37.50	47.37	10.28	4.64	0.02	

ここで特にいちじるしいことは上述のとおり、2語文節が日常談話以外では度数が高く、しかも、それは全文数のほぼ半数を示していることである。そして、ついで全文数の3分の1前後が1語文節であり、3語文節以下、とくに4語文節以下の占める%はきわめて低い。ニュース・ニュース解説・講義の文節平均語数、1.75, 1.88, 1.79はこのような構造を反映している。

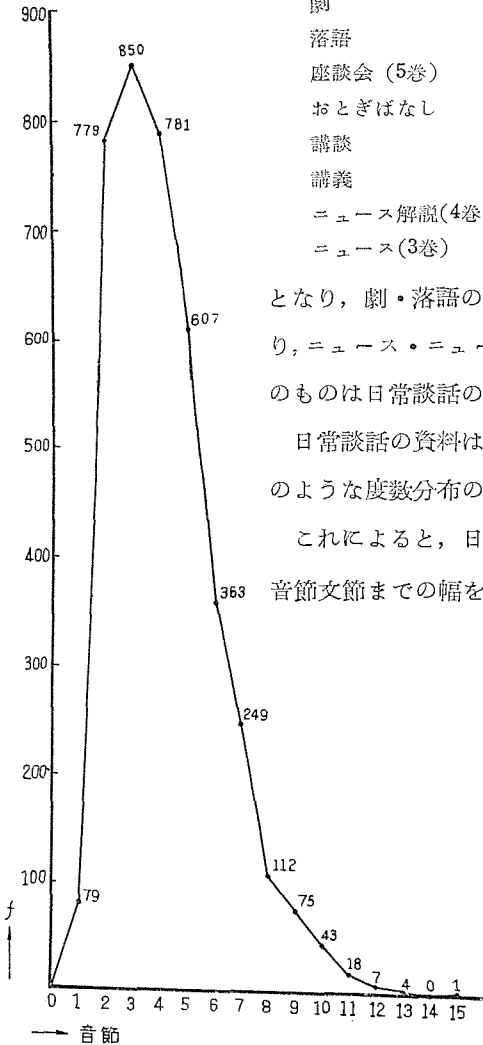
これに対して、日常談話における2語文節すなわち自立語1、附属語1の文節は全文数の3分の1強を示すにすぎない。日常談話の文節平均語数2語は、自立語1、附属語1の2語文節が多いからではなく、むしろ1語文節、2語文節、3語文節以下の三者のバランスの反映と認められる。そして、それは同時に、日常談話とその他との間の文節構造の差異を示していると考えてよいであろう。

322 音節を尺度とした文節の長さ

音節を尺度として日常談話の文節の長さを計ると、その平均は4.24音節、

すなわち4音節強を示す。資料によるひらきは僅少であり、最低3.96音節、最高4.50音節ではあるが、その13巻は4.1~4.3台に集中し、3.9、4.0台を示すもの計3巻、4.4、4.5台を示すもの計2巻にすぎない。

〔図表11〕音節を尺度とした文節の長さ(談話語)



これを比較資料17巻と対比すると、

劇	3.89
落語	3.94 (会話 3.89 地の文 4.52)
座談会 (5巻)	4.06
おとぎばなし	4.13
講談	4.17 (会話 4.20 地の文 4.06)
講義	4.21
ニュース解説(4巻)	4.66
ニュース(3巻)	4.88

となり、劇・落語の会話の部分は日常談話をやや下回り、ニュース・ニュース解説は上回っているが、その他のものは日常談話のある資料にもみられた数値を示す。

日常談話の資料は音節を尺度とした場合〔図表11〕のような度数分布の型を示す(サンプル)。

これによると、日常談話の文節は1音節文節から15音節文節までの幅を持っており、3音節文節をモードとして、その前後に度数を高め、2~5音節の文節は全文節数の4分の3強(76.32%)を示し、さらに6,7音節の文節を加えれば全文節数の91.18%を占めることが知られる。平均音節数4音節強はこのような構造に支えられているのである。

いまこれと、比較資料としてのニュース・ニュース解説・講義との度数を百分比として示すと次の通りになる。

〔表19〕音節を尺度とした文節の長さ（談話、ニュース、ニュース解説、講義）

	1音節 文節	2音節 文節	3音節 文節	4音節 文節	5音節 文節	6音節 文節	7音節 文節	8音節 文節	9音節 文節		
談話(サンプル)	2.05	19.72	21.57	19.78	15.25	8.91	5.95	2.91	2.00		
ニュース	0.42	11.13	20.80	22.90	18.06	6.31	6.93	3.57	4.62		
ニュース解説	2.98	12.74	19.04	25.12	17.62	7.86	5.60	2.98	2.39		
講義		23.58	17.54	19.76	19.76	5.85	4.44	5.65	2.42		
	10音節 文節	11音節 文節	12音節 文節	13音節 文節	14音節 文節	15音節 文節	16音節 文節	17音節 文節	18音節 文節	19音節 文節	20音節 文節
談話(サンプル)	1.12	0.47	0.18			0.03					
ニュース	1.05	1.68	0.63		0.42	0.63	0.42	0.21			
ニュース解説	1.90	0.71	0.60		0.23	0.23					
講義		0.06		0.01						0.01	
	21音節 文節	22音節 文節	総文節数								
談話(サンプル)			3848								
ニュース		0.21	476								
ニュース解説			840								
講義			496								

度数の最も高い音節が日常談話では3音節であったのに対して、ニュース・ニュース解説ともに4音節を示し、講義が2音節であること、講義の度数分布の型に特異なものがあることなど小差は多く認められるが、その差異は、語を尺度とした場合に認められたほど顕著なものがない。

33 語の長さ

語の長さを計るための資料としたものは、文・文節の長さの場合と同じ日常談話18巻、比較資料17巻であり、その総語数は、

日常談話 77520 語 比較資料 44311 語

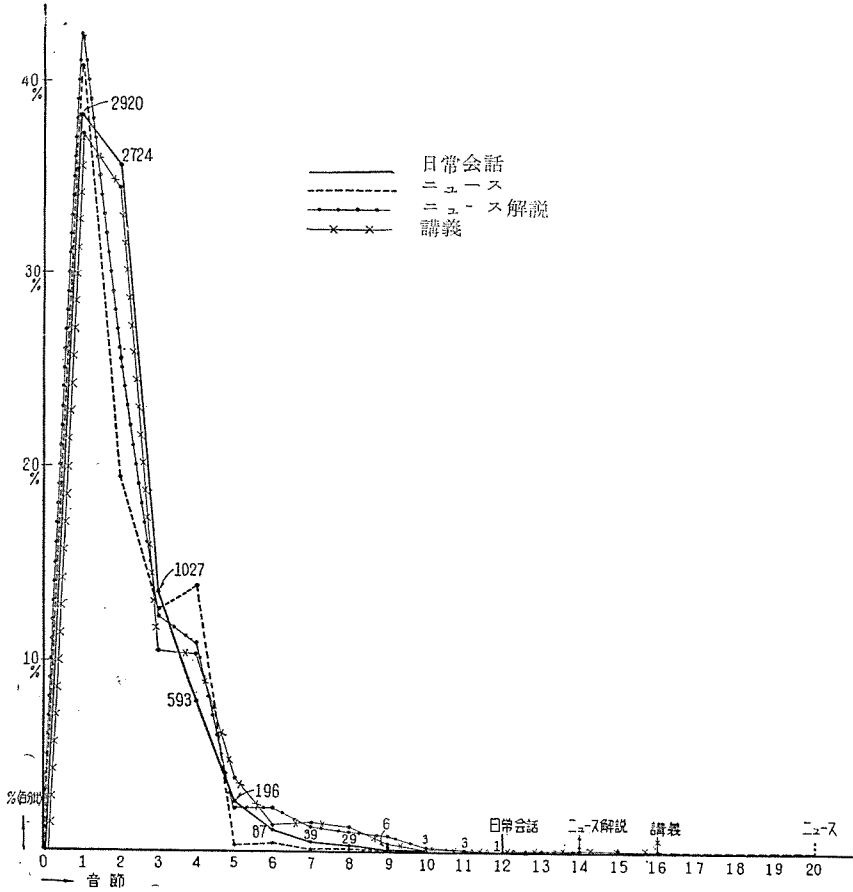
である。ただし、平均音節数を求める以外は、すべて、ほぼ10分の1のサンプルを用いた。その総語数は、

日常談話 7632 語 比較資料 5234 語

である。

音節を尺度として日常談話の語の長さを計ると、その平均は2.11音節、すなわちほぼ2音節強を示す。資料による差異は僅少であって、その14巻が2.0、2.1音節台に集中し、最低1.97音節、最高2.31音節、および2.2音節台、2.3音節台の計4巻がやや差異を見せているに過ぎない。

〔図表12〕 音節を尺度とした語の長さ（比較資料との百分比）



これに対して、比較資料としての17巻はそれぞれ、

おとぎばなし	2.07音節
落語	2.08 (会話 2.06 地の文 2.34)
劇	2.11
座談会 (5巻)	2.14
講談	2.19 (会話 2.19 地の文 2.20)
講義	2.34
ニュース解説	2.48
ニュース	2.79

を示す。これによれば、おとぎばなしから講談までの平均音節数は日常談話のそれと近似しているが、落語の地の文、講義は多少それを上回り、ニュース解説ではほぼ2.5音節、ニュースでは3音節弱となっていて、両者は日常談話に較べて長いといわなければならない。日常談話の語の長さを音節を尺度としてその度数分布をみると〔図表12〕の通りである。

なお、資料はサンプルの7632語についてであり、それを百分比として示し、比較資料のうち、ニュース・ニュース解説・講義を選んで、これと対比させた。なお、いままで述べて来た文・文節・語の長さの平均を1覧しうる形にまとめてみると〔表20〕の通りである。

34 文の長さの差異とその条件

日常談話の資料は、それによって長さの差異をその条件との相関において分析することを第1次的に意図して採集されたものではない。しかしながら、同時に、その資料による結果がなるべく偏りの少ないものであるように配慮し、その採集に当っては既述の条件を考慮に入れて、3つの表に示すように資料を構成した。ここではそれらの条件、すなわち、採集地区、生活環境、性、年齢、教養、相手の人数、相手の既知・未知に談話の基礎話調、談話の目的・態度を加えて、それらの条件を異にする巻毎に文の長さになんらかの差異があらわれはしないかを探ってみた。文の長さを計る目印としては文節を尺度とするものを用いた。すでに見て来たように、日常談話の文の長さにはおのずから限界があり、それはどの巻をとってみても、決してニュース・ニュース解説のそれのように現われることもなく、また講義・おとぎばなしの持つ長さの幅と合致することもない。つまり、その限りにおいて、日常談話の文の長さは相互に大きな差異は認められないのであるが、しかし、小差を求めれば相互に多少の異同を認めることができる。

なお、文の長さは文の構造と最も大きな関係を持つことが予想されるが、それについては「文の構造」の項でその一部に多少触れるだけで、この報告では割愛した。また、談話の展開の時刻的分布によって文の長さに差異の認

〔表20〕文・文節・語の総数と長さの平均

種	類	文の 総数	文節の 総数	語の 総数	音節の 総数	一文における			一文節における			一語に おける
						平均 文節数	平均 語数	平均 音節数	平均 語数	平均 音節数	平均 音節数	
Reel	2	644	2017	3943	8432	3.13	6.12	13.09	1.95	4.18	2.13	
	3	710	2567	4950	10299	3.61	6.97	14.50	1.92	4.01	2.08	
	15	276	930	1755	4040	3.37	6.36	14.63	1.88	4.34	2.30	
	24	385	2117	4151	8878	5.49	10.78	23.34	1.96	4.19	2.13	
	59	596	2307	4903	10046	3.87	8.22	16.85	2.12	4.35	2.04	
	61	707	2454	5183	10423	3.47	7.33	14.74	2.11	4.21	2.01	
	62	694	2251	4687	9719	3.24	6.75	14.00	2.08	4.31	2.07	
	66	544	1855	3595	7354	3.41	6.60	13.51	1.93	3.96	2.04	
	67	474	2395	4848	10567	5.05	10.23	22.29	2.02	4.41	2.18	
	70	656	2268	4485	9456	3.45	6.83	14.41	1.98	4.12	2.10	
	76	716	2845	5665	11909	3.95	7.91	16.63	1.99	4.18	2.10	
	79	603	2545	5170	10836	4.22	8.57	17.97	2.03	4.25	2.09	
	86	464	1907	4091	8065	4.10	8.81	17.38	2.14	4.22	1.97	
	87	461	1865	3521	8146	4.04	7.63	17.67	1.88	4.37	2.31	
	88	639	2165	4459	9900	3.38	6.97	15.47	2.06	4.56	2.22	
	97	498	2259	4482	9802	4.53	9.00	19.68	1.98	4.33	2.18	
98	601	2334	4644	9701	3.88	7.72	16.14	1.98	4.15	2.09		
100	450	1525	2988	6184	3.38	6.64	13.76	1.96	4.05	2.07		
Total		10118	38606	77520	163757	3.81	7.66	16.15	2.01	4.24	2.11	
ラジオ座談会(5巻)		1684	9243	17545	37520	5.49	10.42	22.28	1.70	4.06	2.14	
落		282	1139	2155	4489	4.04	7.64	15.91	1.89	3.94	2.08	
(会話)		270	1050	1983	4087	3.88	7.34	15.14	1.89	3.89	2.06	
(地)		12	89	172	402	7.42	14.33	33.50	1.93	4.52	2.34	
講		307	1547	2945	6465	5.04	9.59	21.02	1.90	4.17	2.19	
(会話)		265	1232	2363	5176	4.65	8.92	19.53	1.92	4.20	2.19	
(地)		42	315	582	1279	7.50	13.86	30.45	1.85	4.06	2.20	
劇		424	2381	4399	9271	5.62	10.38	21.87	1.85	3.89	2.11	
おとぎばなし		205	1710	3415	7061	8.34	16.66	34.44	2.00	4.13	2.07	
講		111	1033	1855	4344	9.31	16.71	39.14	1.79	4.21	2.34	
ニユース(3巻)		152	2505	4379	12219	16.48	28.81	80.31	1.75	4.88	2.79	
ニユース解説(4巻)		196	4054	7618	18961	21.02	39.40	97.80	1.98	4.66	2.48	

められることも予想されるが、これもこの報告では割愛した。個人による習慣の相違、出身地による相違、談話の場面による相違については、それに及ぶ暇がなかった。それらはすべて今後の課題として残されている。

341 採集地区と文の長さ

日常談話の資料はすべて東京都内およびその周辺で採集されたものであるが、その中には59, 100のようにいわゆる下町地区で採集されたものと、2, 15, 24, 87, 88などのようにいわゆる山の手地区で採集されたものと、2, 61, 62, 66, 67, 70, 76, 79, 80, 97, 98などのように新市域などの周辺地

区で採集されたものと、大別して3つのものがある。

いま、この3者を相互に比較してみると、およそ次の通りになる。

すなわち、下町地区で採集した資料は、総文数1046、総文節数3834、総語数7891、総音節数16230であり、平均文節数を目印とすれば、その文の長さは3.67文節となる。山の手地区で採集した資料は、総文数2471、総文節数9644、総語数18836、総音節数41263であり、一文の平均文節数は3.90となる。また、周辺地区で採集した資料は、総文数6601、総文節数25130、総語数50793、総音節数106264で一文の平均文節数は3.79となる。日常談話の資料の総平均文節数は3.81であるから、周辺地区の資料の平均文節数は、これと近似し、これに対して、下町地区のそれは短く、山の手地区のそれは長い。しかし、その差は僅少であり、巻による差異も少なくない。別に式亭三馬の浮世床を資料として江戸語の文の長さを計った場合、一文平均文節数が4文節前後で、書かれた会話文としての制約を考慮にいれると当時の談話の文が短かったと推定できよう。あるいは現在の下町地区の文の長さもその伝統を止めているのかも知れないが、ここではそれを裏付ける数値はあらわれなかった。

342 生活環境と文の長さ

日常談話の資料の中には、3、67、76、86、97のように家庭内で採集されたもの、61、62、66、79、98のように近隣間から採集されたもの、2のように学校内で採集されたもの、24、59、70、100、のように職場内で採集されたもの、15、87、88のように公共施設内で採集されたものなど大別して5つの異なる生活環境から採集されたものを含んでいる。学校内の資料はわずか1巻であるので参考とするに止めたいが、それらを一文の平均文節数を目印として、短い順にならべてみると次の通りになる。

	1文の平均文節数	総文数	総文節数
学 校	3.13	644	2017
公共施設	3.60	1376	4960
職 場	3.94	2087	8219

近 隣	3.95	3149	12439
家 庭	4.15	2862	11973

日常談話の総平均文節数は3.81文節であるから、それと較べて、公共施設における談話は比較的短かく、家庭におけるそれは長いことが注目される。

343 性別と文の長さ

日常談話の資料の中には、24, 59, 61, 62, 87のように男性相互の談話であるものと、2, 66, 79, 98, 100のように女性相互の談話であるものと、3, 67, 86, 97, 70, 88, 15, 76のように男性女性交互の談話であるものと、大別して3つのものがある。男性女性交互の資料の中には部分的にそれぞれ女性相互・男性相互の談話を多く含むもの、男性あるいは女性が消極的な役割しか果していないものなど、異質的なものを含むことが多いので、これを除外して、男性相互・女性相互の資料のみを比較してみると、次の通りである。

	1文の平均文節数	総文数	総文節数
女性相互	3.62	2842	10278
男性相互	3.87	2843	10994

日常談話の総文節数3.81に較べて、女性相互の会話は比較的短いといえることができる。

344 年齢と文の長さ

日常談話の資料の中には、2, 3, 61, 62, 88のように若年層相互の談話であるものと、59, 76, 97のように壮年層相互の談話であるものと、98, 86, 87, 79, 67, 24, 15, 66, 70, 100のように若年壮年交互の談話であるものと、大別して3つのものがある。若年壮年交互の談話では比較的壮年層の発言量が多い。いまこれらを1文の平均文節数を目印として、短い順にならべてみると次の通りになる。

	1文の平均文節数	総文数	総文節数
若年層相互	3.37	3394	11454
壯若交互	4.02	4914	19741
壯年層相互	4.09	1810	7411

日常談話の総平均文節数は3.81であるから、若年層は短く、壮年層は長い傾向が見られる。

345 教養・相手と文の長さ

日常談話の資料の中には、義務教育終了者相互の談話とそれ以上の学歴を有するもの相互の談話とその両者交互の談話との3つのものがあるが、それらの間には1文の平均文節数を目印とした場合、とくに差異のみるべきものはなかった。その平均文節数は、義務教育終了者相互で3.38文節、それ以上の学歴を有するもの相互の談話で3.55文節、両者交互の談話で3.98文節であった。

また、談話の聞き手が1人の場合つまり対談の場合の2471文と聞き手が2人以上の場合の7647文とを平均文節数を目印しとして比較してみたが、その間に差異のみるべきものがなかった。その平均文節数は、前者3.90文節、後者3.79文節であった。

また談話の相手が互いに未知の間柄である6590文と互いに既知の間柄である1840文と既知・未知を混じた1688文とを同様に平均文節数を目印として比較してみたが、ここにもみるべき差異はなかった。その平均文節数は、未知3.73文節、既知3.68文節、未知・既知4.44文節であった。

346 基礎話調と文の長さ

日常談話の資料の中には、2, 3, 59, 61, 62, 66, 79のように「だ調」を基礎話調とするもの、70, 86, 87, 88, 97のように「ます・です調」を基礎話調とするもの、24, 67, 98, 100のように「だ・です調」を基礎話調とするもの、15, 76のように「です・ございます調」を基礎話調とするもの、大別して以上の4つの種類を含んでいる。いまこれを平均文節数を目印として短い順にあげると次の通りである。

	1文の平均文節数	総文数	総文節数
だ	調 3.56	4498	15996

です・ございます調	3.81	992	3775
ます・です調	3.85	2718	10464
だ・です調	4.38	1910	8373

日常談話の総平均文節数3.81と較べて、「だ調」の短いことは注目される。

347 談話の目的・態度と文の長さ

日常談話の資料の中には、2, 3, 24, 59, 61, 62, 66, 67, 70, 79, 98, 100のようになごやかな態度で感情的な反応を主目的としている談話と、76, 86, 97のようにやや改まった態度で感情的な反応を主目的としている談話と、15, 87, 88のように事務的な態度で知的な反応を主目的としているものとの3者が含まれている。これらを平均文節数の短い順に示せば次の通りになる。

	1文の平均文節数	総文数	総文節数
事務的	3.61	1376	4960
なごやか	3.77	7064	26635
やや改まる	4.17	1678	7011

事務的な態度の知的な反応を主目的とする談話に文が短い傾向がある。これは公共的な施設における談話が短いことも密接な関係があるであろう。

さて、文の長さにとってこれらの条件のどれが強く響くかは、この調査からは知ることができない。そうした分析に堪える資料の採集が行われていないからである。一般的には、下町地区以外で採集した、家庭内での、男性相互の、壮年層相互の、「だ調」を基礎話調としない、やや改まった談話は文が長いと想定される。反対に、下町地区で採集した、公共施設内の、女性相互の、若年層相互の、「だ調」を基礎話調とする、事務的な談話は文が短いであろうと想定される。日常談話の資料中、最長平均文節数を示すNo. 24はそれらの6つの条件の4つをみたし、他の2つの条件にも近く、次長平均文節数を示すNo. 67はその条件の5つをみたし、他の1つの条件にも近い。また、最短平均文節数を示すNo. 2、次短平均文節数を示すNo. 62はともにその条件の3つをみたしている。

4 文 の 構 造

41 成分の組合せ

一般に談話語の文の構造は簡単であると言われている。いったい、談話語の文の構造の実態はどのようであろうか。また文の構造を有効に調査するにはいかなる方法によったらよいであろうか。試みに成分の組合せという面から調査してみた。資料はテープ10巻、比較資料としてニュース3巻。

411 「次」の多少

次の三つの文を成分の組合せという点からみると

- (1) 本オ 読ンダノヨ。
- (2) オモシロイ 本オ 読ンダノヨ。
- (3) アナタガ オモシロイ 本ダト ユーカラ 読ンダノヨ。

(1)と(2)との「本オ」は述語の「読ンダノヨ」の連用修飾語である。「読ンダノヨ」と第一次的な関係にある。これに対し、(2)の「オモシロイ」は本の連体修飾語であって、「読ンダノヨ」に対しては第二次的な関係にある。さらに(3)の「オモシロイ」は「読ンダノヨ」に対して、第三次的な関係にある。この三つの文は成分の組合せの上から、次のように表わすことができる。

- (1) $\overset{\text{用修}}{\text{本オ}} \overset{\text{述}}{\text{読ンダノヨ}}。$
- (2) $\overset{\text{(体修)}}{\text{オモシロイ}} \overset{\text{用修}}{\text{本オ}} \overset{\text{述}}{\text{読ンダノヨ}}。$
- (3) $\overset{\text{(主)}}{\text{アナタガ}} \overset{\text{〔体修〕}}{\text{オモシロイ}} \overset{\text{用修}}{\text{本ダト}} \overset{\text{述・用修}}{\text{ユーカラ}} \overset{\text{述}}{\text{読ンダノヨ}}。$

文中の成分が述語に対して第何次の関係にあるかということ、述語と最も間接的な成分が第何次の関係にあるかということに着目すれば、この三つの文はそれぞれ一次の文、二次の文、三次の文であると言える。

このようにして、談話語の文を「次」の多少ということから調査すると次のようになる。

〔表 21〕 「次」 の 多 少

ReelNo. 略称	文の数	一次 %	二次 %	三次 %	四次 %	五次 %	六次 %	七次 %	八次 %	九次 %
2 女子学生	563	79.0	16.5	3.6	0.9					
64 三鷹女工	590	80.4	14.1	4.6	0.8	0.2				
79 無尽の会	484	72.0	22.7	3.2	1.1	0.8	0.3			
98 友の会	478	74.8	19.2	5.2	0.5		0.2			
61 学生座談	400	69.6	24.5	4.7	1.2					
87 職安男子	333	75.0	20.1	2.6	1.9	0.4				
67 N家座談	353	66.3	24.7	6.6	2.1	0.3				
3 I 夫妻	578	74.6	17.9	6.0	1.2	0.2	0.2			
93 魚屋	528	67.2	21.2	8.5	2.3	0.7				
97 U 氏談	386	71.1	17.8	7.0	3.0	1.0				
ニュース	143	9.1	14.7	24.5	21.7	11.2	13.3	4.2	0.7	0.7

これによれば、談話語においては一次の文が圧倒的に多い。二次、三次、四次……となるに従って、その数は少なくなる。七次以上の文はこの調査においては現れなかった。^{*} これは談話語の一つの特質であると思われる。

これに対して、ニュースでは三次、四次の文が多く、一次の文は少ない。また九次に及ぶ文も現れている。談話語との差異をはっきり示すものと考えてよからう。

もちろん、談話語の中においても、各巻ごとに多少の差が見られないわけではない。たとえばR. 2(女子学生)やR. 64(三鷹女工)の場合には一次の文が比較的多く、二次、三次、四次などの文は比較的少ないが、R. 24(学生座談)やR. 67(N家座談)やR. 93(魚屋)には一次の文が比較的少なく、二次、三次、四次の文が比較的多く現れている。

これは話題や場面とも関係していると思われるから、話し手の文化的社会的条件をもって、直ちにその決定的要因と見なすことはできない。けれども、たとえば、R. 61(学生座談)とR. 2(女子学生)との間には一次の文の割

^{*} ここでは、一部分であろうと、よく聞きとれなかった文は、調査対象から除いてある。

合において、約10%の差異があるが（R.2に多い）、R.61（学生座談）の場合が、個人の住宅の居間で、野球・アルバイト・酒・写真などを話題とし、R.2（女子学生）の場合が教室で、修学旅行・先生などを話題としていることを考慮するとしても、話し手の条件もまた重視しなければならないであろう。

なお、「次」の多少と文の長さとの関係について言えば、一般に、多次の文ほど長くなる傾向がある。

412 成分の組合せの型

談話語の文においては、成分はどのような順序に組合せられているだろうか。成分の組合せについて、その型を調査してみた。便宜上、第一次の成分*の組合せの型および第二次以下の成分の組合せの型について述べる。

4121 第一次の成分の組合せの型

41211 第一次の成分の組合せの型1

第一次の成分のうち、主として主語・連用修飾語・述語について、その組合せの型をみると〔表22〕のとおり。

主語を a, 連用修飾語を y, 述語を b, 連体修飾語を t（連体修飾語が第一次の成分となることはほとんどない。原則として、ここでは連体修飾語を取り扱わず倒置の場合に限って取り扱うことにした。）独立語を d と表記する。～は主として二次以下の成分に対して述語となつていることを示す。^{**}参考としてニュースにおける型を示した。（ ）の型はニュースだけに現れた型である。たとえば

- | | | | | | |
|-----|-------|--------|--------|-------|--------|
| | 用修 | 述 | | | |
| (1) | 本オ | 読ンダノヨ。 | y, b | | |
| | (体修) | 用修 | 述 | | |
| (2) | オモシロイ | 本オ | 読ンダノヨ。 | | |
| | (主 | [体修] | 用修) | 述・用 | 述 |
| (3) | アナタガ | オモシロイ | 本ダト | ニューカラ | 読ンダノヨ。 |
| | (主) | 述・主 | (用修) | 述・用 | 述 |
| (4) | 春ガ | 来ルノワ | 誰ニ | トツテモ | 喜ビダヨ。 |

* 述語および述語と第一次の関係にある成分を第一次の成分とよぶことにする。ただし、連体修飾語は除く。接続、よびかけ、応答、問投などの独立語の成分も第一次の成分とする。第二次の成分、第三次の成分もこれに準じて考える。 ** 以下このような成分を述・主の成分、述・用の成分などとよぶことがある。

〔表 22〕 第一次の成分の組合せの型 i

Reel No. 略 称 型	総数	61 学生 座談	2 女子 学生	64 三鷹 女工	79 無尽 の会	98 友の会	87 職安 男子	その他 4 巻	ニ ュ ー ス
b	1334	113	209	188	153	132	92	447	11
<u>b</u>	11	2	1	1	1	3		3	
y b	507	68	63	76	55	47	22	176	1
<u>y b</u>	2			1				1	
<u>y b</u>	185	22	20	13	23	27	14	66	11
<u>y b</u>	2							2	
y y b	190	23	16	19	20	16	17	79	
<u>y y b</u>	41	3	6	4	5	2	1	20	3
<u>y y b</u>	76	7	1	8	8	5	4	43	3
<u>y y b</u>	1							1	1
<u>y y b</u>	20	1	4	1	1	1	3	9	8
<u>y y b</u>	1							1	
y y y b	42	2	3	2	10	5	6	14	1
<u>y y y b</u>	6		1	1			3	1	1
<u>y y y b</u>	13	1			2		2	8	1
<u>y y y b</u>	41	3		5	7	1		25	4
<u>y y y b</u>	1							1	
<u>y y y b</u>	7					1		6	3
<u>y y y b</u>	17	2	1	2			1	11	1
<u>y y y b</u>	2				1		1	0	
y y y y b	11	1	2	3	1	3		1	
<u>y y y y b</u>	1							1	
<u>y y y y b</u>	4						2	2	
<u>y y y y b</u>	6		1				1	4	
<u>y y y y b</u>	10	1		1	2	2		4	
<u>y y y y b</u>	2					1		1	
<u>y y y y b</u>	1							1	
<u>y y y y b</u>	2						2	0	
<u>y y y y b</u>	2							2	
<u>y y y y b</u>	1							1	
y y y y y b	6			1		1	1	3	
<u>y y y y y b</u>	1				1			0	1
<u>y y y y y b</u>	1				1			0	
<u>y y y y y b</u>	1						1	0	
<u>y y y y y b</u>	1				1			0	

Reel No. 略称 型	総数	61 学生 座談	2 女子 学生	64 三鷹 女工	79 無尽 の会	98 友の会	87 職安 男子	その他 4巻	ニ ュ ー ス
y y b y y	1							1	
y y y b y y	2							2	
y y y b y y	1							1	
b y y y	1							1	
y y y b y y y	1							1	
a b	313	32	47	42	34	33	19	106	6
a b	8	2	1					5	2
a b	54	9	10		7	3	1	24	1
a y b	146	13	10	17	20	14	8	64	4
a y b	15	6		3	3		2	1	5
a y b	15	4	2	1	1	2	1	4	1
a y y b	33	3	4	2	6	2	3	13	5
a y y b	6		1	1				4	
a y y b	12	3		2			1	6	5
a y y b	3							3	3
a y y b	1					1		1	2
a y y y b	7		3		2		1	1	
a y y y b	4		3		1			0	3
a y y y b	3					1	1	1	3
a y y y y b	3						1	2	
a y y y y b	1					1		0	
a y y y y y b	1						1	0	
y a b	79	7	7	6	11	7	5	36	1
y a b	13		2	1	2			8	1
y a b	30	1		4	3	5	1	16	
y a b	5				1			4	3
y y a b	33	2		3	7	8	2	11	1
y y a b	2							2	
y y a b	6				1	1	1	3	
y y a b	23		2	2	1	3	2	13	
y y a b	1	1						0	
y y a b	6							6	
y y y a b	4		1	1			1	1	
y y y a b	4					1		3	
y y y a b	7							7	1
y y y a b	7	1	1			1		4	1

型	Reel No. 略 称	総数	61 学生 座談	2 女子 学生	64 三層 女工	79 無尽 の会	98 友の会	87 職安 男子	その他 4 巻	ニ ュ ス
(a y y y b)										1
(a y y y b)										2
(a y y y b)										1
(a y y y b)										2
(a y y y b)										1
(a y y y y b)										1
(a y y y y b)										3
(a y y y y b)										1
(y y y a b)										1
(y y y a b)										1
(y a y b)										2
(y a y b)										1
(y a y y b)										2
(y a y y b)										1
(y a y y b)										1
(y a y y y b)										1
(y a y y y b)										1
(y a y y y b)										1
(y a y y y b)										1
(y y y a y y b)										1
a b d		7	1		2	1			4	
a y b d		2			1	1			0	
y y y a y y b d		1					1		0	
a b t		1		1					0	
y a b t		1			1				0	
a b y		26	1	4	4	4	2		12	
a b y		4	2	2					0	
a b y		5	1			1			3	
a y b y		12	1		1	2	1		7	
a y b y		4		1			1		2	
a y b y		1					1		0	
a y b y		1							1	
a y y b y		2			1	1			0	
a y y y b y		2		1				1	0	
y a b y		8		1	1		1		5	
y a b y		4				1			3	
y a b y		1			1				0	

Reel No. 略 称 型	総数	61 学生 座談	2 女子 学生	64 三鷹 女工	79 無尽 の会	98 友の会	87 職安 男子	その他 4 巻	ニ ュ ー ス
y a b y	3			1				2	
y y a b y	2	1						1	
y y a b y	1							1	
y y a b y	1					1		1	
y y a b y	1					1		0	
y y y a b y	1						1	0	
y y y a b y	1			1				0	
y a y b y	2				1			1	
y a y b y	1		1					0	
y a y b y	1							1	
y a y b y	1							1	
y y a y b y	1							1	
a b y y	1							1	
a y b y y	1					1		0	
y a b y y	1	1						0	
y a b y y	1	1						0	
a y y y y b y y	1					1		0	
b a	24	1	4	2	4	4	1	8	
b a	3	2		1				0	
y b a	21	7		1	3	4		6	
y b a	2			1				1	
y b a	5				2	1		2	
y y b a	9		2		3	2		2	
y y b a	1							1	
y y b a	4							4	
y y y b a	1	1						0	
b a y	1	1						0	
b a y	1			1				0	
y b a y	1					1		0	
b y a	2				1	1		0	
y b y a	2			1				1	
y b y a	1							1	
y b a y y	1							1	
a a b	20		1	1	6	3	3	6	
a a b	3							3	
a a b	2							2	
a a b	1			1				0	

Reel No. 略 称 型	総数	61 学生 座談	2 女子 学生	64 三鷹 女工	79 無尽 の会	98 友の会	87 職安 男子	その他 4 卷	ニュ ース
a a y b	4	1		2			1	0	
a a y b	1			1				0	
a a y y b	1							1	
a a y y b	1							1	
a a y y y y y b	1				1			0	
a y a b	7	1			2			4	
a y a b	1			1				0	
a y a b	2				1	1		0	
a y a b	1			1				0	
a y a b	1			1				0	
a y y a b	2						1	1	
a y y a b	3			1	1			1	
a y y a b	1			1				0	
y a a b	2		1	1				0	
y a a b	1							1	
y y a a b	3		1					2	
y y a a b	3							3	
a y a y b	2			1	1			0	
a y a y b	1	1						0	
a y y a y y b	1							1	
a y y y a y y b	1		1					0	
y a a y b	1				1			0	
y a y a b	2				1			1	
y a y a b	1							1	
y y y a y a b	1							1	
(a a y b)									1
(a a y y y y y b)									1
(a y y y y a b)									1
(a y y y a y b)									1
(y a y a y b)									1
a a b y	3			1	1		1	0	
a a b y	1							1	
a a b y	1							1	
a a y b y	1							1	
a a y y b y	1							1	
a y a b y	1							1	
a y y a b y	1						1	0	

Reel No. 略 称 型	総数	61 学生 座談	2 女子 学生	64 三鷹 女工	79 無尽 の会	98 友の会	87 職安 男子	その他 4 巻	ニュ ース
y a a b y	1	1						0	
a b a	4		1					3	
a b a	2				1			1	
a y b d a	1						1	0	
a b a y	1				1			0	
a b y a	1		1					0	
a y y b a	1							1	
y a b a	2	1						1	
y y a b a	1							1	
y a y b a	1							1	
y a y y b a	1					1		0	
y y a y b a	1					1		0	
a a a b	2		1					1	
a y a a b	2				1		1	0	
a y a a b	1			1				0	
y a a a b	1						1	0	
y a a a b	1							1	
y a a y a b	1							1	
y y a a y a b	1							1	
y a y y a a b	1					1		0	
(a y a y a b)									1
a a b a	1	1						0	
y a a b a	1	1						0	
a b a a	1							1	
d	742	19	93	115	20	95	66	334	
d d	17				2		10	5	
d d d	3						3	0	
d d d d	1					1		0	
計 253	4693	400	563	590	484	478	333	1845	143

型の種類は253である。しかし、この253種の型がすべて同じように用いられているのではない。1回しか現れない型が126種の多くを占めている。このことは倒置の型（述語の位置が文の最後にないもの）が106種あることとともに注意すべきである。したがって少数の型が頻用されているということになる。

11回以上用いられる型は、次のとおり。

〔表 23〕 第一 次 1, 11 回 以上 の 型

順位	型	頻度数	順位	型	頻度数
2	d	742	1	a b	313
13	d d	17	4	a b	57
1	b	1334	2	a y b	146
17	b	11	14	a y b	15
3	y b	507	14	a y b	15
5	y b	185	5	a y y b	33
4	y y b	190	17	a y y b	12
8	y y b	41	3	y a b	89
9	y y b	76	16	y a b	13
12	y y b	20	8	y a b	30
7	y y y b	42	5	y y a b	33
15	y y y b	13	11	y y a b	23
8	y y y b	41	5	y a y b	33
13	y y y b	17	9	a b y	26
17	y y y y b	11	17	a y b y	12
16	b d	12	10	b a	24
11	b y	27	12	y b a	21
10	y b y	29	13	a a b	20
19	y b y	11	計	種類 37 (14.6%)	4228 (90%)

このように少数の型が各巻を通じて頻繁に用いられる傾向がみられる。この頻度数の多い型は一般に型として単純であり、また長さも短い。

これらのうち特に多く用いられている型は、b(1334回)、d(742回)、y, b(507回)、a, b(313回)、y, y, b(190回)などである。頻度数の多い順に、上位の10の型についてみると、延3626文を占めている。これは総数の77%にあたる。ニュースにおいても、談話語ほどはっきりしてはいなかったが大體同じ傾向がみられた。

これらの型を (1) 主語が二つ以上ある文 (総主のある文), (2) 主語のある文, (3) 連用修飾語と述語とからなる文, (4) 独立語だけの文に分けてそれぞれに属する型の種類と文の数とをみると, 次のようになる。

〔表 24〕 第1次、型の種類と文の数

型	談話語		ニュース	
	型の種類の数 (%)	文の数 (%)	型の種類の数 (%)	文の数 (%)
総主のある文	59(23.3)	110(2.3)	6(8.6)	6(4.2)
主語のある文	116(45.8)	1126(24.0)	47(67.1)	84(58.7)
主語のない文 (用, 述)	74(29.2)	2694(57.4)	17(24.3)	53(37.1)
主語のない文 (独立語)	4(1.6)	763(16.3)	0	0
計	253(100)	4693(100)	70(100)	143(100)

総主や主語のある文は型の種類は多いが, 文の数は少ないことが注目される。また独立語だけで文を成立させているものが談話語にはかなりあるが, ニュースには現れないことも注意しなければならない。

ところでニュース放送の文の構造は談話語とかなり違っているが, 談話語のなかにおいてもそれを規制するさまざまな条件に応じて, 文の構造に差違が見られる。いくつかの特長的な項目について各巻ごとに調査した結果は, 〔表25〕のとおりである。

これによれば, 主語を含む文の数は談話語においては平均して26%であるが, R. 61(学生座談)やR. 79(無尽の会)やR. 67(N家座談)やR. 93(魚屋)にやや多く現れている。これは表現内容や場面とも関聯するものと思われる。しかし, それはともあれ, ニュースにおいて63%の多くを占めていることは談話語と比較して興味深い。

倒置の文は談話語においては平均して7%ばかりであるが, 比較的R. 61(学生座談)やR. 79(無尽の会)やR. 3(I夫妻)に多く現れている。くだけた表現の場合に多いようである。R. 87(職安男子)のような改まった場合には少ない。ニュースにおいては倒置の文は一度も現れなかった。*

* 談話のことばと放送のことば 中村延夫 言語生活第2号

〔表 25〕 文の構造の特徴

ReelNo.	文の種類 略称	文の数	主語を含む 文の数(%)	倒置の文 の数(%)	成分5以上 の文の数(%)	型の種類 (%)
	総数	4693	1238(26.4)	347(7.4)	217(4.6)	253(5.4)
61	学生座談	400	116(29.0)	41(10.3)	12(3.0)	57(14.3)
2	女子学生	563	132(23.4)	29(5.2)	21(3.7)	57(10.1)
64	三鷹女工	590	126(21.4)	45(7.6)	16(2.7)	70(11.9)
79	無尽の会	484	150(31.0)	49(10.1)	20(4.1)	73(15.1)
98	友の会	478	119(24.9)	39(8.2)	21(4.4)	68(14.2)
87	職安男子	333	74(22.2)	10(3.0)	28(8.4)	61(18.3)
67	N家座談	353	109(30.9)	28(7.9)	11(3.1)	61(17.3)
3	I夫妻	578	151(26.1)	51(8.8)	30(5.2)	79(13.7)
93	魚屋	528	159(30.1)	39(7.4)	33(6.3)	80(15.2)
97	U氏談	386	102(26.4)	16(4.1)	25(6.5)	68(17.6)
	ニュース	143	90(62.9)	0(0)	43(30.1)	70(49.0)

%は文の数に対する

成分五以上のものも R. 87(職安男子) に多いが (8%), ニュースにおいては30%を占めている。

型の種類の数においても, R. 87(職安男子) に多いが (17%), ニュースにおいては49%となっている。また, ニュースにおいては文の数は143であって多いとは言えないが型の種類は70もあり, 特に談話語には現れなかった型が32ほどあることは注意しなければならない。

総じて談話語は文の構造においても, ニュースなどとかなり様相が違っていることがわかる。そして談話語の中においても話し手や表現的内容や場面などの相違により何程かの差異を見出し得るようである。

41212 第一次の成分の組合せの型 2

以上は, 第一次の成分のうち, 主語・連用修飾語・述語の組合せを中心としたものである。そこでは253種の型を見出すことができた。しかし, 談話語においては応答, 呼びかけ, 間投などの独立語が多いのである。*もし, こ

* 談話のことばと放送のことば 中村通夫 言語生活 第2号
はなしのことば序 伊佐早敦子 国語国文 22の3
話し言葉と書き言葉 遠藤嘉基 言語生活 第21号

これらの独立語を含めて、組合せの型を考えると型の種類はかなり多くなる。また、連体修飾語を受けているかどうかに着目すれば型の種類はさらに多くなる。かようにして調査すると型の種類は768種ほどになる。いまいちいちの型を述べることは紙数の都合上できないが、例をR.61(学生座談) R.2(女子学生)にとって示せば次のようになる。

—は連体修飾語をうけているもの。対等の成分は原則として主成分と一括して示す(雨ト風ガ吹イタ→a,b)。ただし、次のような場合はdとして示す。(学校=モ行キ, 工場=モ行ク→d,y,b)。

〔表 26〕 第一次の成分の組合せの型 2

型	Reel No. 略称	61 学 生座談	2 女 子学生	型	Reel No. 略称	61 学 生座談	2 女 子学生
b		96	131	d d y y b		0	1
d b		10	63	y d d y b		0	1
d d b		0	1	d y <u>d</u> y b		1	0
d d d d b		0	1	<u>y</u> y b		1	1
<u>b</u>		9	14	y <u>y</u> b		2	1
<u>d</u> b		3	1	y y <u>b</u>		0	1
d <u>b</u>		0	1	d y <u>y</u> b		1	0
y b		44	36	d y <u>y</u> b		1	0
d y b		9	15	y d d <u>y</u> b		0	1
y d b		1	1	y <u>y</u> b		3	5
d d y b		1	2	<u>y</u> y b		2	0
d y d b		1	1	d y y b		3	0
y <u>b</u>		2	4	y d <u>y</u> b		1	0
d y <u>b</u>		0	1	y y d b		1	0
y d <u>b</u>		1	0	y d y d b		0	1
<u>y</u> b		7	0	d y d y b		0	1
d <u>y</u> b		1	0	<u>y</u> y b		0	1
<u>y</u> b		20	5	d <u>y</u> y b		0	3
d <u>y</u> b		1	10	y y y b		1	0
d y d b		0	1	d y y y b		0	1
d d y b		0	1	y d y y b		0	1
d d <u>y</u> b		0	1	d y d y <u>y</u> b		0	1
d y d d b		1	0	d <u>y</u> y y b		1	0
y y b		12	9	y y <u>y</u> b		0	2
d y y b		3	1	<u>y</u> y y b		2	0
y d y b		1	0	<u>y</u> y b		1	0

型	Reel No. 略称	61 学 2 女 生座談子学生
<u>y</u> y yb		1 0
y <u>d</u> d yyyb		0 1
d <u>y</u> y yb		1 0
<u>y</u> <u>y</u> d yb		1 0
y <u>d</u> d yyyb		0 1
y yyyb		0 1
d yyyyyb		1 0
d ydydyyyb		0 1
<u>y</u> <u>y</u> y yb		1 0
<u>y</u> <u>y</u> <u>y</u> b		0 1
b <u>d</u>		0 2
d <u>b</u> b <u>d</u>		0 1
y <u>b</u> <u>d</u>		0 1
y yb<u>t</u><u>t</u><u>t</u>		0 1
b <u>y</u>		3 2
<u>b</u> <u>y</u>		1 2
d <u>b</u> <u>y</u>		0 1
<u>b</u> <u>y</u>		1 0
y <u>b</u> <u>y</u>		4 1
d <u>y</u> <u>b</u> <u>y</u>		1 0
y <u>b</u> d <u>d</u> <u>y</u>		1 0
y <u>b</u> <u>y</u>		3 1
d <u>y</u> <u>b</u> <u>y</u>		0 1
<u>y</u> <u>y</u> <u>b</u> <u>y</u>		1 0
<u>y</u> <u>y</u> <u>b</u> <u>y</u>		1 0
a <u>b</u>		17 25
d <u>a</u> <u>b</u>		7 6
a <u>d</u> <u>b</u>		1 1
d <u>d</u> <u>a</u> <u>b</u>		1 0
d <u>d</u> d <u>d</u> <u>a</u> <u>b</u>		0 1
<u>d</u> <u>a</u> <u>d</u> <u>b</u>		1 0
<u>d</u> <u>a</u> <u>b</u>		1 0
d <u>d</u> <u>a</u> <u>b</u>		0 1
a <u>b</u>		2 1
a <u>d</u> <u>b</u>		0 1
d <u>a</u> <u>d</u> <u>b</u>		0 1
<u>a</u> <u>b</u>		5 6

型	Reel No. 略称	61 学 2 女 生座談子学生
d <u>a</u> <u>b</u>		1 2
<u>a</u> <u>d</u> <u>b</u>		0 1
d <u>d</u> <u>a</u> <u>b</u>		0 1
d <u>d</u> d <u>a</u> <u>d</u> <u>b</u>		0 1
<u>d</u> <u>a</u> <u>b</u>		0 1
a <u>b</u>		2 4
d <u>a</u> <u>b</u>		1 1
<u>a</u> <u>b</u>		2 0
a <u>y</u> <u>b</u>		10 4
d <u>a</u> <u>y</u> <u>b</u>		2 4
d <u>d</u> d <u>a</u> <u>y</u> <u>b</u>		0 1
a <u>y</u> <u>b</u>		1 0
a <u>d</u> <u>y</u> <u>b</u>		1 0
<u>a</u> <u>y</u> <u>b</u>		2 1
d <u>a</u> <u>y</u> <u>b</u>		0 2
a <u>y</u> <u>b</u>		1 0
<u>a</u> <u>d</u> <u>y</u> <u>b</u>		0 1
a <u>y</u> <u>b</u>		3 0
<u>a</u> <u>y</u> <u>b</u>		1 0
<u>a</u> <u>y</u> <u>b</u>		0 2
d <u>a</u> <u>y</u> <u>b</u>		2 0
a <u>y</u> <u>y</u> <u>b</u>		3 1
d <u>a</u> <u>y</u> <u>y</u> <u>b</u>		0 1
d <u>a</u> <u>y</u> <u>y</u> <u>b</u>		0 1
d <u>a</u> <u>y</u> <u>y</u> <u>b</u>		0 1
a <u>y</u> <u>y</u> <u>b</u>		3 0
d <u>a</u> <u>y</u> <u>y</u> <u>b</u>		0 1
<u>a</u> <u>y</u> <u>y</u> <u>y</u> <u>b</u>		0 1
d <u>d</u> <u>a</u> <u>y</u> <u>y</u> <u>y</u> <u>b</u>		0 1
a <u>y</u> <u>y</u> <u>y</u> <u>b</u>		0 2
<u>a</u> <u>y</u> <u>y</u> <u>y</u> <u>b</u>		0 1
y <u>a</u> <u>b</u>		6 3
y <u>d</u> <u>a</u> <u>b</u>		0 2
y <u>a</u> <u>b</u>		0 1
y <u>d</u> <u>a</u> <u>b</u>		0 1
y <u>a</u> <u>b</u>		1 0

Reel No. 略称 型	61 学 生座談	2 女 子学生
y a b	0	2
y a b	1	0
y y a b	2	0
y d d y d a b	0	1
d d y d d y a d b	0	1
y y d a b	1	0
y y y a b	0	1
y y y a b	1	0
d y y y a b	0	1
d y y d y a b	0	1
y a y b	2	7
y a y b	0	1
y a y b	0	1
d y a y b	1	0
d y a y b	1	0
d y d y a y b	0	1
d y y d d a y y b	0	1
d y y d d a y y b	0	1
y y y a y b	1	0
y d y y a y y b	1	0
d y d y y a y y b	0	1
a d d b d	1	0
a b t	0	1
a b y	1	4
a b y	0	1
a d b y	1	0
d d a b d y	0	1
a b y	1	0
a b y	1	0
a y b y	0	1
d a d y b y	1	0
d a y y y b y	0	1
d y a b y	0	1
d y y a b y	1	0
d y a y b y	0	1

Reel No. 略称 型	61 学 生座談	2 女 子学生
y a d b y d y	1	0
y a b y y	1	0
b a	1	2
b a	1	0
b a	0	1
d b a	0	1
d b a	1	0
y b a	5	0
y b a	1	0
y b d a	1	0
y y b a	0	1
d y y y b a	1	0
b a y	1	0
a a b	0	1
d a a y b	1	0
d d a y a b	1	0
y d a a b	0	1
y y a a b	0	1
a y a y b	1	0
d a y y y y a y y b	0	1
y a a b y	1	0
d a b a	0	1
d a b y a	0	1
y a b a	1	0
a d a a b	0	1
d a a b a	0	1
a a b a	1	0
y a a b d a	1	0
d	19	93
文の数	400	563
型の種類	106	121
dのある文の数	99	267
dのある型の種類	49	75
連体修飾語のある文の数	63	73
連体修飾語のある型の種類	36	43

以上の表によってもわかるように談話語には独立語を含む文の数が多し。したがってまた独立語を含む型も多い。テープ10巻全部について、独立語や連体修飾語を考慮すると、第一次の成分の組合せの型は768になるが、それも談話語に、呼びかけ・応答・間投などの独立語が多いことを考える必要がある。このように独立語を含む文の数が多しことはR. 61(学生座談)やR. 2(女子学生)の場合に限らず、談話語一般の特性と考えてよい。

談話語のなかでも、話し手、話題、場面などの相違により、かなりの違いが見られる。たとえば上記のR. 61(学生座談)とR. 2(女子学生)の場合を例にすれば、独立語を含む文の数はそれぞれ99と267であってR. 2(女子学生)の方がずっと多い。d, b(たとえばマソーデスカ)という一つの型に限ってみても、R. 61(学生座談)ではこの型の文が10回現れているのに対し、R. 2(女子学生)では63回も現れている。

これは話し手の個性ということを始めとして、さまざまな条件を関係づけて考えなければならないから、これをもって、直ちに男子学生と女子学生ということを決定的な条件とするわけにはいかないが、要するに談話語において独立語を含む文が一樣に用いられているのでないことを知ることができる。

この独立語を含む文の型は、基本文型などを考える場合には重視しなくてもよいかもしれないが、談話語の文の構造の実態としては注意すべきものの一つであろう。

連体修飾語によって修飾されているかどうかを考慮すると、やはり型の種類の数にかなりの影響を及ぼすことがわかるが、連体修飾語については後述する。

中止法により、述語と対等の成分を形成する文(たとえば、雨モ降り、風モ吹ク)は談話語には少ない。*(dに注意)

41213 第一次の成分の組合せの型 3

* 談話のことばと放送のことば 中村通夫 言語生活 第2号

次に、第一次の成分が二次以下をうけているかどうかを全く無視し、原則として独立語をも考慮せずに、ただ主語、述語、連用修飾を中心として文の構造を調査すれば次のようになる。

〔表 27〕 第一次の成分の組合せの型 3

b	1348	a b t	1
y b	587	a b y	37
y y b	327	a y b d	2
y y y b	133	y b a	27
y y y y b	40	b a y	2
y y y y y b	14	b y a	2
y y y y y y b	1	y a b t	1
y y y y y y y b	1	y a b y	33
計 種類 8	2451	y y b a	14
b d	11	a b y y	1
b t	2	y b a y	1
y b d	6	y b y a	3
b y	33	a y y b y	3
y b y	50	y a y b y	4
b y y	1	y y a b y	5
y y b t	1	y y y b a	1
y y b y	17	a y b y y	1
y b y y	3	y a b y y	2
b y y y	1	y b a y y	1
y y y b y	2	a y y y b y	2
y y b y y	3	y a y y b y	1
y b y y y	1	y y a y b y	1
y y y b y y	3	y y y a b y	1
y y y b y y y	1	y y y a y b y	1
計 種類 15	135	y y y a y y b d	1
a b	373	y y y y a b	1
a y b	176	a y y y b y y	1
a y y b	54	計 種類 29	182
a y y y b	14	a a b	26
a y y y y b	4	a a y b	5
a y y y y y b	1	a y a b	12
計 種類 6	622	a a y y b	2
y a b	133	a y a y b	3
y y a b	69	a y y a b	6
y a y b	48	a y y a y y b	1
y a y y b	9	a a y y y y y y b	1
y y a y b	22	a y y y a y y b	1
y y y a b	17	y a a b	8
y a y y y b	3	y a a y b	1
y y a y y b	4	y a y a b	3
y y y a y b	4	y y a a b	2
y y y a y y b	3	y y y a y a b	1
y y y y a y b	1	計 種類 14	72
y y a y y y b	1	a b a	7
y y y y y y a b	1	a a b y	5
計 種類 13	315	a y b a	1
b a	25	y a b a	2
a b d	7	a b a y	1

a b y a	1	a a a b	2
a a y b y	1	a y a a b	3
a y a b y	1	y a a a b	1
y a a b y	1	y a a y a b	1
a y y b a	1	y a a y a b	1
y a y b a	1	y a y a a b	1
y y a b a	1	計 種類 6	9
y a y y b a	1	a b a a	1
y y a y b a	1	a a b a	1
a a y y b y	1	y a a b a	1
a y y a b y	1	計 種類 3	3
計 種類 16	27	d	763

このような第一次の成分の組合せの型については、さらにこれを50種ぐら
いにまとめることも可能であるが、いずれにせよ、談話語において、第一次
の成分の組合せという観点から文の構造をみるとときには以上述べたようなこ
とが特徴的なものとして注意されるであろう。もちろん具体的な文は第二次
以下の成分が結合した統一体であるから、第二次以下の成分の組合せの様相
をも統一的にみていく必要があることは言うまでもない。

4122 第二次以下の成分の組合せの型

41221 第二次の成分の組合せの型

次に文の第二次の成分の組合せの型の調査をしてみると、次のようになる。*

これは連体修飾語の場合を除いては、主として述・用, 述・主, 述・独などの

〔表28〕 第二次の成分の組合せの型

型	談話語	ニュ ース	型	談話語	ニュ ース
y	555	54	y y y	2	1
y	139	19	y y y	2	0
y y	140	15	y y y	1	0
y y	37	18	y y y y	4	2
y y	8	4	y y y y	2	0
y y	9	0	y y y y	1	0
y y y	28	3	y y y y y	2	0
y y y	17	8	y y y y y	1	0
y y y	2	0	(y y y)	0	7

* ここでは文全体が聞きとりにくいもの、この部分がよく聞きとることができたときは調査対象に加えてある。

型	談話語	ニュース
(<u>y</u> yyy)	0	2
(y <u>y</u> yy)	0	1
(yy <u>y</u> y)	0	3
a	170	8
<u>a</u>	24	2
a <u>y</u>	43	5
<u>a</u> y	7	5
a <u>y</u>	3	3
<u>a</u> y	1	0
a <u>y</u> y	13	2
a <u>y</u> y	1	0
a <u>y</u> y	3	2
a <u>y</u> y	1	0
a <u>y</u> yy	2	0
a <u>y</u> yy	1	0
ya	39	2
<u>y</u> a	10	2
y <u>a</u>	3	2
yy <u>a</u>	7	1
yy <u>a</u>	4	0
yy <u>a</u>	1	0
yy <u>a</u>	1	1
yy <u>a</u>	1	1
y <u>a</u> y	12	7
<u>y</u> ay	2	2
y <u>a</u> yy	3	0
y <u>a</u> yy	1	0
y <u>a</u> yy	1	0
yy <u>a</u> y	2	0
yy <u>a</u> y	1	0
yy <u>y</u> a	1	0
<u>y</u> yya	2	0
yy <u>y</u> a	2	0
yy <u>y</u> a	1	0
yy <u>y</u> a	1	0

型	談話語	ニュース
yy <u>a</u> yy	2	0
yy <u>y</u> ay	2	0
yy <u>y</u> yy	1	0
(<u>a</u> yy)	0	2
(<u>a</u> yy)	0	2
(<u>a</u> yy)	0	2
(<u>a</u> yy)	0	1
(<u>a</u> yy)	0	1
(y <u>a</u>)	0	3
(y <u>a</u> yy)	0	1
(y <u>a</u> yy)	0	1
(y <u>y</u> ya)	0	1
aa	3	0
<u>a</u> a	1	0
<u>a</u> a	2	0
a <u>a</u> y	1	0
ay <u>a</u>	3	0
<u>a</u> ya	1	0
y <u>a</u> a	1	0
a <u>y</u> ya	1	0
a <u>y</u> ya	2	0
y <u>a</u> ya	1	0
yy <u>y</u> aya	1	0
<u>a</u> ya	1	0
y <u>a</u> aa	1	0
(<u>a</u> a)	0	1
(<u>a</u> ya)	0	1
(<u>a</u> ya)	0	1
(y <u>a</u> a)	0	1
t	575	142
<u>t</u>	109	39
延	2022	381
型の種類	67	43

成分の内部構造であるが、この場合にも少数の型の頻度数が著しく高い。談話語とニュースとを比較すると型の種類が延の数に比してニュースに多いことが注意される。ニュースには談話語にない型が17もある。これはやはり第二次の型の延の数が談話語においては文の総数の半分以下であるのにニュースでは二倍以上あることや、ニュースに連体修飾のものが多くことともに談話語とニュースとの違いを示すものであろう。

談話語において、11回以上現れた型はつぎの14種である。つまり表29に見られるように、多く用いられる型はやはり大体において簡単であり、短い。

〔表29〕第二次、11回以上の型

型	頻度数
y	555
<u>y</u>	139
y y	140
<u>y</u> y	37
y y y	28
<u>y</u> y y	17
a	170
<u>a</u>	24
a y	43
y a	39
a y y	13
y a y	12
t	575
<u>t</u>	109
型の種類 14(20.9%)	1901 (94.0%)

この14種の型は型の種類としては全体の21%に過ぎないのに延の数は全体の94%を占めていることは十分に注意しなければならない。

この様相は各巻を通じて言い得ることである。もちろん各巻ごとの差異が全くないわけではないが(第二次以下の文の構造が各巻ごとにどのような差異を表しているかは後述する)、この14種の型などは大体において、どの巻においてもかなり頻繁に用いられている。このように少数の型が頻用されることはニュースについても、同様なこと

と言える。

次に、第二次の文の構造(述語と第二次の関係にある成分の組合せの型)について、(1) 総主のあるもの(主語が二つ以上あるもの)、(2) 主語が一つあるもの、(3) 主語のないもの(主として連用修飾語よりなるもの)(4) 連体修飾語よりなるもの、に分類して、それぞれに属する型の種類の数と延の

〔表 30〕 第二次、型の種類と文の数

型	談話語		ニュース	
	型の種類 (%)	延 (%)	型の種類 (%)	延 (%)
総主のあるもの (主語が二つ以上あるもの)	13(19.4)	19(0.9)	4(9.3)	4(1.0)
主語のあるもの	35(52.2)	369(18.2)	24(55.8)	59(15.5)
主語のないもの	17(25.4)	950(47.0)	13(30.2)	137(36.0)
連体修飾語	2(3.0)	684(33.8)	2(4.7)	181(47.5)
計	67(100)	2022(100)	43(100)	381(100)

数とをみると〔表30〕のようになる。このうち(1), (2), (3)は主として述・主、述・用、述・独の成分の内部構造であることは既述のとおり。

この表によれば、型の種類は主語のあるものに多くみられるが、延の数はつまり頻度数は、主語のないものや連体修飾語に多い。これはニュースにおいても同様であるが、ニュースにおいては連体修飾語によるものが特に多くなっていることが注意されるのである。(ニュースにおいて、第三次、第四次など多次の文構造のものが多く、したがって第二次の成分の組合せの型においても、うける成分が談話語の場合より多いことは当然であるが、いまはこのことに深くはふれない。)

41222 第二次以下の成分の組合せの型

以上は第二次の成分の組合せの型を総合的にみたものである。そこでは、各巻ごとの相違(話し手、話題、場面などに規制されている具体的表現における型の相違)や、うけている一次の成分の別による相違(うけている一次の成分が述・主であるか、述・用であるかなどによって、かかっている二次以下の成分の組合せの型に相違がないであろうか)などは考慮されなかった。

次に第二次以下の成分の組合せの型をこのような点を考慮しながら示すと〔表31, 32, 33, 34, 35〕のとおり。

ここでは、述・主、述・用、述・独(用言の中止法などにより、述語と対等の関係にあるものなど)などのそれぞれの一次成分ごとにまとめられている。

また、一次の成分が連体修飾語によって修飾されている場合には、その連体修飾語が三次以下の成分をうけているものだけを掲げた。

対等の関係にあるものは原則として、ここでは取り上げていない。(たとえば、^(対)雨ト ^主風ガ ^述吹ク。^(対)勉強ヤ ^用運動オ ^述スル。^(対)コレワ ^主弟ト ^(対)妹デス。のような場合には対等の関係にある「雨ト」、「勉強ヤ」、「弟ト」は第二次の成分と考えてよいと思うが、ここでは取り上げなかった。)

また、連用修飾語(副詞)が連用修飾語(副詞)を修飾するものもこの表には掲げていない。*

[表 31])by の 型

Reel No.	2	64	79	88	61	87	67	8	93	97	計							
略称	女子三	無	尽	女	の	学	生	職	安	N	家	I	夫	魚	屋	U	氏	計
型	学生	女	工	の	会	会	座	談	男	子	座	談	妻	魚	屋	U	氏	計
y	35	32	40	41	42	23	33	42	52	38	378							
y, d							1				1	2						
d, y			1	2	4	2		3	2	3		17						
y, t						1						1	2					
y/d ₄ /t												1	1					
d, d, y	1	1							1			3						
y, y	9	10	5	13	8	3	9	11	15	9	92							
y, d, y	4	3		2		1	1				11							
y, y/d ₄ /				1							1							
d, d, y, y										1		1						
y, y, y			1		3	1		1	3	4	1	14						
y, y/d ₄ /y							1		1		1	3						
y, y, y, y									1	1		2						
y, y, y, y, y									1			1						
y, y/d ₄ /y/d ₄ /y, y					1							1						
a	11	10	19	7	19	10	9	14	14	9	122							
/d ₄ /a	1										1							
/d ₄ /a/d ₄ /					1						1							
a, t	1										1							
a, y	3	2	5	1	8		4		3	2	28							

* 以上の理由などにより、この表の数字と〔表28〕などの数字とは一部に微細な異動がある。

Reel No.	略称	2	64	79	98	61	87	67	3	93	97	計
型		女子三鷹 学生会の 女子工の 会	無尽 の会	友の 会	学生 の会	職安 男子 座談	N家 I夫 座談	魚 屋 談	U氏 談			
a, y, y			2		1		1		2	1		7
a, y, y, y			1									1
y, a		2	4	4	1	5		1	3	4	4	28
d, y, a					1		1				1	3
y, a, y			2	1	2			1			2	8
y/d ₄ /a, y								1				1
y, a, y, y			1								1	2
y, y, a			1				1	1	2	1		6
y, y, a, y			1					1				2
y, y, a, y, y		1										1
y, y, y, a, y				1	1							2
d ₁ /d ₃ /y, y, a, y, y										1		1
a, a									1			1
a, y, a				1	1				1			3
(延)		(68)	(69)	(81)	(80)	(87)	(41)	(67)	(82)	(101)	(72)	(784)
(型の種類)		(10)	(13)	(11)	(15)	(9)	(8)	(14)	(12)	(12)	(14)	(34)
[t]y		2	8	5	5	5	12	3	7	9	6	62
d,[t]y										1		1
[t]/d ₄ /y								1		1		2
d ₂ /d ₄ /[t]/d ₄ /y										1		1
[t][t]y							1					1
[t]/d ₄ /[t]y		1										1
[y]y									1	1		2
[y]by		1	4	5	6	1		1	2	7	2	29
[y y]by					2					1	2	5
[y, y, y, y/d ₄ //d ₄ /y]by								1				1
[a]by						1	1		1	1	2	6
[a, y]by					1						1	2
[a, y/d ₄ /y]by				1								1
[y, a]by				1	1							2
[y, a, y]by									1			1
[y, a, a]by					1							1
[y, y]/d ₄ /by				1								1
[y, y]by/d ₄ /										1		1
d[y]by		1			1							2

Reel No.	略称	2	64	79	98	61	87	67	3	93	97	計
型		女子三鷹 学生女工の会	無尽の会	友の会	学生座談	職安座談	N家男子	I夫座談	魚屋	U氏		
{t}y, y		1						2	1	6	1	11
{t}/d ₄ /y/d ₄ /y								1				1
y/d ₄ /{t}y/d ₄ /						1						1
{t}{t}y, y											1	1
{y}y, y		1										1
y{t}y		1						2	2	1		6
y, d{t}y			1					1				2
{t}y/d ₄ /{t}y								1				1
{y}by, y		1	2			1	1	1	3	2	1	12
{y, y}by, y									1			1
{a}by, y		1										1
{a, y}by, y					1							1
{a, y, y}by, y									1			1
{y, a, y}by, y						1						1
{y}by, d ₁ , y										1		1
{y, y}by, d, y					1			1				2
y{y}by						1			1			2
y{a}by									1	1		2
{y, y, y, y}by{t}y			1									1
{a}by{y}by		1										1
{y}by{y}bd ₂ , y					1							1
/d ₄ /{t}y, y, y										1		1
/d ₄ //d ₄ /{t}y, y, y						1						1
y{t}y, y					1							1
y, y{t}y							1					1
{y}by, y, y											1	1
{y}by, y, y		1			1	1				1		4
{/d ₃ /y, y, y}by, y, y						1						1
{d ₇ , a, y}by, y, y						1						1
{a/d ₄ /y, y, y}by, y, y		1										1
y{y}by, y									1			1
y, y/d ₄ /{y}by		1										1
{y, y}by, y{t}y										1		1
{y, y, y}by, y{t}y		1										1
{y}by{a}by{y}by									1			1
y, y{t}y, y								1				1

Reel No.	略称	2	64	79	98	61	87	67	3	93	97	計		
型		女子学生	三工	無会	尽の会	女の会	学生座	職談	安男子	N座	I談	夫妻	魚座	氏談
y/d ₃ 〔a〕by, y〔y, y〕by								1				1		
〔y〕by, y, y, y, y						1						1		
〔t〕a		2		1	1	4	2	2		3		15		
〔t〕d ₇ , a		1										1		
〔t〕〔t〕a		1			1							2		
〔y〕ba							1	1	1			3		
〔y, y〕ba			1		1				1			3		
〔a〕ba			1								1	2		
〔a〕/d ₄ //d ₄ /ba〔t〕								1				1		
〔y, a〕ba						1						1		
〔t〕a, y					1		1		1	1		4		
a〔t〕y						1		2				3		
a/d ₄ /〔t〕y											1	1		
〔t〕a〔t〕y						1						1		
〔y〕ba, y			1									1		
〔a〕ba, /d ₄ /y											1	1		
a〔y〕, by							1					1		
〔t〕a, y, y											1	1		
〔y, a〕ba, /d ₄ /y, y								1				1		
a〔y〕by, y						1						1		
a〔a〕by, y				1								1		
〔t〕a,〔a〕by, y									1			1		
a, y, y,〔t〕y										1		1		
a〔y, a〕by, y, y					1							1		
a〔y〕y, y,〔y〕by			1									1		
〔t〕y, a										1		1		
y〔t〕a										1		1		
d ₇ , y,〔t〕a				1								1		
y/d ₄ /〔t〕a											1	1		
〔y〕by, a				1	1						1	3		
〔a, y〕by, a					1							1		
y〔t〕a, y				1						1	1	3		
〔t〕y, a, /d ₄ /y, y									1			1		
y, a〔a〕by, y									1			1		
〔t〕y, y, a											1	1		
y, y〔t〕〔t〕a							1					1		

Reel No.	略称	2	64	79	98	61	87	67	3	93	97	計
型		女子三鷹無尽の学生会	友の会	職安N座談	家I男子座談	夫魚屋	U氏談					
(y , y , y)by, y , a										1		1
y (y , y)by, a								1				1
(a)by, y , y , a										1		1
y (y)by, y / d ₅ / (t) a							1					1
y (y)by (y)by / d ₄ / a							1					1
{ (y , y , a)by (t) (t) y , y	1											1
{ (t) a											1	1
y , y , y , y / d ₄ / (t) a , y										1		1
(t) a , a								1				1
a (t) a									1			1
(t) (t) / d ₄ / (t) a (y)ba								1				1
(t) a / d ₄ / a (t) y				1								1
(y , a)ba (y)by, a										1		1
(t) a , y , y , a								1				1
/ d ₄ / a (a)by, y , a									1			1
{ a / d ₃ / d ₃ / (a)by, d ₁ / d ₃ / y , a										1		1
{ y (a)by (y)by, a . (y)											1	1
bd ₂ , y , a										1		1
y / d ₄ / a (a)ba, a									1			1
d ₇ (y)by, a / d ₄ / (a , y , a)by, a									1			1
(延)												(13)(25)(22)(32)(19)(26)(24)(35)(51)(27)(274)
(型の種類)												(11)(14)(14)(22)(12)(14)(19)(25)(28)(19)(109)
([t] t) y							1	1	1		1	4
([t] t) (t) y									1			1
([y] bt) y							1	1				2
([a] bt) y							1		1	1		3
([t] y) by				3			1					4
([t] / d ₄ / [t] y) by							1					1
([t] y) / d ₃ / by										1		1
([y] [t] y) bd ₇ , y				1								1
([y] by) by			1				1	1				3
([y] bd ₂ , y) by, d ₂			1									1
([a] [t] by) by			1									1
([a , y , y , y , y] by, d ₁ , y) by			1									1
([t] y , y , y) by			1									1
(y , y , d ₇ [t] y) by							1					1
([y , y] by [a] by, y) by										1		1

Reel No.	略称	2	64	79	98	61	87	67	3	93	97	計
型		女子学生	三鷹学生会	無尽の会	友の会	学生座談	職安座談	N家男子	I夫座談	妻魚屋	U氏談	
{ a [t] [t] y } by										1		1
{ a [y, y] by } by									1			1
{ [y] by, a } by		1										1
{ y [y] by, a [t] y } by				1								1
{ [a] by [y, a] by, a [y] }							1					1
{ by } by									1			1
{ [y, y, y] by [t] y } by										1		1
{ [t] t } y, y										1		1
{ [y] bt } y, y		1								1		2
{ [a] bt } y, y											1	1
{ [t] t } y } [y] bt } y											1	1
{ [t] y, y } by, y		1										1
{ [y] by, y } by, y			1									1
{ [[y, y] by [y, y] by, a }										1		1
{ by, y												1
y, / d ₄ / [[t] y] by / d ₄ /		1										1
y [[t] a, y] by										1		1
y / d ₄ / [[y] y] by											1	1
{ [[t] y] by / d ₄ / [[t] y }		1										1
{ [[y] by, y] by / d ₃ / [[y] }											1	1
{ bt } y											1	1
{ [y] by [[y] bt } y											1	1
{ [y] by } by [y, a] by					1							1
{ y / d ₄ / [[t] a] by [y] by										1		1
{ [y] ba [t] y } by [y] by									1			1
{ y, y } by / d ₄ / [[t] y, y] by											1	1
{ [a, y, y] by / d ₄ / [[y] t] a }								1				1
{ by												1
{ [[t] y] by / d ₄ / y, y											1	1
{ y [[t] y] by [y, a] by								1				1
{ [y, y] by } by, y, y					1							1
{ [y, y] by, y / d ₄ / [[t] t] y }											1	1
{ [y / d ₆ / d ₄ / y] by [[y] by,								1				1
{ y] by, y, d ₆												1
{ [[t] y [y] by, d ₁ , y [[t] }									1			1
{ [[y, y] bt } y												1
{ [[t] t] a				1								1
{ [[y] bt] a						2						2
{ [[a] bt] a				1								1
{ [[a] bt] [[t] a											1	1
{ [[y, y, y] by] / d ₄ / ba / d ₄ /								1				1

Reel No.	略称	2	64	79	98	61	87	67	3	93	97	計
型		女子三鷹無尽女の学生職安N家I夫魚屋U氏計 学生女工の会会座談男子座談妻魚屋談										
(延)		(1)	(0)	(4)	(0)	(0)	(0)	(1)	(1)	(3)	(2)	(12)
(型の種類)		(1)	(0)	(4)	(0)	(0)	(0)	(1)	(1)	(3)	(2)	(12)
	{[[[t]y]by/d ₄ /y, a] }bt)[t]y						1					1
	{[[[t]a, y]by/d ₄ /a]by, }y]by		1									1
	{(a)by[[[a, a]by[t]y, }y, y]by, a]bt] a [[[t]y]bt]y [t]a]ba			1					1			1
	{[[[t]a, y]bd ₂ [[[t]y] }by, y, y]bt]y, y, a					1						1
	{[[[y, y]by[[[a, y, y]bt] }t]y, y, y]by, y, y, y			1								1
(延)		(0)	(1)	(2)	(0)	(0)	(2)	(0)	(1)	(0)	(0)	(6)
(型の種類)		(0)	(1)	(2)	(0)	(0)	(2)	(0)	(1)	(0)	(0)	(6)
型の種類合計(文の数に対する%)		26 (4.6)	33 (5.6)	41 (8.5)	39 (8.2)	24 (6.0)	31 (9.3)	46 (13.0)	48 (8.3)	54 (10.2)	49 (12.7)	229 (4.9)
延 合計(文の数に対する%)		86 (15.3)	100 (16.9)	122 (25.2)	114 (23.8)	110 (27.5)	76 (22.8)	104 (29.5)	128 (22.1)	166 (31.4)	118 (29.8)	1121 (23.9)

[表 32]) ba の型

Reel No.	略称	2	64	79	98	61	87	67	3	93	97	計
型		女子三鷹無尽女の学生職安N家I夫魚屋U氏計 学生女工の会会座談男子座談妻魚屋談										
y		5	8	5	3	5		5	3	2	2	38
y, y				2	1							3
y, y, y					1						1	2
y, y, y, y				1								1
a		1		2	3	2	1	1		1	1	12
a, y					1	2				1	1	5
y, a			1						1			2
(延)		(6)	(9)	(10)	(9)	(9)	(1)	(6)	(4)	(4)	(5)	(63)
(型の種類)		(2)	(2)	(4)	(5)	(3)	(1)	(2)	(2)	(3)	(4)	(7)
[t]y			1			3		1			1	6
[t][t]y, y			1									1
[t]y, y, y					1							1

Reel No.	略称	2	64	79	98	61	87	67	3	93	97	計
型		女子学生	三鷹女子工	無尽の会	友の会	学生座談	職安座談	N家男子	I夫座談	魚屋	U氏座談	
[y]by					1	1		2			1	5
[Y, y]by							1					1
[a]by		1	1					1			1	4
[y]by, y				1								1
[y]by, / d ₂ / y			1									1
[a]by, y				1								1
[t]a			1									1
[a]ba, t			1									1
[y]ba, [y]by						1						1
[t]a, y, y										1		1
a, y [y]by									1			1
(延)		(1)	(6)	(2)	(2)	(5)	(1)	(4)	(1)	(1)	(3)	(26)
(型の種類)		(1)	(6)	(2)	(2)	(3)	(1)	(3)	(1)	(1)	(3)	(12)
[[y] / d ₄ / by, y]by			1									1
[[t] y, y]by, y, y					1							1
[[y]bt]a											1	1
(延)		(0)	(1)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(3)
(型の種類)		(0)	(1)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(3)
y [[[t] y]ba]by			1									1
(延)		(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)
(型の種類)		(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)
{ [[[t] y]by, y, y]bd ₂ }												
{ [[d ₇] a]by, y]bt]y, / d ₄ /								1				1
[y [t] y												
(延)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(1)
(型の種類)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(1)
延 合計		7	17	12	12	14	2	11	5	5	9	94
延の種類合計		3	10	6	8	6	2	6	3	4	8	24

〔表 33〕) bd の 型

Reel No.	略称	2	64	79	98	61	87	67	3	93	97	計
型		好子	三鷹	無尽	女の	学生	職安	N家	I夫	魚屋	U氏	談
		学生	女工	の会	会	座談	男子	座談	妻			
y		2	6			1			4	4	3	20
y, y				1	1			1	1		1	5
y, d, y					1		1	1				3
y, y, y			1							1	1	3
a					2		1	2	3	2		10
a, y, y				1								1
y, a							1					1
y, y, y, a											1	1
(延)		(2)	(7)	(4)	(2)	(1)	(3)	(4)	(8)	(7)	(6)	(44)
(型の種類)		(1)	(2)	(3)	(2)	(1)	(3)	(3)	(3)	(3)	(4)	(8)
{t}y						1		1			1	3
{a, y}by				1								1
d ₁ {y}by										1		1
{t}y{t}{t}y											1	1
{y}by, y				1						1		2
{t}a								1				1
{t}{t}a, y, y					1							1
{t}d, y, a								1				1
{a}by, a										1		1
{a}by, a, y				1								1
(延)		(0)	(0)	(3)	(1)	(1)	(0)	(3)	(0)	(3)	(2)	(13)
(型の種類)		(0)	(0)	(3)	(1)	(1)	(0)	(3)	(0)	(3)	(2)	(10)
{[y]by [t]y}by								1				1
{[y, y]bt}a										1		1
{[t][t]y}/d ₃ //d ₄ /ba								1				1
{[y]bt}a, y				1								1
(延)		(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(2)	(0)	(1)	(0)	(4)
(型の種類)		(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(2)	(0)	(1)	(0)	(4)
{[y]by [t]}/d ₄ /bt}a										1		1
{/d ₃ //d ₄ /[y]bt}a, y}by				1								1
{[t]a, y}by, a												1
(延)		(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(2)
(型の種類)		(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(2)

Reel No. 略称	2	64	79	98	61	87	67	3	93	97	計
型	女子三鷹無尽友の学生会職安N家I夫魚屋U氏 学生女工の会会生談男子座談妻										
延 合計	2	7	9	3	2	3	9	8	12	8	63
型の種類合計	1	2	8	3	2	3	8	3	8	6	24

[表 34]] bt) の 型

Reel No. 略称	2	64	79	98	61	87	67	3	93	97	計
型	女子三鷹無尽友の学生会職安N家I夫魚屋U氏 学生女工の会会安談男子座談妻										
y	5	4	4	1	6	1	5	6	9	7	48
y, d		1								1	2
d, y, d	1										1
y, y	1			2					1		4
y, y, d				1							1
y, d, y		1								1	2
y, y, y				1							1
a	2	1	1	1	2	1		1	2	1	12
a, y				1			3		2		6
y, a										1	1
y / d ₄ / a				1							1
(延)	(9)	(7)	(6)	(7)	(8)	(2)	(8)	(7)	(14)	(11)	(79)
(型の種類)	(4)	(4)	(3)	(6)	(2)	(2)	(2)	(2)	(4)	(5)	(11)
[t]y		1			2	1			1	1	6
[y]y								1			1
[y]by									1	1	2
[y, y]by									1		1
[a, a]by					1						1
y [d ₂ , y] b d ₂ , y								1			1
[y]by, y				1				1	1		3
[y, y]by, y					1						1
[y / d ₄ / y]by, y						1					1
[a]by, y		1									1
[a]by [t]y			1								1
y [y]by										1	1
[y]by, y, y			1								1
y [y, y, a]by, y [t]y						1				1	2

Reel No.	2	64	79	98	81	87	67	3	93	97	計
略称	女子	三鵬	無尽	女の	学生	職安	N家	I夫	魚屋	U氏	
型	学生	女工	の会	会	座談	男子	座談	妻			
{[y]bd ₂ [y]bd ₂ [y]bd ₂										1	1
{[y, y]by											
[t]a			1		1						2
[t]a, y			1						1		2
a[y, a]by									1		1
/d ₄ /d ₇ [a]by, y, a							1				1
y, y, y[t]a									1		1
(延)	(0)	(2)	(4)	(1)	(5)	(3)	(1)	(3)	(7)	(5)	(31)
(型の種類)	(0)	(2)	(4)	(1)	(4)	(3)	(1)	(3)	(7)	(5)	(20)
[[t]]t]y									1	1	2
(延)									(1)	(1)	(2)
(型の種類)									(1)	(1)	(1)
延 合計	9	9	10	8	13	5	9	11	22	16	112
型の種類合計	4	6	7	7	6	5	3	6	12	10	32

〔表 35〕]t) の型

Reel No.	2	64	79	98	61	87	67	3	93	97	計
略称	女子	三鵬	無尽	女の	学生	職安	N家	I夫	魚屋	U氏	
型	学生	女工	の会	会	座談	男子	座談	妻			
[t]t	2	3	2	5	5	5	6	1	10	4	43
[t]y, t									1		1
[t][t]t									1	3	4
[t]y[t]t						1					1
[[a]bt]t						1				1	2
[[y]bt][t]t										1	1
延 合計	2	3	2	5	5	7	6	1	12	9	52
型の種類合計	1	1	1	1	1	3	1	1	3	4	6
延 総計	106	136	155	142	144	93	139	153	217	157	1442
	(18.8)	(23.1)	(32.0)	(29.7)	(36.0)	(27.9)	(32.4)	(26.5)	(41.1)	(40.7)	(30.7)
型の種類総計	35	52	63	58	39	44	64	61	81	77	315
	(6.2)	(8.8)	(13.0)	(12.1)	(9.8)	(13.2)	(18.1)	(10.6)	(15.3)	(19.9)	(6.7)

以上のようにどの表においても、また各巻を通じて多く現れている型は比較的簡単な型であって、多次の長い型はあまり用いられない。うけている一

次の成分が何であるかによって、その内部構造の型がどのような相違を示すかということも、積極的には現れていないようである。しかし、うけている一次の成分が述・用の成分である場合は延の数も多く、型も多い。

話し手や話題や場面などとの関係について一言すれば、R.2(女子学生)やR.61(学生座談)のような場合には、二次以下の成分の組合せも比較的簡単に短いものが多いが、R.87(職安男子)のような場合や、R.97(U氏談)やR.93(魚屋)やR.79(無尽の会)のような場合のものには、その型も複雑(多次であり、長い)であるものが多い。

型の種類はR.93(魚屋)やR.97(U氏談)やR.67(N家座談)に多く現れている。たとえば、一次の述・用の成分にかかっているものについて言えば、実数も文の数に対する%もともに多く、%はそれぞれ10.2%, 12.7%, 13%, となっている。これに対し、R.2(女子学生)やR.64(三鷹女工)やR.61(学生座談)ではそれぞれ4.6%, 5.6%, 6.0%となっている。延の数もほぼ同様な結果がみられるが、しかし、この場合にはR.61(学生座談)は異なる。つまり延の数が少ないのはR.2(女子学生), R.64(三鷹女工)などで、R.61(学生座談)はR.3(I夫妻), R.79(無尽の会), R.98(友の会), R.87(職安男子)よりも多くなっている。

42 各成分の比率

主語、述語、連体修飾語、連用修飾語、独立語の各成分がどのような割合になっているかをニュース、新聞と比較しつつ示せば〔図表13〕のようになる。(新聞は新聞用語研究第25号による。)

これによれば談話語とニュースと新聞とに異同の著しいものは連体修飾語と独立語である。談話語では独立語の割合が多く、連体修飾語の割合が少ない。新聞では連体修飾語の割合が多く、独立語の割合が少ない。ニュースはその中間的様相を示している。

〔図表 13〕 成分の比率

談話語 (一次)	主		述		連用		独立			
	11.4%		35.3		29.6		23.7			
談話語 (総計)	主		述		連体		連用		独立	
	12.0		26.0		7.0		35.7		19.3	
ニュース (一次)	主		述		連用		独立			
	15.7		23.4		47.9		13.0			
ニュース (総計)	主		述		連体		連用		独立	
	11.1		7.5		29.1		43.5		8.8	
(新聞用語研究第25号)										
新聞	主		述		連体		連用		独立	
	11.1		15.2		31.5		38.7		3.5	

43 各成分の構造

431 主語

談話語の主語の構造はどのようであろうか。主語を (1)体言だけによるもの、(2)～ハ助詞によるもの、(3)～が助詞によるもの、(4)その他、に分類し、その使用度数を調査すると〔表36〕のようになる。(新聞は新聞用語研究第25号による。以下同じ。)

これによれば談話語においては体言だけによるものが29%ほどあるが、ニュースや新聞ではそれぞれ0%、10%ほどになっている。また～ハ助詞によるものは談話語には24%しかないが、ニュース71%、新聞47%であって大きな差異を示している。～が助詞、～モ助詞によるものも談話語に比較的多いが、反対に「その他」は談話語には比較的少ない。「その他」のなかには～デハという言い方がニュース、新聞にそれぞれ8%、4ずつ含まれている。

これらの事実はいずれも談話語の特徴を示すものであろう。

〔表 36〕 主語の構造

	体言だけ(%)	～ハ(%)	～ガ(%)	～モ(%)	他(%)	
総数	386(28.9)	316(23.7)	447(33.5)	90(6.7)	97(7.3)	1336(100)
Reel No. 略称						
2女子学生	57(46.3)	13(10.6)	39(31.7)	8(6.5)	6(4.9)	123(100)
64三鷹女工	68(48.2)	25(17.7)	34(24.1)	8(5.7)	6(4.3)	141(100)
79無尽の会	47(29.9)	34(21.7)	46(29.3)	11(7.0)	19(12.0)	157(100)
98友の会	43(33.9)	28(22.0)	32(25.2)	19(15.0)	5(3.9)	127(100)
61学生座談	37(28.5)	30(23.1)	53(40.8)	4(3.1)	6(4.6)	130(100)
87職安男子	18(20.9)	40(46.5)	15(17.4)	5(5.8)	8(9.3)	86(100)
67N家座談	24(18.0)	50(37.6)	51(38.3)	6(4.5)	2(1.5)	133(100)
3I夫妻	41(26.1)	44(28.0)	51(32.5)	13(8.3)	8(5.1)	157(100)
93魚屋	42(24.4)	21(12.2)	81(47.1)	3(1.7)	25(14.5)	172(100)
97U氏談	9(8.2)	31(28.2)	45(40.9)	13(11.8)	12(10.9)	110(100)
ニュース	0	68(70.8)	20(20.8)	0	8(8.3)	96(100)
新聞	(9.7)	(47.4)	(26.0)	(2.5)	(14.4)	

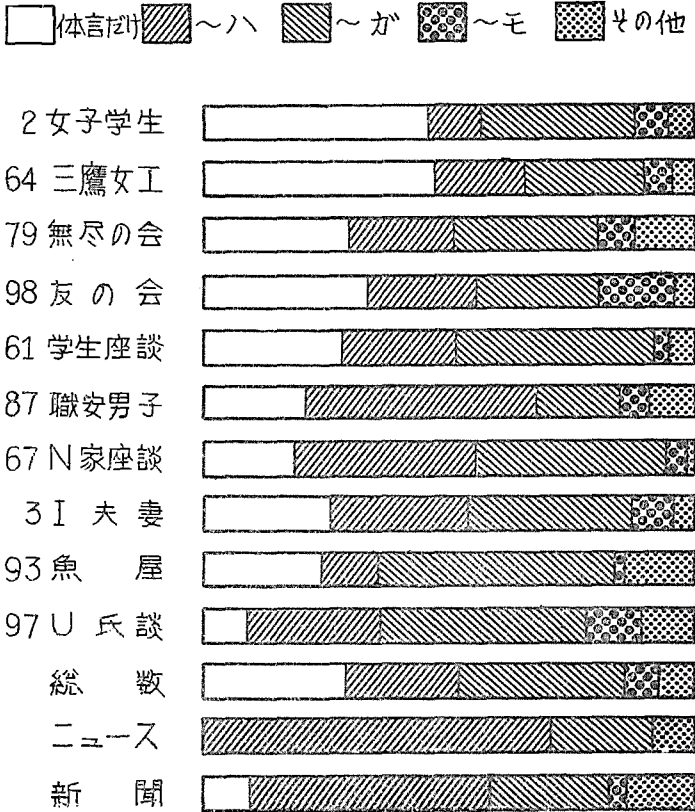
談話語のなかでも、それぞれに違いがみられる。談話語10巻、ニュース、新聞の主語の構造をスペクトルグラフによって示せば〔図表13〕のようになる。

これによれば、体言だけによる主語の割合はR.64(三鷹女工)、R.2(女子学生)に多く、R.87(職安男子)、R.97(U氏談)、R.67(N家座談)には少ない。また～ハ助詞による主語はR.64(三鷹女工)、R.2(女子学生)、R.93(魚屋)などに少なく、R.97(U氏談)やR.87(職安男子)に多い。これはもちろん、話題や表現内容などによることではあろうが、～ガ助詞によるものがR.61(学生座談)、R.67(N家座談)、R.93(魚屋)に多く、R.87(職安男子)に少ないことや、～モ助詞によるものがR.98(友の会)、R.97(U氏談)に比較的多く、R.93(魚屋)に少ないことなどとともに注意すべきことであろう。

432 述語

述語*の構造がどのようなものであるかは極めて重要である。文末部は話し手の

〔図表 14〕 主語の構造



態度を決定的に示す。***

述語を「ます・です体」, 「だ体」, 「その他」によって分類して, その使用度数を調査すると〔表37〕のようになる。

これをグラフによって示せば〔図表15〕のとおり。

これによれば, 談話語とニュースとはかなり違いがあることがわかる。つまりニュースには, ます・です体が圧倒的であり, だ体は全く現れない。談話語

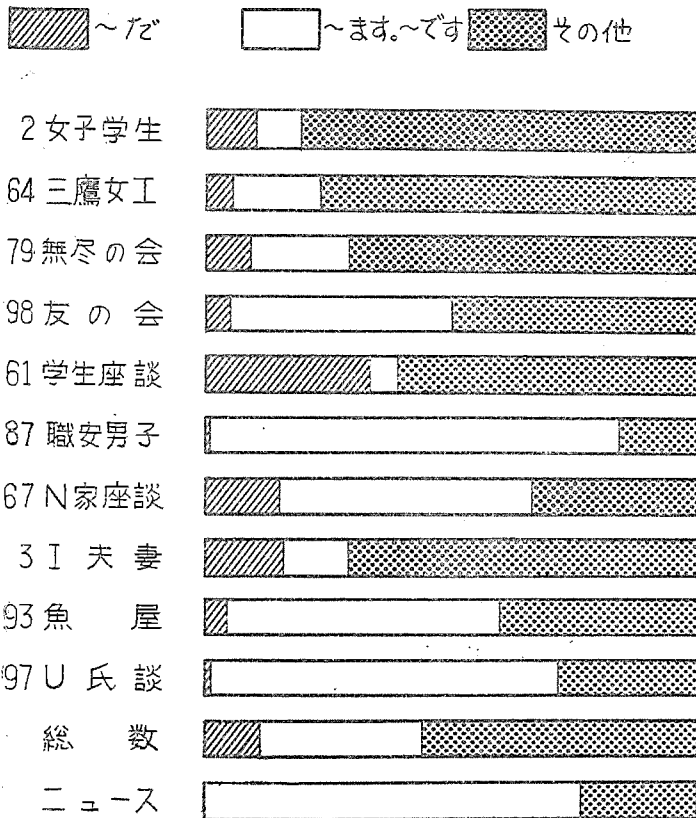
* ここで述語というのは文末部の述語である。 ** 國語学原論 時枝誠記, 日本語 藤原与一

〔表 37〕 です・ます体とだ体

	ます・です(%)	だ(%)	その他(なし)(%)	計
総数	1316(32.1)	476(11.6)	2305(56.2)	4097(100)
ReelNo. 略称				
2 女子学生	41(8.9)	48(10.4)	373(80.7)	462(100)
64 三鷹女工	83(17.3)	31(6.5)	366(76.3)	480(100)
79 無尽の会	84(19.8)	37(8.7)	304(71.5)	425(100)
98 友の会	175(45.3)	21(5.4)	190(49.2)	386(100)
61 学生座談	37(6.3)	195(33.2)	354(60.4)	586(100)
87 職安男子	212(83.8)	2(0.8)	39(15.4)	253(100)
67 N家座談	166(52.4)	48(15.1)	103(32.5)	317(100)
3 I 夫妻	62(13.7)	70(15.5)	321(70.9)	453(100)
93 魚屋	238(55.9)	20(4.7)	168(39.4)	426(100)
97 U氏談	218(70.6)	4(1.3)	87(28.2)	309(100)
ニ ュ ー ス	109(76.2)	0	34(23.8)	143(100)

には、だ体がかかり現れている。もっとも談話語のなかでもかなり異同がみられる。談話語10巻を、ます・です体の多い順序に並べれば、R. 87(職安男子) R. 97 (U氏談), R. 93 (魚屋), R. 67 (N家座談), R. 98 (友の会), R. 79 (無尽の会), R. 64 (三鷹女工), R. 3 (I夫妻), R. 2(女子学生), R. 61 (学生座談) の順となる。だ体の多い順序に並べれば、R. 61 (学生座談), R. 3 (I夫妻), R. 67 (N家座談), R. 2 (女子学生), R. 79 (無尽の会), R. 64 (三鷹女工), R. 98 (友の会), R. 93 (魚屋), R. 97 (U氏談), R. 87 (職安男子) の順となる。「その他」(多くは用言, または用言に文末の助詞がついている) の多い順序に並べれば、R. 2 (女子学生), R. 64 (三鷹女工), R. 79 (無尽の会), R. 3 (I夫妻), R. 61 (学生座談), R. 98 (友の会), R. 93 (魚屋), R. 67(N家座談), R. 97 (U氏談), R. 87 (職安男子) の順となる。これは大体において予想したとおりであったが、どのような場合にどのような表現体が行われるかをよく現しているというべきである。

〔図表 15〕 です・ます体とだ体



ところで、談話語では文末部に文末助詞を用いることが多いと言われる。^{*} 一体、談話語ではどのような文末助詞がどの程度に用いられているのであるか。それは〔表38〕によって示される。

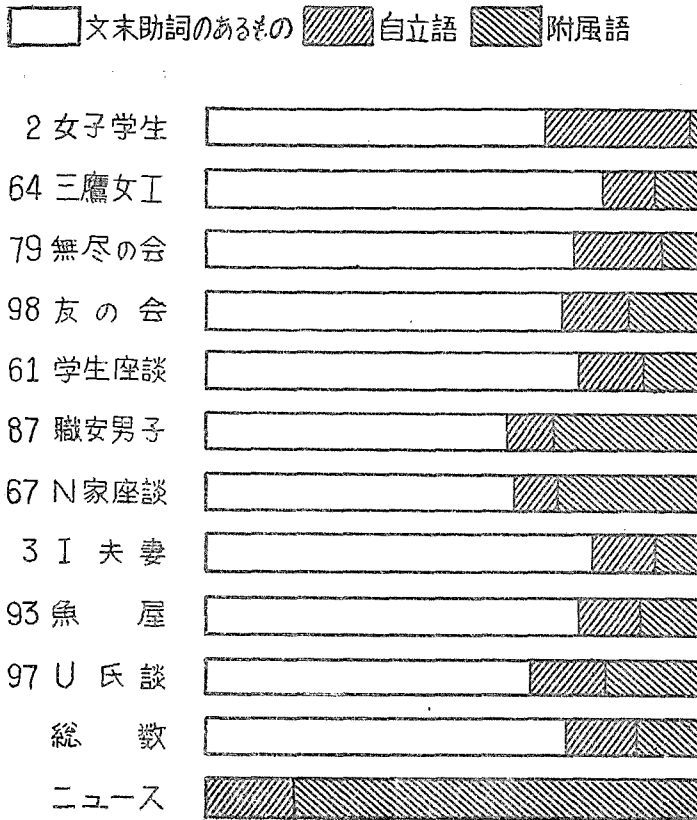
これによれば談話語では文末助詞のあるものが73%を占めているのに対してニュースでは全く文末助詞は現れなかった。これをグラフによって示せば〔図表16〕のとおり。

* 談話のことばと放送のことば 中村通夫 言語生活 第2号

末部の構造

自 動詞	形容詞	立 形容 動詞	文末助詞のないもの			附 属 語				合 計	総 計
			副詞	その他	計	～です ～ます	～だ	その他	計		
90 (2.2)	49 (1.2)	22 (0.5)	180 (4.4)	3 (0.1)	601 (14.7)	206 (5.0)	59 (1.4)	242 (5.9)	507 (12.4)	1108 (27.1)	4097 (100)
16 (3.5)	7 (1.5)	1 (0.2)	56 (12.1)	1 (0.2)	133 (28.8)	0	1 (0.2)	10 (2.2)	11 (2.4)	144 (31.2)	462 (100)
6 (1.2)	2 (0.4)	1 (0.2)	31 (6.5)	0	52 (10.8)	9 (1.9)	0	33 (6.9)	42 (8.8)	94 (19.6)	480 (100)
15 (3.5)	9 (2.1)	3 (0.7)	25 (5.9)	1 (0.2)	76 (17.9)	8 (1.9)	0	22 (5.2)	30 (7.1)	106 (25.0)	425 (100)
12 (3.1)	6 (1.6)	2 (0.5)	7 (1.8)	0	50 (13.0)	12 (3.1)	7 (1.8)	34 (8.8)	53 (13.7)	103 (26.7)	386 (100)
4 (0.7)	5 (0.9)	1 (0.2)	23 (3.9)	0	78 (13.3)	2 (0.3)	22 (3.8)	40 (6.8)	64 (10.9)	142 (24.2)	587 (100)
2 (0.8)	0	0	6 (2.4)	0	23 (9.1)	62 (24.5)	0	12 (4.7)	74 (29.2)	97 (38.3)	253 (100)
4 (1.3)	2 (0.6)	2 (0.6)	7 (2.2)	0	31 (9.7)	51 (16.1)	18 (5.7)	17 (5.4)	86 (27.2)	117 (36.9)	317 (100)
9 (2.0)	10 (2.2)	11 (2.4)	0	0	57 (12.6)	0	8 (1.8)	32 (7.1)	40 (8.8)	97 (21.4)	453 (100)
10 (2.3)	2 (0.5)	0	19 (4.5)	0	54 (12.7)	34 (8.0)	0	15 (3.5)	49 (11.5)	103 (24.2)	426 (100)
12 (3.9)	6 (1.9)	1 (0.3)	6 (1.9)	1 (0.3)	47 (15.2)	28 (9.1)	3 (1.0)	27 (8.7)	58 (18.8)	105 (34.0)	309 (100)
13 (9.1)	0	0	0	0	26 (18.3)	32 (22.4)	0	85 (59.4)	117 (81.8)	143 (100)	143 (100)

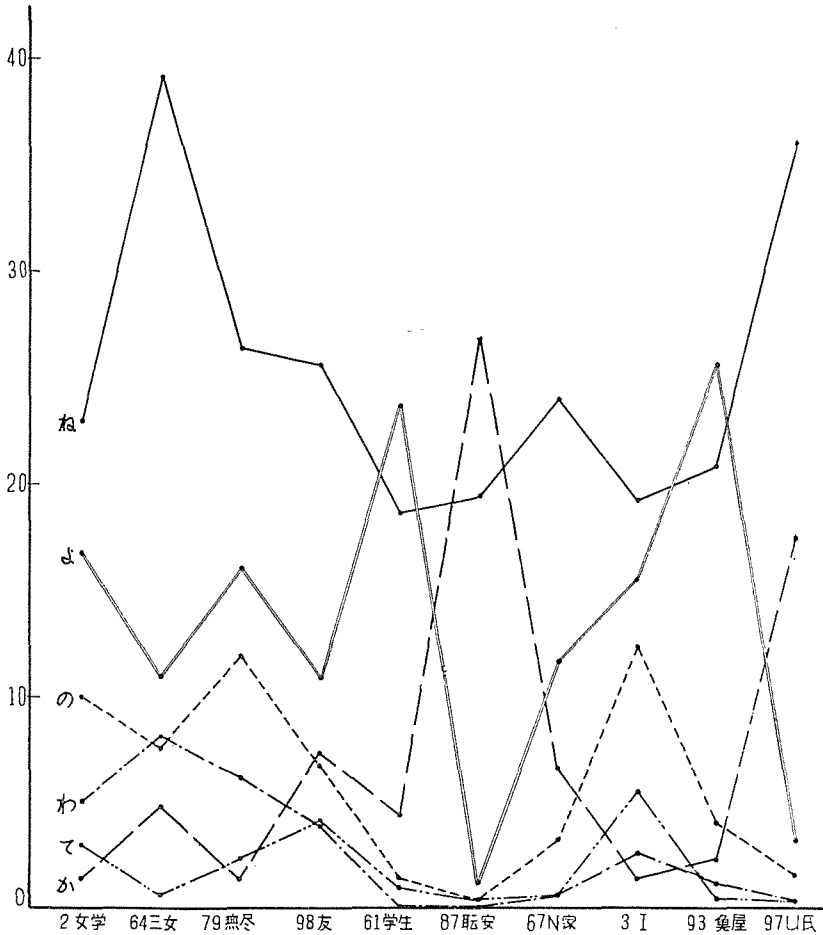
〔図表 16〕 述語文末部の構造



これによれば、談話語のなかでも R. 64(三鷹女工)、R. 3(I夫妻)、R. 61(学生座談)、R. 79(無尽の会)、R. 93(魚屋)などには殊に多く現れているが、R. 93(職安男子)、R. 67(N家座談)、R. 97(U氏談)、R. 2(女子学生)などには比較的少ないことがわかる。しかし文末助詞の比較的少ないこれらの四つの巻についてみると、それらの述語が必ずしも等質的でないことに気づく。つまり、R. 2(女子学生)やR. 79(無尽の会)の場合には文末部が体言や副詞などの自立語で終ることが多いが、* R. 87(職安男子)、R. 67

(N家座談), R.97 (U氏談) などでは「～です」「～ます」「～だ」などの付属語で終ることが比較的多いのである。このことは気軽にうちとけた世間話の場合と改まった話し合いの場合との違いや、女性と男性とによる違いとかを示すものと考えてよいであろうか。

〔図表 17〕文末助詞使用率



* エー、ソーのソーは副詞として取り扱ってある。

どのような文末助詞が用いられるかは〔図表17〕のグラフによって示される。これは「～ね」「～よ」「～の」「～か」「～わ」「～て」の使用される割合を示したものである。

10巻を平均しては「～ね」「～よ」「～の」「～か」「～わ」「～て」の順に多くなっていて、殊に「～ね」「～よ」が多いのであるが、しかしこれらの使用度数は各巻ごとにかなり差異がみられる。「～か」がR. 87(職安男子)に多いのは当然であろうが、「～ね」がR. 64(三鷹女工), R. 97(U氏談)に多く、R. 2(女子学生)に比較的少ないことや、「～よ」がR. 61(学生座談), R. 93(魚屋)に多く、R. 87(職安男子)やR. 97(U氏談)に少ないことは興味深い現象である。「～わ」が女性、特にR. 64(三鷹女工)に多いことは予想されたことであるが、「～の」がR. 79(無尽の会), R. 3(I夫妻)に多く、「～て」がR. 98(友の会), R. 3(I夫妻)に比較的多いのに対して、R. 64(三鷹女工)には「～の」「～て」がともに比較的少ないことは注意しなければならない。

〔表 39〕 述語における自立語

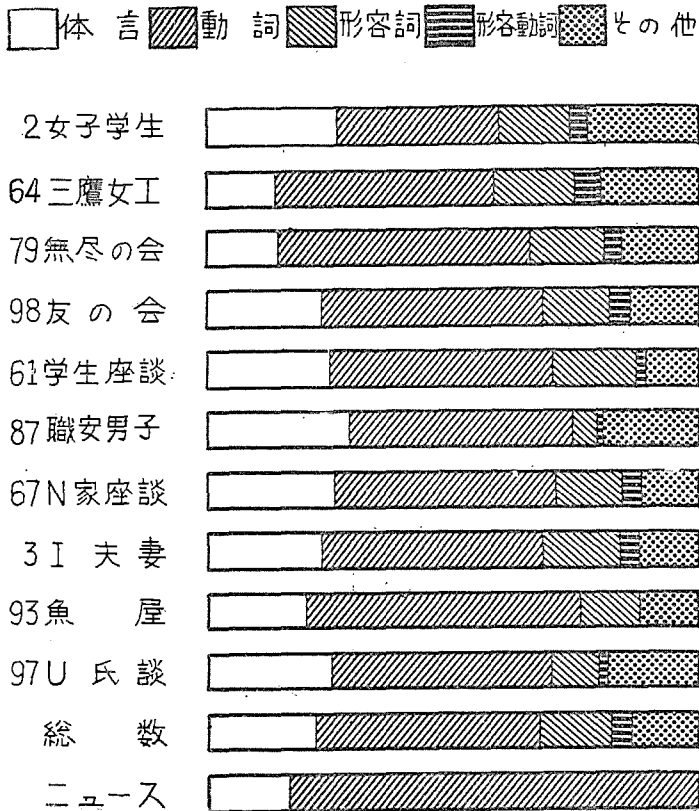
ReelNo. 略称	種類	体言(%)	動詞(%)	形容詞(%)	形容動詞(%)	その他(%)	計
	総数	921(22.5)	1882(45.9)	572(14.0)	121(3.0)	601(14.6)	4097(100)
2	女子学生	128(27.7)	149(32.3)	69(14.9)	18(3.9)	97(21.2)	462(100)
64	三鷹女工	70(14.6)	213(44.4)	81(16.9)	28(5.8)	88(18.3)	480(100)
79	無尽の会	63(14.8)	222(52.2)	68(15.0)	13(3.1)	59(13.9)	425(100)
98	友の会	89(23.1)	177(45.9)	54(14.0)	15(3.9)	51(13.2)	386(100)
61	学生座談	148(22.5)	268(45.7)	98(16.7)	14(2.4)	58(9.9)	586(100)
87	職安男子	74(29.2)	115(45.5)	13(5.1)	2(0.8)	49(19.4)	253(100)
67	N家座談	85(26.8)	144(45.4)	41(12.9)	10(3.2)	37(11.7)	317(100)
3	I夫妻	104(23.0)	212(46.8)	69(15.2)	16(3.5)	52(11.5)	453(100)
93	魚屋	85(20.0)	240(56.3)	51(12.0)	0	50(11.7)	426(100)
97	U氏談	75(24.3)	142(46.0)	28(9.1)	5(1.6)	59(19.0)	309(100)
	トータル	24(16.8)	119(83.2)				143(100)

また「～な」「～さ」は学生座談のほかはあまり現れなかった。

次に、述語を形成している自立語はどのようなものであろうか。述語を形成している自立語が何であるかはやはりその文表現の性質によって大きく規定されているものと考えてよからう。（したがってまた述語を形成している自立語が何であるかを調査することによって文表現の性質を知る手がかりとすることもできるであろう。）

それでは談話語の述語はどのような自立語によって形成されているのである

〔図表 18〕 述語における自立語



うか。それは〔表39〕によって示される。

これによれば談話語では動詞が46%を占めているが、体言や形容詞などによるものもそれぞれ23%, 14%ずつある。なお、ほかに形容動詞によるものや副詞によるものもある。(表に「その他」とあるものの大部分は副詞である。)

これに対し、ニュースでは動詞によるものが圧倒的で、83%を占めているほかには体言によるもの17%であって、その他のものは全く現れない。これはニュースというものの性質を示していると考えてよいであろう。

談話語のなかでもそれぞれに相違がある。グラフによって示せば、〔図表18〕のとおり。

これによれば体言による述語の多いのはR. 87(職安男子), R. 2(女子学生) R. 67(N家座談), R. 61(学生座談) などであり, R. 64(三鷹女工), R. 79(無尽の会)には少ない。動詞によるものはR. 93(魚屋), R. 79(無尽の会)に多く, R. 2(女子学生), R. 64(三鷹女工)に少ない。形容詞によるものはR. 64(三鷹女工), R. 61(学生座談)に比較的多く, R. 97(U氏談)やR. 87(職安男子)に特に少ないことが注意される。また形容動詞によるものは一般に少ないが, R. 87(職安男子)に特に少なく, 殊にR. 93(魚屋)では全く現れない。これらの事実は述語を形成する自立語は単に話し手の文化的社会的条件によって影響されるだけではなく, 相手, 表現の目的, 表現内容, 環境などによって規定されることを示していると考えてよいであろうか。形容詞, 形容動詞などによるものがニュースに全くないことやR. 87(職安男子) R. 97(U氏談)に少ないことなどは注意すべきであろう。

433 連体修飾語

談話語では連体修飾語が少ないことはすでに述べたとおりである。それでは、一体、談話語の連体修飾語はどのようなものが用いられているであろうか。R. 79(無尽の会), R. 87(職安男子), R. 3(I夫妻), R. 93(魚屋), R. 97(U氏談)の5巻について調査した結果は〔表40〕のようになっている。

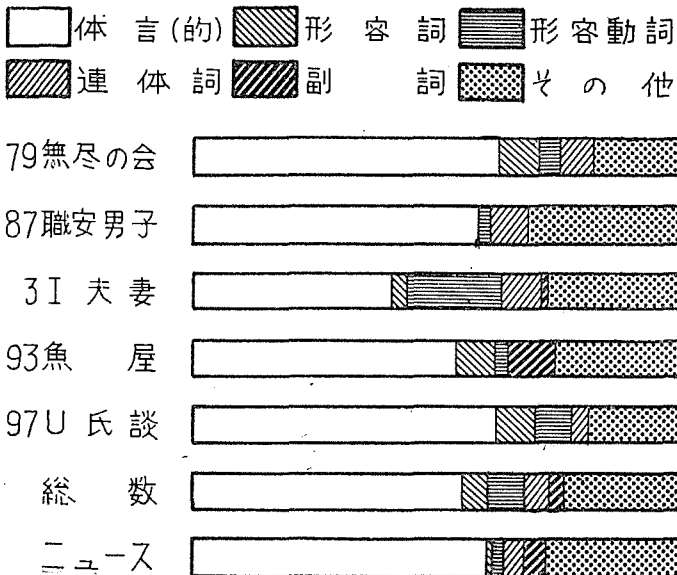
〔表 40〕 連体修飾語の構造

種類 Reel No. 略称	体言的 (%)	形容詞 (%)	形容動詞 (%)	連体詞 (%)	副詞 (%)	語計 (%)	その他 ～た～ない etc (%)	計
総数	194(55.4)	20(5.7)	25(7.1)	17(4.9)	11(3.1)	72(20.9)	83(23.7)	350(100)
79無尽の会	29(63.0)	4(8.7)	2(4.3)	3(6.5)	0	9(19.6)	8(17.4)	46(100)
87職安男子	33(58.9)	0	1(1.8)	5(8.9)	0	6(10.7)	17(30.4)	56(100)
3I 夫妻	29(40.8)	2(2.8)	14(19.7)	6(8.5)	1(1.4)	23(32.4)	19(26.8)	71(100)
93魚 屋	54(54.5)	8(8.1)	2(2.0)	0	10(10.1)	20(20.2)	25(25.3)	99(100)
97U 氏談	49(62.8)	6(7.7)	6(7.7)	3(3.8)	0	15(19.2)	14(17.9)	78(100)
ニュース	110(60.8)	2(1.1)	5(2.8)	7(3.9)	7(3.9)	21(11.6)	50(27.6)	181(100)
新聞	(75.1)	—	(2.7)	—	—	—	(22.2)	

新聞は調査方法が異なるのでこの表に載せることは困難であるが、我々の調査方法を適用すれば大体こうなる
うかと思われるものを載せた。—は新聞用語研究でどのように取り扱ったか不明であることを示す。

これをグラフによって示せば〔図表19〕のとおり。

〔図表 19〕 連体修飾語の構造



これによれば体言的連体修飾語（体言または体言に助詞「～の」などがついているもの、またはこれに準ずるもの）がもっとも多く、55%を占めている。形容語によるものや「その他」（主として用言に接続助詞などがついて述・体の成分一上に対して述語、下に対して連体修飾語一となっているもの）はそれぞれ21%、24%となっている。これをニュースと比較するとニュースでは体言的連体修飾語が多いことは談話語と同様であるが、*「その他」が比較的に多く、形容語によるものが比較的少ない。これは新聞についてもほぼ同様なこ

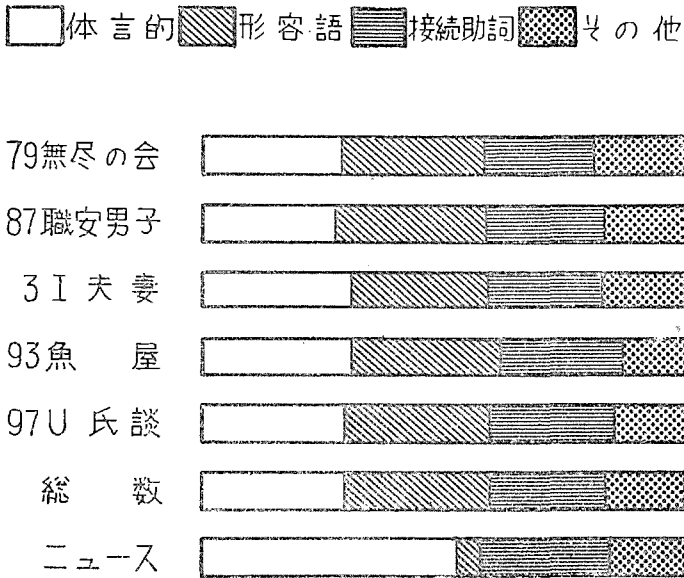
〔表 41〕連用修飾語の構造

Reel No. 略称	種類 名詞だけ (%)	～格助詞 (%)	計 (%)	副詞 (%)	形容詞・形容動詞の連用形 (%)	計 (%)
総数	303(10.8)	550(19.6)	853(30.4)	719(25.6)	107(3.8)	826(29.4)
79無尽の会	70(11.4)	110(18.0)	180(29.4)	143(23.4)	33(5.4)	176(28.8)
87職安男子	37(10.1)	66(18.0)	103(28.1)	93(25.3)	19(5.2)	112(30.5)
3I 夫妻	90(15.4)	94(16.0)	184(31.4)	142(24.2)	21(3.6)	163(27.8)
93魚屋	75(10.3)	157(21.5)	232(31.8)	202(27.7)	17(2.3)	219(30.0)
97U 氏談	31(6.1)	123(24.1)	154(30.2)	139(27.2)	17(3.3)	156(30.5)
ニュース	40(13.7)	134(45.7)	174(59.4)	7(2.4)	4(1.4)	11(3.8)

用言+助辞(接続) (%)	その他 (%)	計	
686(24.4)	441(15.7)	2806(100)	総数
142(23.2)	114(18.6)	612(100)	79無尽の会
91(24.8)	61(16.6)	367(100)	87職安男子
136(23.2)	103(17.6)	586(100)	3I 夫妻
187(25.6)	92(12.6)	730(100)	93魚屋
130(25.4)	71(13.9)	511(100)	97U 氏談
81(27.6)	27(9.2)	293(100)	

* もつとも体言的連体修飾語が談話語、ニュース、新聞に同様に多いといつても等質ではない。談話語のそれはほとんど体言に助詞「～の」がついたものであるが、ニュースや新聞では体言だけで連体修飾語となるものがそれぞれ15%、31%ある。また「その他」で「～た」という言い方が談話語では0.4%であるが、ニュース、新聞にはそれぞれ6%、5%となっている。

〔図表 20〕 連用修飾語の構造



とが言える。形容語によるものが談話語に多いことは注意すべきであろう。

談話語のなかでは R. 87(職安男子) に形容語が少なく、ニュースと同じような割合となっているのに対し、R. 3(I 夫妻) には形容語が多いことや、R. 93(魚屋) に副詞によるものがかなり多いことなどが注目される。

434 連用修飾語

連用修飾語は五成分のうちもっとも多い。連用修飾語はさまざまに分類することができる。これを (1) 体言または体言に格助詞のついているもの、またはこれに準ずるもの (2) 副詞または形容詞・形容動詞の連用形 (3) 用言に接続助詞などのついているもの (4) 「その他」に分類して、その使用度数を調査すると〔表41〕のとおり。

これをグラフによって示せば〔図表20〕のようになる。

これによれば、談話語においては大体(1)(2)(3)の類が同じような割合になっ

ていることがわかる。これはニュースにおいて、(1)の類が半数以上を占め、(2)の類が4%に過ぎないことに比して大きな違いである。これは両者の表現の違いを端的に示すものであろう。R.87(職安男子)もここでは全く他の談話語と同じ様相を示している。これは新聞についても同じことが言えそうである。新聞用語研究第25号によれば、格助詞「～を」,「～に」だけでも65%を占めている。(もっともその調査方法がよくわからないから直ちには何とも言えない。)

談話語の格助詞によるもののなかでは「～に」(7%),「～で」(4%),「～と」(4%),「～を」(2%)などのようになっている。これに対してニュースでは「～に」(13%),「～を」(13%),「～で」(9%),「～と」(7%)の順になっている。

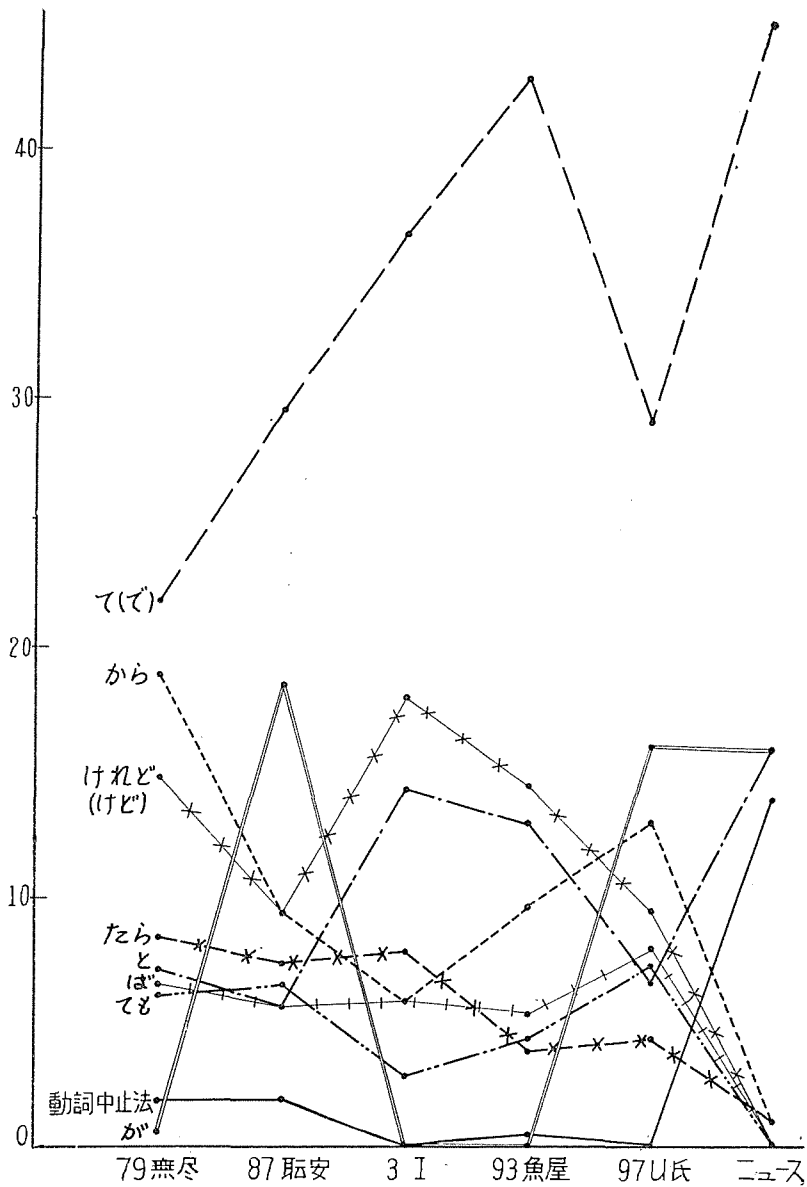
ところで(3)の類は談話語の各巻においても、ニュースにおいても、同じような割合であったが、その内容は必ずしも同じではない。いま述・用の成分について、それぞれの使用度数の%を示すと〔表42〕のようになる。

〔表 42〕 述・用の成分の構造

Reel No. 略称	種類用言															計
	中止法(で)	と	けれど(けど)	の	に	が	の	から	ば	て	でも	で	た	ただ	たら	
総数	0.8	32.8	9.7	13.6	0.8	5.7	0.4	11.6	6.2	5.3	1.3	1.7	1.4	6.2	2.6	100
	%															
78無尽の会	1.8	21.9	7.1	14.8	1.2	0.6	0	18.9	6.5	5.9	1.2	3.6	3.6	8.3	4.7	100
87職安男子	1.9	29.6	5.6	9.3	0	18.5	0.9	9.3	5.6	6.5	2.8	0	0	7.4	2.8	100
3I 夫妻	0	36.7	14.4	18.0	0.7	0	0	5.8	5.8	2.9	0.7	1.4	2.9	7.9	2.9	100
93魚屋	0.5	43.0	13.0	14.5	0.5	0	0.5	9.7	5.3	4.3	1.0	2.4	0.5	3.9	1.0	100
97U氏談	0	29.2	6.6	9.5	1.5	16.1	0.7	13.1	8.0	0	7.3	1.5	0	4.4	2.2	100
ニュース	14.0	45.2	16.1	0	0	16.1	3.2	1.1	0	0	0	0	0	1.1	3.2	100

このうち、用言中止法,「～て(で)」,「～と」,「～け(れ)ど(も)」,「～が」,「～から」,「～ば」,「～ても」,「～たら」について、グラフによって、その使用度数を示せば〔図表21〕のようになる。

〔図表 21〕 述・用の成分の構造



これによれば用言中止法、「～と」、「～が」などはユースに多いが、談話語には比較的少なく、「～て(で)」もまた談話語よりユースに多い。これに対して「～け(れ)ど(も)」、「～から」、「～ば」、「～ても」、「～たら」などは談話語には比較的多く現れているが、ユースにはほとんど現れていない。

談話語のなかでも、各巻によってそれぞれかなりな違いがある。「～が」はR. 87(職安男子)やR. 97(U氏談)ではユースと同じような割合で現れている。「～て」はR. 93(魚屋)に多く、「～け(れ)ど(も)」、「～と」などはR. 3(I夫妻)に多く、「～から」はR. 79(無尽の会)やR. 97(U氏談)に多い。このように述・用の成分全体としては同じような割合であっても、その内部のそれぞれが異なっていることは注意を要する。述・用の成分にどのようなものが現れているかは文の構造上重要な問題であろう。

述・用の成分についてははまだ多くのことを述べねばならないが、いまはこれ以上ふれないことにする。

435 独立語

独立後を接続、対等、感動、間投、応答、呼びかけ、提示に分類し、その使用度数を調査すると〔表43〕のようになる。

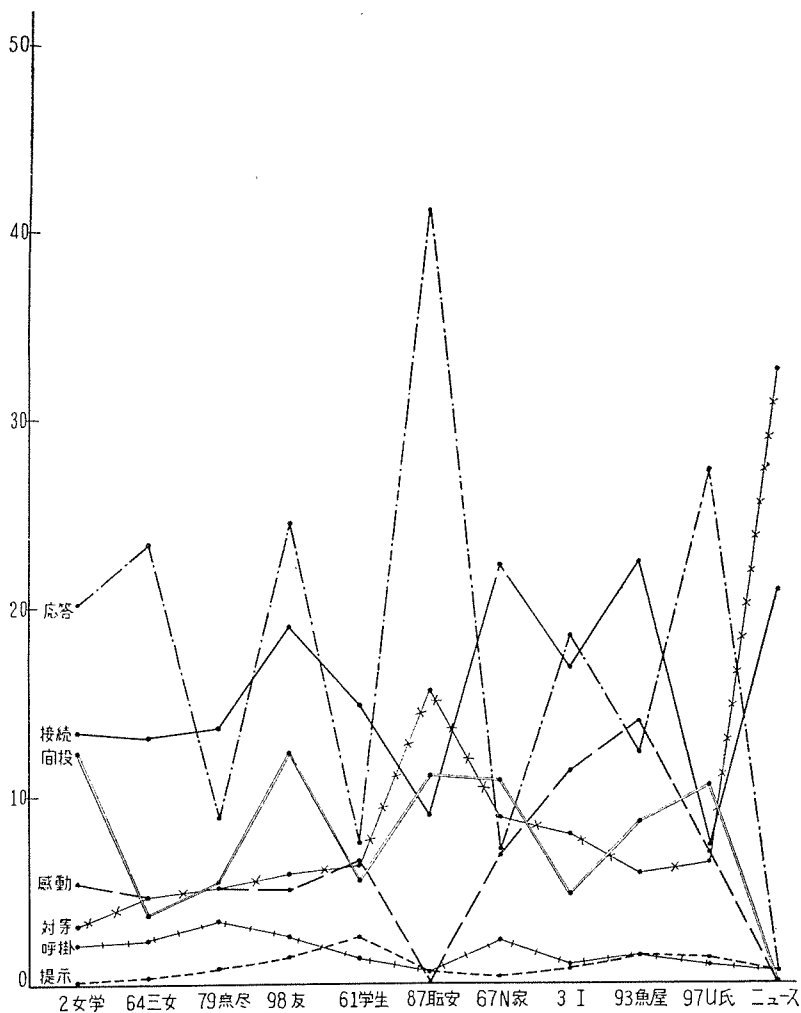
〔表43〕 独立語の種類

Reel No. 略称	種類	接続 (%)	対等 (%)	感動 (%)	間投 (%)	応答 (%)	呼びかけ (%)	提示 (%)
	総数	721(15.4)	308(6.6)	324(6.9)	388(8.3)	880(18.8)	87(1.9)	45(1.0)
2	女子学生	75(13.3)	18(3.2)	30(5.3)	69(12.3)	113(20.1)	12(2.1)	1(0.2)
64	三鷹女工	77(13.1)	27(4.6)	27(4.6)	22(3.7)	138(23.4)	14(2.4)	2(0.3)
79	無尽の会	66(13.6)	25(5.2)	25(5.2)	26(5.4)	43(8.9)	16(3.3)	4(0.8)
98	友の会	91(19.0)	28(5.9)	24(5.0)	59(12.3)	117(24.5)	12(2.5)	7(1.5)
61	学生座談	59(14.8)	25(6.3)	26(6.5)	22(5.5)	30(7.5)	5(1.3)	10(2.5)
87	職安男子	30(9.0)	52(15.6)	0	37(11.1)	138(41.4)	2(0.6)	2(0.6)
67	N家座談	79(22.4)	31(8.8)	25(7.1)	38(10.8)	24(6.8)	8(2.3)	1(0.3)
3	I夫妻	97(16.8)	46(8.0)	66(11.4)	28(4.8)	107(18.5)	6(1.0)	5(0.9)
93	魚屋	119(22.5)	31(5.9)	74(14.0)	46(8.7)	65(12.3)	8(1.5)	8(1.5)
97	U氏談	28(7.3)	25(6.5)	27(7.0)	41(10.6)	105(27.2)	4(1.0)	5(1.3)
	ユース	30(21.0)	47(32.9)	0	0	0	1(0.7)	1(0.7)

% は文の数に対するものである。したがって一文につきいくらの割合になっているかを示すものである。

これをグラフによって示せば〔図表22〕のようになる。

〔図表 22〕 独立語の種類



これによれば、接続や対等の成分は=ユースに多いが、比較的談話語に少なく、感動、間投、応答などの成分は談話語にかなり多いが、=ユースには現れ

ていない。

談話語のなかでは、接続の成分はR.67(N家座談)やR.93(魚屋)に多く、R.87(職安男子)には少ないことが注意される。

対等の成分がR.87(職安男子)に多く、感動の成分がR.3(I夫妻), R.93(魚屋)に多いことが目立つ。間投の成分がR.2(女子学生), R.98(友の会) R.87(職安男子), R.67(N家座談), R.97(U氏談)に多いことは興味深いことである。^{*} 応答の成分がR.87(職安男子)に多いことは表現形態の上から当然のことでもあろうか。

独立語がどのように使用されているかは談話語の性質を調査研究する上に無視できないことでもあろう。

以上、談話語の構造について、成分の組合せ、成分の比率、成分の構造という点から、調査した結果を略述したが、言い残した点も多い。たとえば、成分の組合せの問題ではある種の組合せはある種の話し手、ある種の表現内容に多く用いられる傾向がある。(例、^{bt} ～ト言ッ^tタ^bヨーナ、ソーユ一問題ナンデスヨ。のような「bt, t, b」などの型は教養ある中年の男に多く現れる傾向がある。)

また、成分の構造にも関係があるのであるが、間投助詞は(「～ね」が最も多いのであるが)ほとんどあらゆる成分(文節)についているが、しかしそのなかでもやはり若干の違いがみられた。たとえば主語にはそのうちの8%に、連体修飾語にはそのうちの3%に(「～の」につく場合が多い)、連用修飾語にはそのうちの12%に(格助詞などには9%、副詞などには5%、接続助詞などには23%)、独立語ではそのうちの9%に(接続の成分には20%、対等の成分には17%、感動0.3%、間投4%、応答0.2%、呼掛7%、提示33%)、ついている。このように間投助詞のつきやすいものとそうでないものがあることは重要なことであろう。また各巻ごとについてみてもR.2(女子学生)や、

^{*} 談話のことばと放送のことば 中村通夫 言語生活第2号
はなしことば序 伊佐早敦子 国語国文 22の3
話し言葉と書き言葉 遊駿嘉雄 言語生活 第21号

R.64 (三鷹女工), R.3 (I夫妻), R.93 (魚屋) などに多く, R.97(U氏談), やR.87 (職安男子), R.61 (学生座談) などには少ない。

このようなことのほかにも述べ及べなかった問題もあるが, 大体において調査した概略は以上のようなものであった。

44 調査方法

この調査は主として「中等文法」の線に沿い, 主語, 述語, 連体修飾語, 連用修飾語, 独立語の五成分を単位とし, これらの組合せにより文の構造を考えることにした。しかし, より細かな分析に堪えられるように, それらをさらに下位分類した。これは文字, 数字などの符号によりコードされた。

その分類およびコードは以下の表のとおりである。

〔表 44〕 5成分, および下位分類1けた目のコード

5 成分	下位分類1けた目 (独立語を除く)	下位分類1けた目 (独立語の場合)
主語	a	体言 1
述語	b	動詞 2
連体修飾語	t	形容詞 3
連用修飾語	y	形容動詞 4
独立語	d	副詞 5
		連体詞 6
		接続詞 7
		感動詞 ⑦
		助動詞 8
		助詞 9
		接続を表わす {順接 1 逆接 1}
		同格を表わす 2
		感動を表わす 3
		間投を表わす 4
		応答を表わす 5
		呼掛を表わす 6
		提示を表わす 7

〔表45〕 主語・述語の下位分類2けた目, および述語の下位分類3けた目, 4けた目

a	b
主格を表わす助詞がない	0
～は (わ)	1
～が	2
～も	3
～の	4
～では (でわ)	5
	～です・～ます・～だ などの語を 伴わない 0
	～です・～ます 1
	～だ 2
	～です・～ます・～だ に相応する
	5 他の語 ×

～には(にわ)	6	(以上下位 2 けた目)	
その他の主格を表わす助詞	×	助辞がない	0 ～わ 6
		～ね	1 ～って 7
		～よ	2 ～さ 8
		～か	3 ～た 9
		～の (終助詞)	4 その他 ×
		～な (終助詞)	5
		(以上下位 3, 4 けた目)	

〔表46〕 連体修飾語の下位分類 2 けた目, 連用修飾語の下位分類 2 けた目, 3 けた目

t		y	
連体格を表わす助辞がない	0	連用格を表わす助辞がない	00
～の	1	～に	01 ～が(接続) 15
～ん	2	～ん	02 ～ので 16
～た	3	～を	03 ～から(接続) 17
～的	4	～と	04 ～ば 18
他の助動詞	5	～へ(え)	05 ～たら 19
他の助詞	6	～へ(い)	06 ～ても 20
		～から	07 ～なら 21
		～で	08 ～たって(逆接) 22
		～より	09 ～だって(逆接) 23
		～て(で)	11 ～でも(逆接) 24
		～と(接続)	12 ～と(も)(逆接) 25
		～け(れ)ど(も)	13 その他の助動詞 80
		～のに	14 その他の助詞 90
			以上の他の語 XX

〔表47〕 主語・述語・連体修飾語の 3 けた目, 独立語の 2 けた目, 連用修飾語の 4 けた目

間投助詞がない	0	～な	4
～ね	1	～さ	5
～ですね	2	～よ	6
～だね	3	その他	7

(注)(1) これらの語に他の語がついており, そのついている語がコードされないときは'をもつて示す。

例 リタクシメケガ……al'20

(2) 述語などの場合に多くの助詞・助動詞がついているときは, 文の末尾より優先的にコードする。

例 行キマセンダシタカネ……b2'1/31

(3) 形式名詞・補助用言などを含む文節(附属の関係にある文節など)は連文節においてその機能を考える。(形式名詞は m, 補助用言は f, てる・てく・ちゅう, などは F とコードする。例 猫デアル……bf2000)

(4) 成分はすべて第一次の関係による。第二次は () 第三次は [] 第四次は 「 」 などとする。

第二次・第三次中に第一次があるときは (//) (//) とし // の中のものが第一次であることを示す。
 $\begin{matrix} (a & y) & & by & & a & b \\ \text{ジブンガ} & \text{シゴトオ} & \text{スレバ} & \text{オカネガ} & \text{ハイルデスヨ。} \end{matrix}$

この場合、同時に二つ以上の関係を持つているものは、たとえば上記の……スレバ……のように表わす。

(5) y, aなどが一次に二つ以上あるときは、原則として、前のものはそれ以下にかかる(対する)ものとする。

例 アラクメテ ハナシオ スル。 グンピロ ヒツヨー ナイデス。
 $\begin{matrix} & & & b & a & b \\ & & & \text{スル。} & \text{グンピロ} & \text{ヒツヨー} & \text{ナイデス。} \end{matrix}$

しかし場合により 1, 2, 3 ……イ, ロ, ハ ……などの順位をつけることがある。このとき 1 は 2 以下を修飾する。(または 2 以下に対して主語となる)

$\begin{matrix} 1y & d & 2y & b \\ \text{キノー} & \text{アノー} & \text{アナタニ} & \text{アゲベシタ。} \end{matrix}$

(6) t は原則として次の文節を修飾する。しかし次の文節ではなく、被修飾の文節がはなれているときは、

1, 2, 3, などの数字により示す。

$\begin{matrix} 1(t) & d & 2a & y & 2a & b & 1(t) \\ \text{キミノ} & \text{ホラ} & \text{ハンカチヲ} & \text{キョー} & \text{テガミガ} & \text{キタノヨ} & \text{ドーソーカイノ}$

t が二つ以上重なっているときの取扱いは、y に準ずる。

$\begin{matrix} (t) & (t) & a \\ \text{アナタノ} & \text{アカイ} & \text{ハンカチヲ} \end{matrix}$

(7) 同格・対立などの関係、提示の関係などは 次の例のように、数字・かななどの符号をもつて示す。

$\begin{matrix} (d2\textcircled{1}) & a\textcircled{1} & y & b \\ \text{キミト} & \text{ボクガ} & \text{ソレオ} & \text{シヨウ} \\ (y^1) & & bd2\textcircled{1} & y & b\textcircled{1} \\ \text{カイシヤニモ} & \text{ユクシ} & \text{ガツ} & \text{コニモ} & \text{イク} \end{matrix}$

(8) 一般には、主語・連用修飾語の形であるものが、その文では述語としての機能を果している場合には、

次のように示す。

$\begin{matrix} a & b & ab \\ \text{ヤタケサンガ} & \text{イクデスツテ。} & \text{ヤタケサンガ?} \\ (a) & by, b & \\ \text{モンダイガ} & \text{アルヨードスケドネ} & \end{matrix}$

(9) 聞きとれない場合、あるいは、何らかの動詞により、文が中断された場合などは、それぞれ……や……をもつて示す。また前記(8)のような場合には、○○○○をもつて示す。これらのものはさらに別に考慮することにした。

この方法で、橋本進吉博士の「文節による文の構造について」(『国語学』第十三・十四輯)の例文をコードすれば次のようになる。

- ① $\begin{matrix} ([y1030] & bt230) & a110 & b2009 \\ \text{不意を} & \text{くらった} & \text{敵は} & \text{あはてた。} \end{matrix}$
- ② $\begin{matrix} ([d20\textcircled{1}] & t600\textcircled{1}) & a120 & bf2000 \\ \text{白く} & \text{大きな} & \text{木星が} & \text{見えてゐる。} \end{matrix}$
- ③ $\begin{matrix} ([\textcircled{1}][\textcircled{1}][t110] & y1030] & by2110\textcircled{1}] & bt200] & t110] & y1900] \\ \text{千古の} & \text{雲を} & \text{戴いて} & \text{そそり立つ} & \text{富士の} & \text{姿ほど} \\ bam110 & & b210 \times & & & \\ \text{崇高なものは} & & \text{ありません。} & & & \\ a120 & y1030 & b2000 & & & \\ \text{飛行機が} & \text{空を} & \text{飛ぶ。} & & & \end{matrix}$

- a 110 (d 20①) y 1040① b 2009
 ⑤ 彼は 風や 波と 戦ひ通した。
- (d 20①)(d 20①) a 110① (t 110) b f2000
 ⑥ 東京 京都 大阪は 日本の 三大都市である。
- a 110 y 1070 y 1010 y 1030 b 2109
 ⑦ 先生は 戦地から 私たちに お手紙を 下さいました。
- d 60 a 110 y 1080 y 5000 b f2000
 ⑧ 佐藤さん あなたは ここで 暫く お待ち下さい。
- (a 120) bam110 (y 1010) by2200 b 1200
 ⑨ 春が 来ることは 誰に とっても 喜びだ。
- ((d 20①) (y 1010) b tf230①) a 120 b f2000
 ⑩ 重苦しくて 寒さに ちよこまってるた 冬が 去ってゆく。
- ((y 1'040) b tf230) (t 110) a 120 y m101'0 ((a 140)
 ⑪ 灰色だと 思つてゐた 烟の 土が いつの間にか うるほひの
 bt200) (t 230) y 1010 b f2000
 ある 黒ずんだ 色に なつてゐる。
- (t 110) a 110 (y 1010) by2120 (t 110) y 1070 ((y1030) bt200)
 ⑫ 私の 村は 夜に になると 所々の 家から 薬を 打つ
- (t 110) a 120 b 2000
 土の 音が 聞える。
- ((y 1900 y 4000) b tf230) a 110 (y 4000[「t300」
 ⑬ そこまで 元気に 飛んで来た 彼等は 急に 寒い
 t 110] y 1050) by2110 y 3000 b f2009
 気温の 中へ 入って 全く 弱ってしまった。
- (t 110) (t 300) (t 300) y 101'0 (t m110) (t 110)
 ⑭ 彼等の かほそい 小さい 体には その時の ウイーンの
- a 110 bmf2009
 気候は たへ難いものであつた。
- (y 1010) byf2120 ((「『a 140』bt200」 y 1900) by2110
 ⑮ 大江山に 来て見ると 兎の 住む 所だけ あつて
- 「『a 120 y 5000』 by2000 y 1240」 by3110」 bt3000)
 大木が こんもり 生ひ茂り 昼でも 薄暗くて ものすごい
 b 1109
 山でした。
- ((t 300)[t 300] t 110) y 101'0 (t 110) a 120 y 1010
 ⑯ 永い 永い 冬の 後には これらの 花が 一度に
 b 2'200
 咲き出すのだ。

5 語の種類・使用度数・用法

51 ま え が き

語に関する調査の第1段の仕事として、品詞の使用率を調べた。作家の文体研究の方面には、ある作家は名詞を多く使っている、あるいは動詞を多く使っているというような報告がある。^{*}また、新聞の文章の分析の結果、品詞がどんな比率で使用されているかについて報告されたものもある。^{**}しかし、話しことばについては、児童語に関するわずかの調査^{***}のほか、これに類するものを見ない。^{****}そこで、日常談話における品詞の使用率を明らかにしてみようとした。その結果を上のような従来の諸調査と比較してみると、日常談話の特性を明らかにするための一つの手がかりをつかむと同時に、そこからまたさらに、第2段の調査を進めるべき問題をつかみたいと考えたからである。

次に、この第1段の作業の結果、課題として浮かびあがったいくつかの問題のうち、融合形・副詞・接続詞・形容詞・形容動詞を取りあげて、それぞれにつき、若干の調査を試みた。いろいろの制約のため、十分な調査ができなかったが、これらにつき、主として次のような点の調査をした。

融合形・副詞——語の種類と使用度数

接続詞——語の種類・使用度数および用法

形容詞・形容動詞——語の種類・使用度数および活用形のあらわれ方

調査の材料は、日常談話の録音テープ20巻を中心とし、比較資料として、

* cf. 7の(15)

** cf. 7の(14) (66) (67)

*** cf. 7の(16)

**** この調査の整理のうちに樺島忠夫氏の論文が出た。cf. 7の(65)

ラジオのニュース3巻, ニュース解説4巻を加えたものである。

52 品詞の使用率

521 品詞の使用率一覧

録音テープ20巻の内容, 延べ83620語を品詞別にして, その百分比を見た。
一語と見ることに問題のある融合形* は別に取り出して一類とし, 各品詞と並べて百分比を出した。結果は[表48]のとおりである。

なお, [表48]について内わけを示せば, 次のとおりである。

(1) コソアド語

代名詞のうち,	コソアド語	70.3%
形容動詞のうち,	コソアド語	19.5%
副詞のうち,	コソアド語	29.2%
連体詞のうち,	コソアド語	92.4%

(2) 補助用言**

動詞のうち,	補助動詞	12.3%
形容詞のうち,	補助形容詞	15.7%

(3) 感動詞***4.7%のうち,

感動詞 I	1.0%
感動詞 II	1.9%
感動詞 III	1.7%

* cf. 531

** 補助用言は, 橋本進吉「新文典別記上級用」に準じて, 次のようなものに限定して採った。

1. 寂しくありません, おじょうずでいらつしやいます, 陽気でございます, おもしろくない, 丈夫ではない—の類
2. 私ではありません, 5時でございます, これではない—の類
3. おたずねいたします, おとどけまうします, おいでくださる, お帰りになる—の類
4. 聞きはしたが見はしない, 行きさえすればいい—の類
5. 降っている, 見ってくる, 読んでおく—の類

*** 感動詞は次のように分類した。

感動詞 I—感動を表わすもの。感動詞 II—よびかけ・応答に用いるもの。感動詞 III—つなぎの語, 「えー」「そのー」「あのー」の類。「うー」「おー」等, 語として数えるのに疑問のあるものも, 一応すべて採った。
「あー」「はー」「ふーん」等, 感動詞 I, 感動詞 II の両方に属せしめることができると思われるものの場合, だいたい感動詞 I に入れる方針によつた。

〔表48〕品詞の使用率(1)

リール番号*	体言		動詞	形容詞	形容動詞	副詞	副詞連体詞	接続詞	感動詞	助詞	助動詞	融合形	総語数	自立語計	付属語計	コード		
	名詞	代名詞																
57	20.6	17.2	2.7	0.7	13.7	2.2	1.1	7.0	0.9	1.5	5.1	34.1	11.9	2.0	6477	52.1	46.0	4.3
66	20.9	17.1	2.8	1.0	12.9	3.9	1.7	5.9	0.7	1.0	4.5	34.9	10.2	3.5	3578	51.5	45.1	5.1
100	19.1	14.0	3.2	1.9	11.1	3.1	0.6	7.3	0.6	1.3	7.6	34.1	12.9	2.3	2973	50.7	47.0	6.0
61	21.2	16.3	2.9	2.0	12.2	3.9	1.4	5.9	0.8	1.6	1.5	36.9	12.4	2.4	4624	48.5	49.3	4.3
62	20.4	15.8	2.3	2.3	11.6	3.2	1.4	5.8	1.0	1.7	3.1	35.5	13.8	2.4	5006	48.2	49.3	4.4
76	18.6	14.6	2.2	1.8	12.5	2.5	0.9	6.2	1.0	2.8	6.4	31.2	16.5	1.4	5545	50.9	47.7	4.1
97	21.5	18.3	1.9	1.3	11.6	1.9	1.1	7.4	0.7	1.3	4.5	35.1	13.2	1.7	4240	50.0	48.3	4.0
25	21.8	16.4	3.5	1.9	11.6	2.2	1.0	5.9	0.6	2.2	4.9	35.2	12.5	2.2	4114	50.2	47.7	5.0
79	19.5	15.2	2.5	1.8	13.5	3.3	1.8	5.8	0.5	2.3	2.9	37.5	9.8	3.1	4925	49.6	47.3	4.2
86	18.5	12.9	4.4	1.2	11.2	2.3	1.2	5.7	0.4	1.5	5.5	35.4	15.4	2.8	4101	46.3	50.8	5.5
88	23.8	20.6	0.9	2.4	11.4	2.7	1.2	4.3	0.8	1.1	3.4	34.2	16.2	1.0	4475	48.7	50.4	2.8
87	22.3	18.4	1.8	2.0	12.5	1.5	0.8	7.2	1.0	1.6	6.6	32.2	13.8	0.7	3429	53.5	46.0	4.6
15	21.7	14.5	3.2	4.0	14.0	1.9	0.6	6.6	0.9	1.9	6.7	30.6	14.8	0.4	1728	54.3	45.4	6.3
67	20.2	15.8	2.5	1.9	10.6	2.6	1.1	5.7	0.7	2.5	4.2	33.3	15.7	3.4	4764	47.6	49.0	4.1
70	22.0	18.1	2.6	1.3	10.7	2.2	1.4	6.8	0.8	1.9	5.4	33.8	13.4	1.7	4483	51.2	47.2	4.6
2	20.7	17.0	2.5	1.3	10.3	3.2	1.5	6.3	0.5	2.9	6.0	37.7	9.0	2.0	3931	51.4	46.7	4.9
98	19.6	14.7	2.9	1.9	13.1	2.8	1.1	6.0	1.2	2.5	5.6	34.5	11.1	2.5	4634	51.9	45.6	5.8
104	14.1	9.8	2.8	1.5	14.5	5.5	2.0	7.5	0.4	1.0	7.2	29.9	17.7	0.3	789	52.2	47.6	6.1
3	18.6	15.0	2.5	1.1	13.2	3.2	1.5	6.0	0.8	2.7	5.1	35.6	10.6	2.6	4875	51.1	46.2	5.0
59	20.2	15.0	3.0	2.2	13.6	2.2	1.4	5.1	0.7	1.2	2.1	35.9	13.3	4.3	4929	46.5	49.2	3.9
全	20.5	16.2	2.6	1.7	12.2	2.7	1.2	6.1	0.8	1.9	4.7	34.7	12.9	2.3	83620	50.1	47.6	4.6

○自立語計, 付属語計に融合形を加えて100%になる。

*内容についてはcf. 124

522 性・教養・年齢・場面別に見た品詞の使用率

次に、話手の

- (1) 男女別,
- (2) 専門学校以上の教育を受けた者と義務教育だけの者との別,
- (3) 20歳以下の者と40歳以上の者との別*,
- (4) 既知どうしの場合と未知どうしの場合との別**,

に取ってみた。結果は〔表49〕のとおりである。

〔表49〕品詞の使用率 (2)一性・教養・年齢・場面別一

話手	体言	名詞			動詞	形容詞	形容動詞	副詞	連体詞
		名詞	代名詞	数詞					
男女	21.0	16.6	2.7	1.7	12.0	2.4	1.2	6.2	0.8
女	19.8	15.7	2.5	1.7	12.5	3.1	1.3	6.0	0.8
専	20.8	16.7	2.5	1.7	12.2	2.8	1.2	6.3	0.8
義	20.0	15.3	2.9	1.7	12.2	2.6	1.2	5.8	0.7
～20歳	20.5	16.0	2.5	2.0	11.6	3.5	1.4	6.1	0.8
～40歳	20.3	16.0	2.8	1.5	12.4	2.4	1.2	6.2	0.8
既知	20.1	15.6	2.8	1.8	12.6	2.9	1.3	5.7	0.9
未知	21.0	17.4	1.8	1.6	12.1	2.4	1.0	6.2	0.9

接続詞	感動詞	助詞	助動詞	融合形	総語数	自立語計	付属語計	コソド ア語	話手
1.7	4.4	34.7	13.2	2.3	47469	49.7	47.9	4.5	男女
2.2	5.0	34.8	12.5	2.2	36151	50.7	47.3	4.7	女
1.8	4.7	34.9	12.5	1.9	53189	50.6	47.4	4.6	専
2.0	4.6	34.5	13.5	2.9	30431	49.1	48.0	4.5	義
2.0	3.6	36.2	12.2	2.3	13264	49.5	48.4	4.3	～20歳
2.0	4.7	34.4	13.2	2.4	41065	50.0	47.6	4.6	～40歳
2.1	3.7	35.5	12.3	3.0	23826	49.3	47.8	4.6	既知
1.7	5.3	32.9	15.2	1.2	18478	50.6	48.1	3.9	未知

それぞれの対比においてあまり著しい差異は認められないが、やゝ差異の目立つ点の一つ、感動詞について、その内わけを見た。結果は〔表50〕のとおりである

* 特に若年層と高年層とを対比してみるために、20歳以下の者と40歳以上の者について集計してみた。

** 主として既知どうし・未知どうしで対談の行われている録音テープのうち、性別・教養別・年齢別についてなるべく均衡のとれるように選んで、次の各5巻を取り上げて調べたものである。

既知一I夫妻(リール音写3)、松根屋(59)、学生座談I(61)、N家座談(67)、女の会(98)

未知一じいさんばあさん(76)、職安男子(87)、職安女子(88)、U氏談(97)、三越美容室(104)

〔表50〕 感動詞の種類別使用率

話 手	感動詞	感動詞	感動詞	計
	I	II	III	
男 女	21.0	39.9	39.0	99.9
	23.8	42.2	34.0	100.0
専 義	22.5	42.8	34.7	100.0
	22.0	37.6	40.4	100.0
～20歳 40歳～	25.7	43.0	31.2	99.9
	21.0	34.7	44.3	100.0
既 知 未 知	16.7	46.3	37.0	100.0
	19.9	49.1	31.0	100.0

523 ニュース・ニュース解説に

おける品詞の使用率

日常談話との対比のために、ラ
ジオのニュースおよびニュース解
説について、同様の調査を小規模
に行った。材料はニュース3回、
ニュース解説4回の内容である。

結果は〔表51〕のとおりである。

〔表51〕 ニュース・ニュース解説の品詞の使用率

リール	体言	名詞			動詞	形容詞	形容 動詞	副詞	連体詞
		名詞	代名詞	数詞					
ニ ュ ー ス	36.4	32.6	0.5	3.3	14.9	0.4	0.9	1.3	1.6
ニ ュ ー ス 解 説	28.5	25.1	0.9	2.5	16.0	0.9	1.5	2.5	1.2

接続詞	感動詞	助詞	助動詞	融合形	総語数	自立 語計	付属 語計	コソア ド語	リール
1.0	0	33.0	10.6	0	4310	56.5	43.6	1.5	ニ ュ ー ス
2.6	0.3	34.3	12.3	0.03	7763	53.5	46.6	2.3	ニ ュ ー ス 解 説

ニュースはおおむね書かれた原稿の朗読されるものであり、ニュース解説はニュースほど原稿に拘束されずに話されるものであるが、そのような条件のちがいによることばのちがいが、この表にもあらわれていると見ることができよう。なお、ニュース解説における感動詞0.3%の内容は、すべて感動詞IIIに属するものであった。

524 調査の結果から

調査の結果を、従来の、主として書きことばに関するこの種の調査の報告類や、上のニュース・ニュース解説についての調査と対比してみると、特に著しいこととして、次のようなことが言える。

- (1) 新聞の文章、ニュース・ニュース解説の文章に比べて、日常談話では、

○名詞が少ない。* ○名詞と動詞との比較において、動詞が多い。** ○動詞と形容詞との比較において、形容詞が多い。*** ○副詞が多い。**** ○感動詞が多い。***** ○コソアド語が多い。 ○融合形が多い。

なお、ニユース・ニユース解説・日常談話の三者を対比してみる時、それらの間の漸層的な差違が見られる。

(2) 小説の文章に比べても、

○動詞と形容詞との比較において、形容詞が多い。*****

なお、「日常談話に名詞が少ない。」ということは、新聞・小説・日常談話の三者を並べて見ると、「新聞の文章には名詞が多い。」と言うべきことのように思われる。

また、[表49]において、融合形・コソアド語などで、既知>未知の関係が認められることは、融合形・コソアド語などが日常談話に多いことと照してみても、日常談話の性格の一つ、くだけたことばづかいを示すものと見られるであろう。

数表の上にあられないで、調査の過程において問題があると察せられたおもしろな点に、次のようなものがある。

(1) 接続詞の用法に、書きことばなどに比べて、かなり特異なものがありそうだ。

(2) 副詞の用法にも、同様に特異性がありそうだ。

* 新聞用語研究No. 25 の新聞文章の実態調査では、名詞54.7% cf. 7の(14) 国立国語研究所年報Ⅰの朝日新聞1か月間の品詞別使用度数調査では、名詞65% cf. 7の(66) 新聞用語研究の調査では品詞の立て方が独特であり、年報Ⅰの調査は自立語だけについての調査であるから、これらの数字をたゞちに(表1)の数字と対比することはできない。(表1)では自立語計が総語数の50%であるから(表1)の数字を2倍にしてこれらと対比することができる。

** 新聞用語研究No. 25では、動詞19.1%、年報Ⅰでは、動詞22%

*** 年報Ⅰでは、形容詞 3%

**** 年報Ⅰでは、副詞 3%

***** 年報Ⅰでは、感動詞 0

***** 波多野完治氏の「文章心理学」の作家の文章分析では、谷崎一動詞113、形容詞13 志賀一動112、形7 谷崎一動103、形16 横光一動104、形0 cf. 7の(15)

ばかあ¹⁰ あたしやあ・おりやあ各² あっしやあ・わたくしや・わたしやあ
(おれは)

わっしや・わしやあ各 1

動詞一助詞 (「すれーば」「有りーは」「やむーを」「するーん」など)

に当るもの

「～ば」の類——すりゃ(あ)⁶ 言や(あ)・やりゃ(あ)各⁴ 見りゃ(あ)・行きゃ(あ)・ことわりゃ各³ 有りゃ・取りゃ(あ)各² 打ちゃ(あ)・思やあ・出りゃ・掛けりゃあ・できりゃあ・なりゃ・のっけりゃ各¹

「～は」の類——有りゃ⁴ はじまりゃ² 勝ちゃ・かまや・とどきゃ・残りゃあ・やりゃ・わかりゃ各 1

やもお⁵
(やむを)

すん³ あん² なん¹
(するん) (あるん) (なるん)

補助動詞一助詞 (「くれーば」「ござんすーわ」など) に当るもの

くりゃ(あ)・いりゃ(あ)各² おきゃ・くれりゃ・もらやあ各¹
(肩)

いん² くれん¹
(いるん) (くれるん)

ござんさあ¹

形容詞一助詞 (「なけれーば」など) に当るもの

なけりや・なきゃあ各 1

補助形容詞一助詞に当るもの

なきゃ(あ)⁸ なけりゃ(あ)³

形容動詞一助詞 (「あたりまえでーは」など) に当るもの

あたりまえじゃ・きれいじゃ・正確じゃ・だめじゃ・面倒じゃ・楽じゃ各¹

助詞一動詞 (「とって一言う」「なんて一言っ」など) に当るもの

ってえ³⁴ [内わけ*, (っ)てっ¹⁸, (っ)て(え)¹⁶] ちっ¹ (っ,**⁹) ともう²⁰
(と賢つ) (と言つ) (と思う)

[内わけ, ともい², ともっ¹⁶, ともう²]

なんっ¹

* 活用的変化を示す。以下同じ。

** 用例—「帰ってこいつても帰らない」「いけないたつてすんだことはしかたがない。」

助詞一補助動詞（「てーいる」など）に当るもの

てる 539 [内わけ, て 243, てる 257, てん 29, てっ 2, てれ 8] ちゃう 332
 [内わけ, ちゃい 7, ちゃっ 236, ちゃう 88, ちゃえ 1] てく 40 [内わけ,
 てか8, てっ22, てく 9, てこ 1] とく 31 [内わけ, とか 2, とい 18, とく 6
 とけ5] じゃう 29 [内わけ, じゃっ 20, じゃう 9] てらっしゃる 26 [内わけ,
 てらっしゃら 1, てらっしゃい 17, てらっしゃっ 4, てらっしゃる 4] でる 14
 [内わけ, で6, でる 8] ちまう 13 [内わけ, ちまい 3, ちまっ 2, ちまう 6,
 ちもお¹, ちめえ¹] てやがる 10 [内わけ, てやがっ 3, てやがる 6, てやが
 ん¹] てら(っ)し(っ) 5 とる(とり)* 4 てける 2 [内わけ, てけ 1, てける 1]
 どい(どく)・とくれ各 1

助動詞一助詞（「でーは」「られれーば」など）に当るもの

じゃ(あ) 296
 なきゃ(あ) 34 なけりゃ 9 られりゃあ 1
 にゃあ・ん各 1
 (ねは) (ねは)
 まさあ 2
 (ますわ)

助詞一助詞（「てーは」など）に当るもの

ちゃ(あ) 75 じゃ(あ) 36 にや(あ) 18 なあ 7 よりゃ(あ) 2 なんざあ 1
 (のは)

助詞一補助動詞一助詞（「てーいるん」など）に当るもの

てん 90 てりゃ 5 てやがん・ときゃ(あ) 各 2 てら 1
 (ているん) (てやがるん) (ておけば) (ているわ)

その他

(っ)てな 6 んち・ざんす [内わけ, ざんしょ 1, ざんす 2] ・いうに
 (っ)ているような (のうち) (せござんす) (いうように)
 [内わけ, いうに 1, いうな 2] 各 3 なんてな 2 じゃせ 1
 (なんていうような) (ではありませ)

以上の分類による数と百分比は、[表52]のとおりである。

532 融合形の分類

上の分類は、対応するていねい形の品詞によるものであったが、次に、ていねい形の語によって分類してみる。助詞・補助動詞を中心として分類する。

(1) 十助詞

* 終止形は「とる」となるべきもの「とり」の形。

〔表52〕 融合形の数

対応するていねい形	異語数(%)	延べ語数(%)									
体言 助詞	<table border="0"> <tr> <td>名詞</td> <td>15(12.8)</td> <td rowspan="3">} 29(24.8)</td> <td>40(2.1)</td> <td rowspan="3">} 174(9.1)</td> </tr> <tr> <td>コソアド代名詞</td> <td>6(5.1)</td> </tr> <tr> <td>他の代名詞</td> <td>8(6.8)</td> </tr> </table>	名詞	15(12.8)	} 29(24.8)	40(2.1)	} 174(9.1)	コソアド代名詞	6(5.1)	他の代名詞	8(6.8)	
名詞	15(12.8)	} 29(24.8)	40(2.1)		} 174(9.1)						
コソアド代名詞	6(5.1)										
他の代名詞	8(6.8)										
動詞 助詞	<table border="0"> <tr> <td>動詞</td> <td>27(23.1)</td> <td rowspan="2">} 35(29.9)</td> <td>57(3.0)</td> <td rowspan="2">} 68(3.6)</td> </tr> <tr> <td>補助動詞</td> <td>8(6.8)</td> </tr> </table>	動詞	27(23.1)	} 35(29.9)	57(3.0)	} 68(3.6)	補助動詞	8(6.8)			
動詞	27(23.1)	} 35(29.9)	57(3.0)		} 68(3.6)						
補助動詞	8(6.8)										
形容詞 助詞	<table border="0"> <tr> <td>形容詞</td> <td>2(1.7)</td> <td rowspan="2">} 4(3.4)</td> <td>2(0.1)</td> <td rowspan="2">} 13(0.7)</td> </tr> <tr> <td>補助形容詞</td> <td>2(1.7)</td> </tr> </table>	形容詞	2(1.7)	} 4(3.4)	2(0.1)	} 13(0.7)	補助形容詞	2(1.7)			
形容詞	2(1.7)	} 4(3.4)	2(0.1)		} 13(0.7)						
補助形容詞	2(1.7)										
形容動詞-助詞	6(5.1)	6(0.3)									
助詞 助詞	<table border="0"> <tr> <td>動詞</td> <td>5(4.3)</td> <td rowspan="2">} 19(16.2)</td> <td>65(3.4)</td> <td rowspan="2">} 1112(58.4)</td> </tr> <tr> <td>補助動詞</td> <td>14(12.0)</td> </tr> </table>	動詞	5(4.3)	} 19(16.2)	65(3.4)	} 1112(58.4)	補助動詞	14(12.0)			
動詞	5(4.3)	} 19(16.2)	65(3.4)		} 1112(58.4)						
補助動詞	14(12.0)										
助動詞-助詞	7(6.0)	344(18.1)									
助詞-助詞	6(5.1)	139(7.3)									
助詞-補助動詞-助詞	5(4.3)	30(1.6)									
その他	6(5.1)	18(1.0)									
計	117(99.9)	1904(101.0)									

a. +「は」(係助詞) 延べ数 627

体言+ (「こんだあ」「そりゃあ」「ほかあ」……)

動詞連用形+ (「勝ちゃあ」……)

形容動詞連用形+ (「楽じゃあ」……)

助動詞「で(「だ」の連用形)」+ (「じゃあ」)

助詞「て」「で」「に」「の」「より」「なんぞ」+(「ちゃあ」「じゃあ」「にゃあ」……)

(付 「で」+「は」+「あり」+「ませ」の一例がある。「じゃせ」)

b. +「を」(格助詞) 延べ数 6

体言+ (「なにょお」)

動詞「やむ」(連体形)+ (「やもお」)

- c. +「ば」(接続助詞) 延べ数 107
 動詞(補助動詞とも) 假定形+ (「すりゃあ」……)
 形容詞補(助形容詞とも) 假定形+ (「なけりゃあ」「なきゃあ」)
 助動詞假定形(エ段のもの)+ (「られりゃあ」「にゃあ」……)
- d. +「ん」(格助詞) 延べ数 31
 「一る」形動詞(補助動詞とも) 連体形+ (「すん」…)
- e. +「わ」(終助詞) 延べ数 4
 補助動詞「ござんす」+ (「ござんさあ」)
 助動詞「ます」+ (「まさあ」)

(2)* 助詞+

- a. 「と・って」(接続助詞)+ 延べ数 64
 +動詞「言う」(「なんっ」)
- b. 「なんて」(副助詞)+ 1
 +動詞「言う」「思う」(「ってっ」「ってえ」「ちっ」「ともう」)
- c. 「て・で」(接続助詞)+ 延べ数 1077
 +補助動詞 (「てる」「でる」「とく」「ちゃう」……)
- d. 「の」(格助詞)+ 延べ数 3
 +名詞「うち」(「んち」)

(3) +助動詞

- +「ような・ように」 延べ数 11
 動詞「言う」+ (「いうな」「いうに」)
 ((2)a. (2)b.と合わさる場合はさらに形が変わる。「ってな」「なんてな」)

(4)** 助動詞+

- 「で(「だ」の連用形)」+ 延べ数 3

* ** (1) に含まれたものを除く。

+補助動詞「ござんす」(「ざんす」)

以上を通じて見て、融合形には、ていねい形における(A)つながる2語がともに音の変化を起しているもの、(B)前の語の尾音節もしくは後の語の頭音節の脱落しているもの、(C)前の語全部と後の語の頭音節とが脱落しているもの、のような種類のあることも見られる。

(B)の尾音節脱落は(1)d.の「す(る)ん」など、頭音節脱落は(2)a.の「って(言)っ」「と(お)もう」、(2)b.の「なんて(言)っ」、(2)c.の「て(いる)」「て(行く)」など、(2)d.の「ん(う)ち」、(3)の「言う(よう)な」。

(C)は(1)a.の「じや(ありま)せ」、(2)a.の「(と)言)っ」、(3)の「って(言うよう)な」「なんて(言うよう)な」(4)の「(で)ござんす」。なお、(2)a.の「(と)言)っ」は、「いけない()たってすんだことはしかたがない。」のように、2語とも脱落してしまうことがある。

54 副 詞

541 異語数と延べ語数

調査材料の範囲において、日常談話では、新聞・小説等の書きことばやニュース・ニュース解説のことばに比べて、副詞の使用率が著しく高いことが注目された。それでは、日常談話では、どのような副詞がどんな使用度数において用いられているか。録音テープ20巻の中の副詞全体の異語数と延べ語数を、男・女、専・義、壮(40歳以上)・若(39歳以下)に分けて調べてみた結果は、[表53]のとおりである。

542 語の種類と使用度数

使用度数順に並べ、使用度数[表54]のとおりである。5以上のものには、話手別(男・女、専・義、壮・若)の使用度数を添えた。以下、接続詞・形容詞・形容動詞についても同じ。

。をつけたものは、擬声語あるいは擬態語である。

〔表53〕 副詞の数

話手	延べ語数	一 次*		二 次**	
		異語数	一語頻度平均***	異語数	一語頻度平均***
男	2950	247	11.9	240	12.3
女	2053	213	10.4	211	10.3
専	3347	261	12.8	253	13.2
義	1656	196	11.8	188	11.4
壮	2481	228	9.2	221	8.9
若	2522	235	10.7	226	11.2
全	5003	318	6.4	307	6.1

〔表54〕 副詞の語種・使用度数一覧 A 使用度数5以上のもの

話手別延べ語数 { 男-2950 女-2053
専-3347 義-1656 計 5003
壮-2481 若-2522

語	男	女	専	義	壮	若	計	語	男	女	専	義	壮	若	計
そ う	598	573	862	309	484	687	1171	す ぐ	32	25	40	17	25	32	57
そ っ	2	0	0	2	2	0	2	ど う ぞ	24	29	40	13	26	27	53
ま あ	253	134	210	177	290	97	387	い ち ば ん	27	23	37	13	20	30	50
も う***	237	42	168	111	146	133	279	ど う も	31	18	25	24	31	18	49
や っ ぱ り	111	93	146	58	102	102	204	た い へ ん	29	18	28	19	26	21	47
や っ ぱ	0	2	1	1	1	1	2	あ あ	28	18	30	16	25	21	46
も う	101	89	110	80	100	90	190	ま た	24	20	29	15	23	21	44
こ う	94	49	88	55	85	58	143	あ ん ま り	20	23	28	15	20	23	43
ど う	80	59	106	33	52	87	139	ず い ぶ ん	16	24	29	11	20	20	40
。 ち ょ っ と	68	69	96	41	61	76	137	そ り や (あ)	24	11	20	15	26	9	35
全 然	54	27	64	17	25	56	81	そ ら (あ)	2	1	2	1	2	1	3
ま だ	49	31	44	36	43	37	80	。 ず っ と	24	10	24	10	17	17	34
や は り	38	23	47	14	37	24	61	な かな かな	21	12	23	10	20	13	33
す こ し	32	29	40	21	24	37	61	ち ょ う ど	24	7	14	17	18	13	31
非 常 に	57	1	49	9	52	6	58	ま た***	17	14	21	10	17	14	31

* 形の異なるものをすべて別々に数えあげたもの。
 ** 次のような整理を加えて数えたもの。(1) 訛音・不完全音等のものを完全形のものに合わせる。
 (2) 反復形式の擬声語・擬態語の三回形のもの(たとえば「ぐうぐうぐう」)は2回形のもの(「ぐうぐう」)に合わせる。
 *** 延べ語数もしくは異語数が同一でない場合、厳密な比較の資料とはならないが、一応添えておく。以下、接続詞・形容詞・形容動詞についても同じ。
 **** 感動的表現に用いられているもので、他の「もう」と区別した。例「それはもうすぐいんだ。」
 ***** 感動的表現に用いられているもので、他の「また」と区別した。例「そいつはまたひどいことになったもんだ。」

語	男	女	専	義	壯	若	計
とにかく	20	9	12	17	19	10	29
結局	28	0	21	7	7	21	28
よく	10	18	23	5	8	20	28
だ い ぶ	21	6	14	13	13	14	27
で え ぶ	1	0	1	0	0	1	1
いろいろ	18	9	19	8	14	13	27
あまり	8	17	20	5	6	19	25
た だ	13	12	18	7	11	14	25
ど ん ど ん	20	5	9	16	16	9	25
な ん か て	6	18	19	5	7	17	24
な ど う し て	11	13	20	4	9	15	24
も い わ ゆ る	21	2	12	11	20	3	23
別 に	8	15	15	8	9	14	23
ち ゃ ん と	11	11	16	6	10	12	22
と っ て も	3	18	14	7	6	15	21
ひ と つ	20	1	12	9	19	2	21
た と え ば	17	3	20	0	12	8	20
と て も	9	11	12	8	6	14	20
は じ め て	13	7	14	6	7	13	20
ど う し て	12	7	18	1	5	14	19
ほ と ん ど	15	4	16	3	11	8	19
相 当	13	5	15	3	9	9	18
も っ と	7	11	10	8	6	12	18
ず う っ と	11	6	7	10	12	5	17
だ ん だ ん	11	6	9	8	9	8	17
つ ま り	16	1	10	7	15	2	17
た く さ ん	6	10	10	6	6	10	16
一 応	11	5	16	0	2	14	16
な に し ろ	8	6	9	5	5	9	14
な ん し ろ	2	0	2	0	1	1	2
絶 対	12	3	7	8	8	7	15
大 丈 夫	7	7	9	5	7	7	14
は っ き	12	2	12	2	5	9	14
も ち ろ ん	12	2	14	0	10	4	14
い つ も	6	8	11	3	4	10	14
い く ら	9	4	4	9	10	3	13

語	男	女	専	義	壯	若	計
す っ か	8	5	4	9	8	5	13
一 生 懸 命	8	4	6	6	6	6	12
き っ と	6	5	8	3	4	7	11
じ き	4	7	4	7	8	3	11
ち っ と	2	9	5	6	5	6	11
特 別	7	4	9	2	6	5	11
と き ど き	7	4	4	7	8	3	11
も し	7	4	9	2	4	7	11
よ っ ぽ ど	5	6	11	0	4	7	11
か え っ て	4	6	7	3	4	6	10
か い っ て	0	1	0	1	1	0	1
か な ら ず	7	3	8	2	6	4	10
ど う せ	6	4	6	4	4	6	10
わ り に	3	7	10	0	5	5	10
た い が い	5	4	5	4	6	3	9
つ い	1	8	6	3	4	5	9
な る べ く	1	8	3	6	6	3	9
な ん だ か	3	6	8	1	2	7	9
う ん と	4	4	2	6	7	1	8
が っ か り	4	4	6	2	2	6	8
し ば ら く	4	4	4	4	4	4	8
ま ず	4	4	6	2	6	2	8
ま っ た く	6	2	2	6	4	4	8
い っ ぱ い	4	3	4	3	3	4	7
か な り	5	2	5	2	5	2	7
た い し て	4	3	5	2	2	5	7
と う と う	4	3	2	5	7	0	7
な お	6	1	3	4	5	2	7
ぼ っ と	2	5	6	1	1	6	7
い か が	3	3	5	1	4	2	6
ご じ ゅ う ぶ	5	1	3	3	4	2	6
多 少	5	1	4	2	3	3	6
て ん で	5	1	4	2	2	4	6
特 に	6	0	5	1	4	2	6
と も か く	6	0	0	6	6	0	6

語	男	女	専	義	壯	若	計	語	男	女	専	義	壯	若	計
なるほど	2	4	2	4	3	3	6	しじゅう	1	4	3	2	4	1	5
比較的	6	0	6	0	3	3	6	しじゅん	5	0	0	5	5	0	5
もっとも	4	2	4	2	3	3	6	せじゅかく	0	5	5	0	2	3	5
°やっと	4	2	5	1	3	3	6	せじゅそ	3	2	5	0	2	3	5
やっぱし	3	3	6	0	1	5	6	たいてい	2	3	4	1	1	4	5
わざと	0	6	5	1	0	6	6	たいちよい	1	4	2	3	3	2	5
わりあい	1	5	4	2	0	6	6	なんちよ	3	2	3	2	3	2	5
案外	3	3	6	0	3	3	6	よけい	4	1	2	3	2	3	5
けっこう	3	2	4	1	2	3	5	°ぐくう	3	1	2	2	2	2	4) 5
さっそく	5	0	4	1	4	1	5	°ぐくう	0	1	1	0	0	1	

B 使用度数4以下のもの

使用度数4のもの

°がたがた ことに さんざん °しっかり なるだけ
°ばあっと °びっくり しょっちゅう まるで もしも
わずか °どかんと・°どかんで* まっすぐ・まっつぐ

使用度数3のもの

°あっさり いくらか いまに おそらく おのずから
°くるくる °さっぱり 実に 少々 °ずらずら °すばすば
たしか 当然 なに なんて なんでも °ぶつぶつ まして むしろ
わざわざ °ふわふわ °ふわふわふわ

使用度数の2のもの

あいかわらず あいにく あくまでも あるいわ °からからかっと
°きちっと °ぎゅうっと °ぎゅうぎゅう °ぐうっと
°ぐるぐる °こつこつ °ごろごろ °さあっと °さっと 少なくとも
すでに せいぜい せめて たちまち たった
°たっぶり たとえ °ちょいと °でこぼこ 当分 突然 なにも
なんだって °にやあって 年じゅう
°のんびり ひとりひとり °ひよっと °びたっと ふんだんに まさか
ますます もしや °ゆっくり よほど わりと およそ まるきり・
まるっきり

* 「どかんと」「どかんで」を合わせて使用度数4以下、各品詞の使用度数4以下のものについて同級。

使用度数1のもの

あらまし いかに いきなり いくぶん いちいち いっこう いっそう
 いったい いったう 今もって いやいや いわば °うんざり °うるうる
 大いに おおかた 思い思い °がくがく かつて からきし °からっと
 °がらがら かりに °かんかん °きちんと °きゅうっと
 °くしゃくしゃ °ぐうすか °ぐずぐず °ぐっと °ぐにゃぐにゃ
 °くよくよ けして (決して) けちけち 公然と °ごそっと °こつてり
 °さざっと さほど °ざんぶと しみじみ 若干 °じょこじょこっと
 °じろじろ °すうっと すべて °すほうすほうと ぜひ °そいと
 俗に °そっくり それわ 存分 °だらあん と 断然 たびたび
 直接 °ちよこちよこ °つるつる °でえんと °てくりてくりてくり
 °てんでん °どうどう どうにか どうにかこうにか とかく
 とやかく なにか なんら °にこにこ °にゃんにゃん ねこそぎ
 °ぼあんで °ぼあっと °ぼかすか °ぼかばか °ぼくぼくぼく
 °ぼたぼた °ぼっぱと °ぼぼぼって はや °ばらばら ぼん ひとつきり
 ひとつびとつ °ひりひり ひろびろ °ふいと °ふうふう °ぶくぶく
 °ふっと °ぷっと °ぶらっと °ぶるぶる 別段 °ペるペるペる
 °ほうっと °ぼかすか °ぼかあんぼかあん °ぼかんと °ぼこぼこ
 °ぼさあっと °ぼちゃっと °ぼつぼつ °ぼつんと ほれほれ °ぼんと
 前もって °まごまご まだまだ °もさあっと やや °よろよろ ろくに
 °わあっと

543 擬声語・擬態語の副詞

副詞の中にはとりわけ擬声語・擬態語が多いと言われているが、この調査で数えられた副詞318語中、擬声語・擬態語は115語で、36%に当る。使用度数2以下の語について見ると、159語中83語、すなわち52%が擬声語・擬態語によって占められている。擬声語・擬態語115語のうち、使用度数2以下のものが83語で、これは全体の72%に当る。擬声語・擬態語はその性質上、比較的、特殊具体的表現に用いられるものが多く、そのために使用度数の低いものが多いことと思われる。擬声語・擬態語の中でも、高い使用度数をもって出ているものには、概して具体的活写の象徴語としてのはたらきの弱いものも多く、使用度数の低い類に特殊具体的表現のはたらきをもつものが

多い。それは 542 の〔表53, 54〕において観察される。

544 書きことばとの比較

日常談話における副詞の用法について詳しく調査する余裕はなかったが、副詞の使われ方を見るための一作業として、使用度数の多い語を書きことばにおけるそれと比較してみた。すなわち、国立国語研究所資料集2「語彙調査—現代新聞用語の一例—」における新聞用語の副詞、国立国語研究所報告4「現代語の語彙調査 婦人雑誌の用語」の中の「主婦之友」の実用記事の副詞と、日常談話の副詞との上位各20語をとって対比してみた。〔表55〕がそれである。

語や品詞のきめ方においてそれぞれ相違するところがあるので、厳密な比較にはならないが、おおよその状況をみることができよう。

日常談話では、書きことば等に比較して副詞の使用率の高いことが、542で観察されたが、この比較によって、日常談話では、少数の副詞の使用度数が特に高いことが注目される。すなわち、各20語の使用度数の漸減状態を比較してみると、著しい相違がそこに見られる。なお、第1位の「そう」の使用度数はとびぬけて高いが、その1173という数は、副詞全体の使用度数5003の23%に当たっている。また、上位5語の使用度数の計は、45%を占めている。

また、日常談話と「新聞用語」「主婦之友」との間に、使用されている副詞の種類およびその使用度数順位に、かなり相違のあることが注目される。

なお、日常談話では、上位のものの中に、無意味に近い用法、いわゆる遊びことば・場つなぎことば的に用いられる* ことのあると思われる語の多いことが指摘せられる。すなわち「まあ」「もう」「やっぱり」「やはり」「ちよっと」「どうも」等がそれである。

* cf. 7 の(19) (20)

[表55] 談話語の副詞と書きことばの副詞との比較

順位	日常談話語 (使用度)	新聞副詞 順位	主婦副詞 順位	新聞用語 (使用度)	日常副詞 順位	主婦之友 (使用度)	日常副詞 順位			
1	そう (そっ)	1173	6	また***	527	20	また****	128	20	
2	まあ	387		どう	294	7	まず	81	79	
3	もう	279		さらに	254		どう	72	7	
4	やっぱり (やっば)	206		まだ	188	10	すこし	66	11	
5	もう	190	10	8	すでに	178	150	こう	65	6
6	こう	143	8	5	そう	168	1	十分	64	90
7	どう	139	2	3	特に	166	96	特に	49	90
8	ちょっと	137		15	まず	134	79	もう	47	5
9	全然	81			こう	104	6	さらに	43	
10	まだ	80	14		ただ	95	33	少々	43	129
11	やはり	61			もう	92	5	すぐ	43	14
12	すこし	61		4	十分	84	90	いろいろ	39	32
13	非常に	58			もっとも	84	90	なお***	34	84
14	すぐ	57		9	まったく	82	79	かならず	32	72
15	どうぞ	53			ただちに	81		まだ	29	10
16	いちばん	50			特別	81	64	ちょっと	26	8
17	どうも	49			もし	74	64	なるべく	26	75
18	たいへん	47			もっと	72	48	すべて	25	192
19	ああ	46			一応	70	53	それぞれ	25	
20	また	44	1	1	はじめて	68	43	ときどき	25	64

日常談話語 { 副詞異語数 307 新聞用語—副詞異語数 428
副詞延べ語数 5003

* ** いずれも20位までのものだけを示した。

*** ** ** * いずれも、副詞・接続詞を合わせたものである。

55 接 続 詞

551 異語数と延べ語数

接続詞についても、まず異語数と延べ語数を、男・女、専・義、壮・若に分けて数えた。

[表 56] 接 続 詞 の 数

話手	延べ語数	一 次*		二 次**	
		異 語 数	一語頻度平均	異 語 数	一語頻度平均
男	777	68	11.4	47	16.5
女	781	64	12.2	47	16.6
専	961	71	13.5	52	18.5
義	597	58	10.3	45	13.3
壮	807	71	11.4	53	15.2
若	751	59	12.7	44	17.1
全	1558	85	18.3	63	24.7

552 語の種類と使用度数

[表 57] 接続詞の語種・使用度数一覧 A 使用度数 5 以上のもの

話手別延べ語数 { 男—777 女—781
専—961 義—597 計 1558
壮—807 若—751

語	男	女	専	義	壮	若	計	語	男	女	専	義	壮	若	計
それで	112	80	109	83	98	94	192	でも	23	96	97	22	26	93	119
そいで	18	21	16	23	28	11	39	んでも	0	1	1	0	0	1	1
そんで	3	7	6	4	6	4	10	じゃ(あ)	36	49	59	26	31	54	85
だから	89	90	99	80	97	82	179	んじゃあ	10	4	11	3	3	11	14
んだから	1	6	7	0	2	5	7	だけど	37	36	45	28	27	46	73
か	0	2	1	1	1	1	2	んだけど	3	0	1	2	3	0	3
で	64	91	81	74	97	58	155	ですから	21	37	26	32	48	10	58
んで	8	13	21	0	3	18	21	だって	19	37	44	12	15	41	56
それから	76	48	87	37	67	57	124	んだって	0	1	1	0	0	1	1
せえから	3	5	0	8	8	0	8	そ(う)して	24	31	33	22	34	21	55
そいから	6	0	6	0	4	2	6								

* 形の異なるものをすべて別々に数えあげたもの。

** 訛音・不完全音等のものを完全形的なものに合わせて数えたもの。

語	男	女	専	義	壮	若	計
そうする	11	10	15	6	7	14	21
そうすつ	5	7	11	1	4	8	12
そうすと	3	2	1	4	4	1	5
そ(う)し	9	25	21	13	15	19	34
たら	1	1	1	1	2	0	2
ら							
しかし	30	1	24	7	20	11	31
それじゃ	12	8	12	8	9	11	20
(あ)							
そいじゃ	1	6	4	3	5	2	7
(あ)							
ところが	20	1	6	15	19	2	21
とこが	1	0	1	0	1	0	1
また	16	2	11	7	14	4	18
それだから	8	5	4	9	9	4	13
そっだから	2	0	0	2	2	0	2
あるいわ	13	1	14	0	11	3	14
それでも	9	4	9	4	4	9	13
そいでも	0	1	1	0	0	1	1

語	男	女	専	義	壮	若	計
すると	6	4	5	5	6	4	10
すつと	1	1	2	0	0	2	2
だけれども	11	1	5	7	7	5	12
それでも	8	1	2	7	8	1	9
つて							
そいでも	2	0	0	2	2	0	2
つて							
それでわ	3	5	7	1	3	5	8
そいでわ	1	0	1	0	1	0	1
だが	4	3	2	5	4	3	7
けど	3	3	4	2	3	3	6
それです	4	2	3	3	6	0	6
から							
それに	4	2	3	3	5	1	6
それとも	4	1	5	0	0	5	5
そんなら	1	2	2	1	1	2	3
なら	0	2	2	0	1	1	2

B 使用度数 4 以下のもの

<p>使用度数 4 のもの</p> <p>もつとも</p>
<p>使用度数 3 のもの</p> <p>けれど けれども しかも そうしますと だけれども ですけど ですけれども</p>
<p>使用度数 2 のもの</p> <p>そういたしますと そうしたところが そこで だもんですから では</p>
<p>使用度数 1 のもの</p> <p>が けども したがいまして してみると しますから そうするというと それだけど それなのに それだもんだから それだもんで それなら そんならば だったら だもんだから なもんですから でなきゃあ でもって ところで ないし なお</p>

533 類別による語数

並列・添加・選択・順接・逆接に類別して異語数と延べ語数を数えてみると、次のとおりである。

〔表 58〕 接続詞の種類別数

類	異語数(%)	延べ語数(%)
並列	1(1.6)	18(1.2)
添加	5(7.9)	203(13.0)
選択	4(6.3)	21(1.3)
順接	34(54.0)	948(60.8)
逆接	19(30.2)	368(23.6)
計	63(100.0)	1558(99.9)

554 書きことばとの比較

副詞の場合と同様、使用度数の多い語を、書きことばにおけるそれと比較してみた。比較の材料は、同じく、国立国語研究所資料集2「語彙調査」における新聞用語の接続詞、国立国語研究所報告4「婦人雑誌の用語」

の中の「主婦之友」の実用記事の副詞である。〔表59〕がそれである。

やはり、語や品詞のきめ方においてそれぞれ相違するところがあるが、およその比較のためにかゝげる。

副詞の場合とは逆に、少数の接続詞の使用度数の高いのは書きことばの方で、日常談話においては使用度数の漸減状態が比較的ゆるやかである。

また、日常談話と「新聞用語」「主婦之友」との間に、使用されている副詞の種類およびその使用度数順位に、かなり相違のあることが注目される。

なお、日常談話では、遊びことば・場つなぎことば的に用いられることの多い接続詞が上位にあることが注目される。すなわち「それで」「だから」「で」「でも」「だけど」「だって」等がそれである。*

555 用法別の使用率・使用度数

5551 用法別使用率

接続詞の用法あるいは機能については、いろいろと論がある。そのうち、「口語」では文中に用いられる接続詞はきわめて少ないと言われているが、**

* cf. 5552

** cf. 7 の(69)

日常談話ではどうであろうか。また、話しことばにおいては、ある種の副詞とともに、遊びことば・場つなぎことば的に用いられる接続詞が少なくないとしばしば言われているが、*その実態はどうであろうか。この2点に着目して、用法の分類を試みた。

第1の分類

文中の接続詞
文頭の接続詞
話頭**の接続詞

第2の分類

A——いわゆる前の語・句・文と後の語・句・文をつなぐ役割を果しているもの。

B***——前後をつなぐという関係が明確にはとらえられがたいけれども、一つの意味を受けて、次の表現を導き出す役割を果しているもの。

C****——つなぐはたらきをもたず、ほとんど無意味に置かれているもの。いわゆる遊びことば・場つなぎことばの類。

D——中絶あるいは不整表現のため、A・B・Cのいずれに属するものか、はっきりしないもの。

A・B・Cの区別は、本来、主観的な性格のものである。かつ、明確に区別つけにくい場合が少なくない。A・Bの境界も、実際上ぼやけているところがあるし、A・BとCとの見分けにも迷うことが多い。したがって、この調査の結果は、おおよその状態を示すものにすぎない。

Bの類は、意味のもち方においてはAと同じであるから、Aに含めることもできるのであるが、文脈におけるはたらきはAと異なるものがある。そして日常談話においてはこの類がかなり多そうだと感じたので、特に類別することにした。

* cf. 7の(19)(20)

** 対話における各話手のしゃべり出しに置かれたものを、このように名づける。

*** 例 a「御主人は御病氣ですか。」b「いえ、そうじゃあないんですけど。」a「そうすると炊事婦さんですわ。」(職安女子) a「そうでございますね。」b「じゃあよろしくお願いします」(結婚申込)

**** 例 a「全部でどのくらい?」b「それで、この付属いつさいをつけまして32円。」(結婚申込)
「検閲車の巡転士だとかさ、四五人グルンなつてさ、で止めるんだよ、途中で。」(学生座談Ⅱ)

〔表 59〕 談話語の接続詞と書きことばの接続詞との比較

順位	日常談話 (使用度)	新聞 順位	主婦 順位	新聞用 語 (使用度)	日常 順位	主婦 之 (使用度)	女用 語 (使用度)	日常 順位	
1	それで	241		また***	527	16	また****	126	16
2	だから	188	13	しかし	339	13	そして	45	10
3	で	176		および	334		または	41	
4	それから	138		なお	237	43	なお***	34	43
5	でも	120	19	または	100		しかし	30	13
6	じゃあ	99		そして	76	10	つまり	16	
7	けど	76		あるいは	66	18	あるいは	15	18
8	ですから	58		ならびに	66		したがって	11	
9	だって	57		しかも	56	31	しかも	10	31
10	そうして	55	6	ところが	51	15	ですから	9	8
11	そうすると	38		すなわち	46		および	8	
12	そうしたら	36		そこで	43	38	さて	8	
13	しかし	31	2	だから	34	2	ただし	7	
14	それじゃあ	27		かつ	31		では	7	43
15	ところが	22	10	ただし	29		もともと	4	30
16	また	18	1	だが	25	24	と	3	
17	それだから	15		では	21	43	けれど	3	31
18	あるいは	14	7	もともと	19	30	が	2	43
18	それでも	14		でも	17	5	だが	2	24
20	けども	12		かくて	12		で	2	3
20	すると	12	21				でも	2	5

日常談話—接続詞異語数 63 新聞用語—接続詞異語数 37
 接続詞延べ語数 1558

日常談話の語は、「それで」「そいで」「そんで」を合わせて「それで」で示し、「だから」「んだから」「から」を合わせて「だから」で示すなどのように処置したものである。語の合わせ方は〔表57〕における使用度数の合わせ方の場合と同じ。

* * * いずれも2)位までのものだけを示した。

* * * * * いずれも、副詞・接続詞を合わせたものである。

以上によって、「学生座談1」のテープを除いた19巻の録音テープの中の接続詞延べ1486語を分類してみた。結果（百分比）は〔表60〕のとおりである。

〔表 60〕 接続詞の用法別使用度数 (1)

話 手	文中	文頭	話頭	計	A	B	C	D	計	延べ語数
男	19	54	27	100	76	13	9	2	100	705
女	12	52	36	100	69	16	12	3	100	781
専	13	48	39	100	71	16	10	3	100	888
義	19	60	21	100	76	13	10	2	101	598
壯	20	60	20	100	78	13	8	1	100	807
若	10	45	45	100	67	17	13	4	101	679
全	15	53	32	100	73	15	10	2	100	1486

文中・文頭・話頭の分類と、A・B・C・Dの分類とを組み合わせると、〔表61〕のようになる。(百分比)

〔表 61〕 接続詞の用法別使用度数 (2)

	A	B	C	D	計	延べ語数
文 中	19	1	12	6		
	90	1	8	1	100	228
文 頭	59	38	39	33		
	80	11	8	2	101	788
話 頭	22	61	49	61		
	52	28	16	5	101	470
計	100	100	100	100		1486
延べ語数	1080	216	154	36	1486	

B・Cの用法は、文中に比較的少なく、話頭に著しく多いことが注目される。

整理された表現では、C用法の接続詞はほとんどあらわれないであろうか

ら、日常談話においてはそれだけ接続詞が多く使われているものと言えようが、特に文中の接続詞の数は、整理された表現では、かなり少なくなるであろうと想像される。その理由として、C用法のものの消えるということのほか、次のようなことが考えられる。(1) 整理された表現では、接続詞の前で文が切れて、文中から文頭に転ずるものがかかなりありそうだ。(2) 接続詞の重複・冗用がかかなり多く、これらは省くことができる。

この調査では、Aの幅をなるべく広げるようにして、用法の区別の明確でないものを処理したが、その基準を変えれば、B・C、特にCの数ははるかに増大するであろう。要するに、軽い用法の接続詞がすこぶる多いのである。

5552 各語の用法別使用度数

使用度数5以上の接続詞の用法別使用度数を数えた。

〔表 62〕 接続詞各語の用法別使用度数

語	文中				文頭				話頭				計
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
それで	35		3	1	83	4	6	2	23	15	7	1	180
そいで	10		2		14	3	4			5			38
そんで					8	1				1			10
だから	6				11	6	8	2	22	7	8	3	174
んだから					4					3			7
から					2								2
で	19		7		68	11	16	1	7	9	16		154
んで	1		3		11	1	1		3		1		21
それから	46				55	5			9	5		1	121
せえから	3				5								8
そいから	2				2					1			5
でも	7				23	6	4	2	32	24	11	5	114
んでも										1			1
じゃ(あ)		1	1		12	7	2		40	12	4	2	81
んじゃ(あ)						2			8	3		1	14
けど	1				18	7	5	2	14	9	10	2	68
んだけど	1									2			3

この中から、用法Cの度数10回以上のものをぬき出すと、次のとおりである。

で(んで) 44, それで(そいで) 22, だから16, でも・だけど各15, だって14。

5553 ニュース・ニュース解説における用法別語数

比較のために、ニュースとニュース解説の中の接続詞の用法を調べてみた。用法別の延べ語数を示す。

〔表 63〕 ニュースの接続詞の用法別使用度数

	A	B	C	計
文中	13	0	0	13
文頭	29	0	0	29
計	42	0	0	42

〔表 64〕 ニュース解説の接続詞の用法別使用度数

	A	B	C	計
文中	37	0	6	43
文頭	97	2	55	154
計	134	2*	61**	197

56 形容詞***

561 異語数と延べ語数

日常談話においては、書きことばなどに比べて、形容詞の使用率の高いことが先に観察された。また、形容詞の種類は少ないと言われている。それでは、どのような形容詞が、どんな使用度数において用いられているであろうか。まず、形容詞の延べ語数と異語数とを、男・女、専・義、壮・若に分けて数えてみた。

* 語は「それでは」

** 語は「で」

*** この調査では、融合形に属するものを加えて扱った。

〔表 65〕 形容詞の数

話手	延べ語数	一 次*		二 次**	
		異語数	一語頻度平均	異語数	一語頻度平均
男	1153	122	9.5	108	10.7
女	1123	122	9.2	115	9.8
専	1538	145	10.6	131	11.7
義	738	92	8.0	84	8.8
壯	969	106	9.1	95	10.2
若	1307	134	9.8	124	10.5
全	2276	170	13.4	143	15.9

562 活用形のあらわれ方

用言の活用形の使用率は、書きことばと話しことばでは相違するところがあるとしてされているが、日常談話の形容詞においては、活用形の使用率はどんな状態であろうか。この調査で得た延べ2276語を活用形によって分け、さらにそれを接続関係によって分けて、その数と百分比を出してみた。()内が百分比である。

〔表 66〕 形容詞の活用形とその用法別の使用度数

か ろ	く				う	か っ	い				
	,	用 言	助 詞	(切 れ)			。	体 言	の ・ ん	終 助 詞	助 接 詞 続
	14 (0.6)	260 (11.4)	76 (3.3)	5 (0.2)			106 (4.7)	347 (15.3)	373 (16.4)	389 (17.1)	159 (7.0)
0 (0)	355 (15.6)				40 (1.8)	112 (4.9)	1733 (76.1)				

* 形の異なるものをすべて別々に数えあげたもの。

** 次のような整理を加えて数えたもの。

- (1) 訛音・不完全音のものを、完全形的のものに合わせる。
- (2) 接頭語「お」のついたものとつかないものを合わせる。
- (3) 動詞などに「いい」「やすい」「くい」の伴ってできた形容詞は、それぞれの類を一つにしてまとめる。

で だ す	(他)	け れ	語 幹	(他)	計
215 (9.5)	144 (6.3)				
		13 (0.6)	7 (0.3)	16 (0.7)	2276 (100.0)

この内わけを次に示す。

- (1) 「く一用言」のうち、補助形容詞「～ない」が 55
- (2) 「く一助詞」は、「～(っ)て」56, 「～して」2, 「～(っ)ても・(っ)たって」18
- (3) 「う」は、「～ごぎいます」37, (「ありがとう～」16, 「よろしゅう～」9, その他), 「ありがとう。」3
- (4) 「いーだ・です」は、「～だろう」14, 「～でしょう」50, 「～です」137, 「じゃ」14
- (5) 「いー(他)」は、「～ようだ」「～そうだ」「～らしい」「～と」「～って」「～なんて」「～とか」「～だけ」
- (6) (他)は、文語形(「よし」など)3, 融合形(「なきゃ」「なけりゃ」)13
なお、「く(切れ)」は、ことばの中絶によるものである。

この表については、次のような2,3のことが考えられる。

- (1) 「かろ」の形が0であるのは、「～かろう」の表現は、主として「～いだろう」の形に吸収されることによるものであろう。
- (2) 「～く、」よりも「～くて」が多く現れていることは、通説を裏づけるものである。
- (3) 「い。」が比較的少ないことについても同様。*
- (4) 「～ければ」の表現は、大方「～かったら」あるいは「～いなら」の形に吸収されていることが察せられる。***

563 語の種類と使用度数

使用度数3以上のものについては、話手別のほか、活用形の接続別の使用度数を添えた。次の形容動詞についても同じ。

* ** cf. 7 の(64)

〔表 67〕 形容詞の種類・使用度数一

話し手別延べ語数

語	活 用 形												
	く			か	い								
	用言	助詞	(切れ)	う	っ	。	体言	の・ん	終助	接助	だです	(他)	
い い			1			4	90	100	112	33	54	52	
ない(補助形容詞)	5	2	22		9	49	15	55	114	28	29	12	
ねえ(岡)						1		3	5			1	
な い	4	11	16	1	16	21	37	56	43	33	39	19	
ね え						1	1	3	4	2			
よ い		55	1		1	38		2					
悪 い		13	3		2	11	2	15	15	10	10	3	8
早 い	1	29				2		4	2	5	4	4	
お 早 い						1							
よ ろ し い		3			9			12	1		12		
お よ ろ し い								1		1			
安 い		11	1	2	2	4	4	1	7		3		
大 き い		6	1		1		8	2	8	3	1	2	
うまい(美味)	1	9			1		10	1	2	1	1	5	
多 い		4	2				1	1	11	3	3	3	
少 ない		2	1		1	3		4	8	3	4	4	
おもしろい		2				6	1	6	2	5		2	5
長 い		6	1			1		8	8	2	1	1	1
若 い	1	3					2	18	1	1	1		
お 若 い								2					
小 さ い								14	4	2	1	1	
高 い	1	2					1	5	2	4	2	6	
あ り が た い					19							2	
す ご い		3				1	1	1	7	6		1	
暑 い		1						4	1	6	3	2	1
お 暑 い						1							
遠 い		1			1			2	5	3	1	2	3
む ず か し い		1					1	2	8	2	1	2	1
あ ぶ な い		2					2		3	3			4
あ ぶ ね え										1			
痛 い		4	1				3		1	1		1	2

覧A使用度数 5 以上のもの

{男—1153 女—1123
 専—1538 義— 738 計 2276
 壮— 969 若—1307

け れ 語 幹 (他)	話 手						計	語			
	男	女	専	義	壮	若					
	192	254	300	146	171	275	446	い い			
5	11	192	164	241	115	152	204	356} 366	ない(補助形容詞)		
		10		2	8	9	1	10}	ねえ(同)		
2	2	172	128	196	104	133	167	300} 311	な い		
		11			11	11		11}	ね え		
2	4	1	62	42	56	48	56	48	104	よ い	
1			49	44	62	31	51	42	93	悪 い	
			27	24	30	21	28	23	51} 52	早 い	
				1		1	1		1}	お 早 い	
			12	25	36	1	15	22	37} 39	よ ろ し い	
				2	2			2	2}	お よ ろ し い	
			11	24	25	10	12	23		35	安 い
			14	19	21	12	9	24		33	大 き い
			25	6	19	12	12	19		31	う ま い(美味)
			15	16	21	10	14	17		31	多 い
			19	11	22	8	15	15		30	少 な い
			19	10	23	6	11	18		29	お も し ろ い
			9	20	23	6	5	24		29	長 い
			15	12	12	15	18	9	27} 29	27}	若 い
				2	1	1	1	1	2}	2}	お 若 い
	1		7	16	19	4	13	10		23	小 さ い
			19	3	18	4	10	12		22	高 い
			9	12	12	9	12	9		21	あ り が た い
			11	9	18	2	5	15		20	す ご い
			2	16	9	9	6	12	18} 19	18}	暑 い
				1	1		1		1}	1}	お 暑 い
			7	11	8	10	13	5		18	速 い
			15	3	16	2	12	6		18	む ず か し い
			3	11	11	3	3	11	14} 15	14}	あ ぶ な い
			1			1	1		1}	1}	あ ぶ ね え
			6	7	7	6	8	5		13	痛 い

け 語 れ 幹 (他)	話 手						計	語
	男	女	専	義	壯	若		
1	10	3	9	4	6	7	13	ひどい
	1	12	11	2	3	10	13	短い
	8	4	5	7	7	5	12	えらい
	7	5	6	4	4	8	12	おかしい
	4	8	8	4	3	9	12	おそい
	4	8	9	3	2	10	12	近い
	8	3	6	5	6	5	11	古い
	9	1	9	1	2	8	10	苦しい
	5	5	3	7	5	5	10	濃い
	1	9	9	1	1	9	10	すばらしい
	10		8	2	5	5	10	強い
	5	3	7	1		8	8 } 9	きたない
	1			1	1		1 } 1	きたねえ
	1	6	2	4	4	1	7	8
		8	8			8	8	おいしい
		8	7	1		8	8	白い
5		3	6	2	7	1	8	低い
7		1	4	4	6	2	8	まずい(下手)
4		3	4	3	4	3	7	忙しい
2		5	7		4	3	7	惜しい
2		5	4	3	4	3	7	細かい
3		4	2	5	7		7	やかましい
3		3	6		1	5	6	新しい
		6	5	1		6	6	ほしい
2		2	4		2	2	4 } 6	柔かい
2			2		2		2 } 2	やらかい
1			1		1		1	1 } 6
	1		1			1	1 } 1	話にくい
	1	3	3	1	1	3	4 } 4	やりにくい
	1			1	1		1 } 1	借りられやすい
	1		1			1	1 } 1	来やすい
		1		1	1		1 } 6	くずれやすい
1		1	1			1	1 } 6	親しみやすい
	1		1			1	1 } 1	しやすい

語	活 用 形									
	く			う	か	。	い			
用言	助詞	切れ	体言				の・ん	終助	接助	だ
やりやすい										1
黒い	3					1		1		
お黒い										1
赤い	1					3	1			
厚い	1					1	3			
おとなしい				1	1		1	2		
暗い	3			1						1
こわい		1			1	2		1		
つらい				1	1			1		2
はげしい	3					1		1		
速い	1	2						1	1	
ものすごい	3					1	1			
弱い		1		1	1	1			1	
広い	1					2				1
お広い								1		
泳ぎいい								1		
しいい								i		
通りいい						1				
飲みいい										
やりいい						1				

B 使用度数 4 以下のもの

使用度数 4 のもの

うらやましい かわいい 涼しい にかい ぼかぼかしい ふさわしい
かたくるしい・かたっくるしい

使用度数 3 のもの

青い うるさい 心やすい さびしい 寒い さもしい 冷たい はずかしい
珍しい もったいない くだらない・くだらねえ ちいちゃい・ちっちゃい

使用度数 2 のもの

明るい 荒い 紙くさい 口うるさい 詳しい 心細い 子供っぽい

け 語 れ 幹 (他)	話 手						計	語
	男	女	専	義	壯	若		
1	1		1		1		1)	6 やりやすい 黒い お黒い 赤い 厚い おとなしい 暗い こわい つらい はげしい 速い ものすごい 弱い 広い お広い 泳ぎいい しいい 通りいい 飲みいい やりいい
		5	5			5	5)	
		1	1		1		1)	
	4	1	5			5	5	
	5		4	1		5	5	
	1	4	5		3	2	5	
	2	3	4	1	1	4	5	
	1	4	3	2	2	3	5	
	5		2	3	3	2	5	
	4	1	3	2	4	1	5	
	3	2	5			5	5	
	2	3	5			5	5	
		5	3	2	4	1	5	
	1	3	2	2	2	2	4)	
		1	1			1	1)	
		1	1		1		1)	
		1	1		1		1)	
		1	1			1	1)	

さみしい しかつめらしい 黄色い ずるい ちさい つまらない
 ねむい ねむたい ぼかくせえ 等しい 深い まずい (不味)
 まっ白い めんどくさい やさしい やゝこしい ゆるい おっかない・
 おっかねえ ぼかっかたい・ぼかかてえ

使用度数1のもの

あまい あまっちょろい 怪しい あわれっぽい 勇ましい うまい (上手)
 うれしい 男っぽい 思わしい 女らしい かいい 堅い 悲しい
 軽い きつい 恋しい 心強い こすい こすっからい せちがらい
 狭い せわしい 楽しい だるい でかい 手堅い 情ない はがゆい
 ほそい 丸い まん丸い 見苦しい みすぼらしい みっともない
 しのがたい

57 形 容 動 詞*

571 異語数と延べ語数

〔表 68〕 形容動詞の数

話手	延べ語数	一 次**		二 次***	
		異語数	一語頻度平均	異語数	一語頻度平均
男	497	129	3.9	124	4.0
女	425	104	4.1	99	4.3
専	671	139	4.8	132	5.1
義	251	78	3.2	76	3.3
壯	426	125	3.4	121	3.5
若	496	103	4.8	98	5.1
全	922	178	5.2	169	5.5

これを〔表65〕の形容詞と比べてみる時、両者の異語数と延べ語数との対比の上に著しい差異のあることがわかる。形容詞の使用度数は形容動詞に比べてはるかに多いが、語の種類においては両者がほぼ等しいのである。

572 活用形のあらわれ方

形容詞と同様、活用形の使用率を調べてみた。すなわち、延べ922語を活用形によって分け、さらにそれを接続関係によって分けて、その数と百分比を出してみた。〔表69〕のとおりである。()内が百分比である。

この内わけを次に示す。

- (1) 「に(ん)」のうち、「～なる」39, 「～する」14
- (2) 「な-の・ん」のうち、「～です」15, 「～だ」10
- (3) 「な-よう・ふう」の用法をもつ形容動詞はコソアド語と「おなじ」。
(「おなじ」の形を「～な」と同等に扱う。)
- (4) 「な-用言」は「に(ん)」の形の転と考えられるもので、コソアド語だけ。

* この調査では、融合形に属するものをも加えて扱った。

** 形の異なるものをすべて別々に数えあげたもの。

*** 次のような整理を加えて数えたもの。(1) 訛音・不完全音等のものは完全形のものに合わせる。
(2) 接頭語「お」のついたものとつかないものとを合わせる。

〔表 69〕 形容動詞の活用形とその用法別の使用度数

だ ろ	だ っ	で		に (ん)	だ			な		
		,	用 言		。	終 助 詞	他 助 の 詞	休 言	の ・ ん	ふ よ う
		13 (1.4)	32 (3.5)		6 (0.7)	46 (5.0)	60 (6.5)	240 (26.0)	88 (9.5)	13 (1.4)
3 (0.3)	19 (2.1)	45 (4.9)		178 (19.5)	112 (12.1)			369 (39.9)		

他 助 の 詞	用 言	(切 れ)	な ら	語 幹					(他)	計
				で す	の	そ ら し う い	他 助 の 詞	(切 れ)		
17 (1.8)	9 (1.0)	2 (0.2)		148 (16.0)	20 (2.2)	14 (1.5)	5 (0.5)	1 (0.1)		
			0 (0)	188 (20.4)					8 (0.9)	922 (100.1)

(例「こんな大きくなった。」「そんないばるんじゃないよ。)」

- (5) 「だー他の助詞」のうち、接続助詞 27
 (6) 「なー他の助詞」は、終助詞(「の」「のよ」の二語) 12, 副助詞 5
 (7) 「語幹ー他の助詞」は、「～と」「～って」「～とか」「～かしら」。
 (8) (他)は、文語形(「有名なる」など) 2, 融合形(「らくじゃ」など) 6
 なお、○「な(切れ)」「語幹(切れ)」は言葉の中絶によるもの。○「で」一
 用言には、間に「は」「も」「さえ」などをさしはさんだものを含む。

この表については、次のような2,3のことが考えられる。

- (1) 「だろ」「だっ」が少ないのは、取り扱った材料においては、「～
 だろう」「～だった」よりも「～でしょう」「～でした」がおもに用
 いられているためと察せられる。
 (2) 「だ」が少なく「だー」終助詞が多いことは、通説を裏書きする。
 (3) 「なら」が0であるのは、「～なら」の表現はおもに「～だったら」
 の形で行われることによるものと思う。

573 語の種類と使用度数

- をつけたものは字音語である。

〔表 70〕 形容動詞の語種・使用度数一

話し手別延べ語数

語*	活 用														
	だ ろ	だ っ	で , 用 言		に (ん)	だ 。終 助	他 の 助	体 言	の ・ ん	ふ う	よ う	他 の 助	用 言	(切 れ)	な ら
そんな					24			55	12		2	5	2		
いや	1	2	1	2	22	1	8	15	5	2		1			
だめ	1	2		1	3	3	4	5		7		1			
あんな					3			5	22	8	1		1		
こんな					10				21	3	1	2	3		
同じ				1	2	1		1	1	13	3	4			
°結構				1	10					1	3	1			
どんな				1	2				20	2	1	1			
おんなじ					1	1	1		7	2	1	1			
おんなし					1					1	1				
°きれい				1	5	1	2	1	6	5					
すき		2	1	2			1	1	1	2	1	1			
おすき				1				2	1						
°変					1				13	4		1			
°丈夫		1		2			4			1					
°お丈夫		1													
°じょうず		1			5				3	1					
°おじょうず									1	1					
かわいそう					3		7	1		1					
おかわいそう					1										
°適当					4				8						
たしか					7		1	1		1					
°大事					6		1	3	1						
楽	1	2			2		1	2	1	2					
平気				3	2			1	1						
°りっぱ					2		1	2	4						
まじめ				1	1		2		4	1					
°特殊									1	2					
ばか					4		1		1	1					
°便利							2		2						

* 語幹の形をかかげる。

覧 A 使用度数 3 以上のもの

{男—497 義—251
女—425 壯—426 計 922
専—671 若—496

形 語	幹		(他)	話 手						計	語	
	の	そ ら し う い		他 の 助 (切 れ)	男	女	専	義	壯			若
		4		3	44	60	71	33	46	58	104	そんな
16			1	1	37	41	58	20	23	55	78	い や
32	1	2			30	32	46	16	18	44	62	だ め
					23	17	22	18	16	24	40	あんな
					22	18	25	15	17	23	40	こんな
6		1			19	14	22	11	16	17	33	同じ
13					13	16	21	8	23	6	29	° 結構
1					17	11	26	2	6	22	28	どんな
8					12	10	16	6	11	11	22	}25 おんなじ
					1	2	3	0	3	0	3	
4					9	16	22	3	6	19	25	° きれい
4		2			8	10	13	5	6	12	18	}24 す き
2					3	3	6	0	0	6	6	
3					14	8	19	3	5	17	22	° 変
5	1		2		11	5	14	2	8	8	16	}17 ° 丈夫
					1	0	1	0	0	1	1	
2					8	4	10	2	4	8	12	}16 ° じょうず
2					0	4	3	1	3	1	4	
1					11	2	13	0	11	2	13	}14 かわいそう
					0	1	1	0	0	1	1	
					9	3	9	3	4	8	12	° 適当
1					9	2	8	3	9	2	11	たしか
					8	3	11	0	5	6	11	° 大事
					6	5	9	2	5	6	11	° 楽
4					9	2	7	4	7	4	11	° 平気
1					4	6	7	3	6	4	10	° りっぱ
		1			3	1	9	1	4	6	10	まじめ
1	5				8	1	9	0	9	0	9	° 特殊
			1		5	3	1	7	6	2	8	ば か
4					0	8	8	0	1	7	8	° 便利

語	活 用								
	だ ろ	だ っ	て , 用 言	に (ん)	だ 終 助	他 の 助	な の ふ よ う う	他 の 助	な 用 言 (切 れ)
すてき		3					1	2	
なよう			1						
な い			4						
° 熱心			1	1			4		
お も			1	3			1		
° ていねい				2			1	1	
静 か							2		
° めんどう			1			3	1		

B 使用度数 4 以下のもの

<p>使用度数 4 のもの</p> <p>°器用 盛ん °たいくつ °感心 あたりまえ °神経質 °急 いいかげん きのどく・おきのどく °夢中 へた °簡単</p>
<p>使用度数 3 のもの</p> <p>°上等 だいきらい・だいっきらい °地域的 °元気・°お元気 °完全 °堅実 ぐず まっか °憂鬱 °りこう °有名 °悲観的</p>
<p>使用度数 2 のもの</p> <p>°個人的 しとやか °大々の 大好き てめえがって °気分的 °一般的 °専門的 °具体的 かって °経済的 °懇意 じみ °精神的 せっかち ぞんざい °順調 °家庭的 °精巧 まる見え やけくそ °愉快 °有効 めちゃくちゃ °優秀 °不自由 °妙</p>
<p>使用度数 1 のもの</p> <p>°ぜいたく °独特 中途はんば °痛快 °大切 °同様 手軽 °特定 °徹底的 ちぐはぐ °大衆的 °重大 ぐれはま °強大 あげっぱなし 遊び半分 °画一 °簡素 °形式的 °高嶺 °周期的 色とりどり エキゾチック °詳細 くちゃくちゃ 思いがち °財力的 °事務的 °絵画的 ごもつとも °ご自由 °劇的 °活動的 °旧式 °正直 °おっくう °社会的 °遺憾 °残念 くだくた むちゃくちゃ °じゃけん ぐにゃぐにゃ °極端 °繊細 °实际的 °基本的 °お得意 °幸福 °一時的 こぶだらけ °高級 °人間的 ぼろぼろ</p>

形 語 幹	語 手						計	語					
	男	女	専	義	壯	若							
1							7	すてき					
2	の	そら し う い	他 の 助 (切 れ)	(他)	0	7	7	0	0	7	3 } 7	ぎょう	
					1	2	0	3	3	0		4	さい
					0	4	4	0	4	0			°熱心
					3	3	6	0	4	2		6	おも
					3	2	5	0	2	3		5	°ていねい
3	の	そら し う い	他 の 助 (切 れ)	(他)	3	2	5	0	2	3	5	静か	
					2	3	5	0	0	5	5	°めんどう	

°無責任 °ひょうきん ぴんぴん °のんき °別々 °不思議 °諷刺的
 °ぶしょう °迷惑 モダン 物ほしげ ほがらか まっくら まっ黒 °有望
 まちまち ゆるやか ゆたか °南國的 はで °乱雑 °無趣味
 °利己的 °軟弱 °良好 プローカー的 °部分的 のべつ幕なし °有用
 なまいき °反撥的 °文語的

574 字音語の形容動詞

[表69, 70]において、形容動詞すべて178語のうち、字音語が108語数えられる。すなわち、61%が字音語である。なお「～的」の形のもの32語（うち、字音語31、他1）あって、これは全体の18%に当る。この点、形容詞と状況が著しくちがいで、形容詞にはほとんど字音語がない。字音語ないし「～的」形式の語が、形容動詞の異語数を多くする要素として有力にはたっていることが考えられる。

なお、「～的」形式の32語は、すべて使用度数3以下である。

6 調査への反省

この調査は計画の当初から日常談話のことばの構造面のおよその傾向と問題点をさぐることを目的としたものであったが、それらについてはある程度の知識を得ることができた。しかし、この種の調査に対する経験の浅さと計画の不備とが調査の進行とともに反省された。いまそのおもなものを列挙してみると、次の通りである。

まず、資料を定本化するまでの作業においては、準備調査にもっと多くの時間をかけるべきであった。小都市における数次の録音経験に頼って、東京都内での録音に各種の騒音・雑音の混入することを軽視したため、採録資料の中に分析のためには不適當なものがすくなく生じたこと、録音資料の文字化のために十分な時間を計上すべきであったこと、言語単位の認定のための資料が小規模であったため、作業の途次で若干の変更を余儀なくされたことなど、準備調査の段階で考慮すべき点が多かった。

イントネーションの分析に際しては、第1に、調査したのが、リール10巻に止まり、詳細に調べたものは、さらにそのうちの5巻であった。比較資料として調べたラジオのニュース・ニュース解説も計5巻であった。これでも、大体の傾向と問題点とが、かなり明らかになったと思うが、できればもう少し多くの材料を抜いたかった。

第2に、イントネーションの表わし方であるが、これは一応 K. L. Pike の方式を参考にした。しかし、音符を用いる方式や曲線を用いる方式などがあり、それらにふれられなかったのは、残念である。ただし、ここに述べたような、量を以て数える仕事には、Pikeの方式の利点が活用されたとは言えよう。ただし、小字で高さを現わした点については、なお考察の余地がある。

第3に、調査の途中でリールを再び調べ、増補・訂正したのは、今にして思えば、当を得なかった。この仕事としては、やはり、その欲求を抑えてお

くべきであつたらう。

第4に、残された問題について一言すれば、文の構造との関係について、ほとんどふれられなかったが、かなり興味ある問題が残されているであろう。ことに、いわゆる倒置の文とイントネーションとの関係は、大切な問題であつた。

それと関連するが、この調査が文末部に重点を置きすぎたきらいが無いでもない。文全体のイントネーションも、扱うべきであろう。

第5に、比較資料の範囲が狭かつた。もっと種々のものをとり、たとえば講談・落語・劇・おとぎ話、さらに諸方言などのイントネーションを調べて比較すれば、日常の談話のイントネーションが、はっきりしたと思う。

第6に、イントネーションと意味との関係にふれられなかったのは、残念であつた。

第7に、ピッチレコーダーなどの機械を使って、耳で聞きとつたのと比べたかつたが、これは設備などの関係で、実現しなかつた。

文・文節・語の長さの分析に際しては、第1に、もともとそれらの長さは文・文節・語の構造と密接な関係を持つものと予想されるが、この調査では両者を分担したため、またその進行が前後したため、両者の相関について考慮できなかつたのは心残りであつた。そこにも今後の大きな課題が残されている。第2に、比較資料として17巻を用いたが、それらのうち、おのおのの形態に与えられた巻数は決して十分とはいへなかつた。とくに、ニュース・ニュース解説については巻数を増加すべきであつた。

第3に、この調査では、日常談話での文・文節等の長さを記述し、比較資料のあるものと比較するとどまつたが、それらの長さを支えている条件についても、さらに調査すべきであつた。この報告では、それらについて若干の問題を提出したにとどまつた。

第4に、長さを計る尺度としての各単位の得失について検討を加えつつあ

ったが、報告するに十分な結果に到達しなかったことを付記しておく。

文の構造の調査においては、第1に、聴取不能の個所のある文など、コード不能の文は調査対象としなかったが、むしろ、こういうものに談話語の大きな問題が含まれていると考えられる。これらを取り上げて追究することが必要であったと思われる。第2に、調査の目的は談話語の文の構造を概観することであったが、談話語の特徴的なものを追究することが、より必要ではなかったかと思われる。第3に、調査方法の上では文の成分に重点を置いたが、それにしても、もっと別の単位による方法、たとえば連用修飾語を最初から四つに分類するというように、もっと細かい単位を最初から設定して調査することが考えられる。

また、独立語に対等の成分を含ませたが、これは別な取扱いをすることがよかったのではなからうか。コードについても、助辞の類は符号化せず、そのままとり上げることをも考慮すべきであった。

なお、残された問題としては次のようなことがある。

- (1) 敘法を中心として調査すること。
- (2) 文の構造と話し手、表現の目的、表現内容、話題、場面などとの関係。
- (3) 基本文型の調査

語の種類・使用度数・用法の調査においても、反省すべき点が多いが、おもな点は次の5点である。

- (1) 各語の品詞の決定には困難が多かった。その事情を列挙すれば、
 - a. 語の意味や職能の発現が音調の上にかゝっているために、文字化されたものによっては、語の性格がとらえられない場合が多い。
 - b. しかも、音調が明確な規定力をもたないで、録音を聞いても適確にその語の性格のつかめない場合が少なくない。
 - c. 語の使い方が慣用のわくからずれている場合がしばしばある。(語の不確実な使い方)

- d. 語が文中で明確なはたらきを演じていないで、浮動的な状態にあることが多い。(文の不整)

以上はいずれも、話しことば、とりわけ日常談話の性格に基づくものである。

この調査では、品詞のきめ方については、主として文部省発行「中等文法」により、その他、橋本進吉述「新文典別記口語篇」、岩淵悦太郎編「図表国文法」、国立国語研究所報告3「現代語の助詞・助動詞」、金田一京助編「明解国語辞典」等を参考にし、さらに談話語についての準備調査に基いて、基準を立て、各語の品詞をきめたが、疑問を残すところがあった。

なお、品詞論上問題のある形容動詞に関しては、名詞・副詞との別の問題があり、また、名詞と副詞との別などにも問題があるが、それぞれ規定を設けて処理した。

- (2) 第2段の作業の対象として、融合形・副詞・接続詞・形容詞・形容動詞を取り上げたのは、時間の制約にもよるものであった。すなわち、限られた時間内において処理できそうなものを問題的に取り上げたのである。したがって、日常談話の特性を明らかにするためには、取り上げるべきものが残されている。
- (3) 取り上げた各品詞に関する分析も、同様の事情によって徹底を欠いたところがあり、また、各品詞の処理のしかたに不統一を生じた点もある。
- (4) 接続詞の用法の分析(A・B・Cの分類)は、方法が観念的であるため、結果はかなり不安定なものであることをまぬがれない。大体の実態をつかむにとどまっている。
- (5) 作業の進行途中において、語の切り方、品詞のきめ方に多少変更を加えた。そのために、品詞の語数と使用率との間にやむを得ない違いを生じたものがある。すなわち、形容動詞・副詞などについては、使用率の上で、それぞれほぼ0.1%減少した。

7 参 照 文 献

この調査において引用または参照した文献と、この調査に関連した事項について説かれている文献のおもなものを挙げれば、次の通りである。文献番号の1から13まではイントネーションに関するもの、21から27までは文・文節・語の長さに関するもの、28から63までは文の構造に関するもの、64から69までは語の種類・使用度数・用法に関するものである。なお、14・15・16はイントネーションを除く他のすべての項目に関するもの、17・18は文・文節・語の長さと言の構造とに関するもの、19・20は文の構造と言の種類・使用度数・用法とに関するものである。また○印を付したものは分析の作業の終末あるいは終了後に発表された文献であることを示す。

- (1) K.L. Pike: “The Intonation of American English” 4th printing, 1949年
- (2) 金田一 春彦 **コトバの旋律** 国語学 第5輯 1951年
- (3) 国立国語研究所 **国立国語研究所年報** 4 1953年
- (4) 佐久間 鼎 **日本音声学** 第4部 1929年版
- (5) 大西 雅雄 **教育音声学** 第8章 1936年版
- (6) 兼常 清佐 **日本の言葉と唄の構造** 第二編 1938年版
- (7) 兼常 清佐 **日本語の研究** IV 1939年版
- (8) 佐久間 鼎 **音声と言語** 第12章 1939年版
- (9) 神保格, 常深千里 **国語発音アクセント辞典** 解説第7章 1940年版
- (10) 柴田 武 **文字と言葉** 200へ 1950年
- (11) 寺川 喜四男 **アクセントの基底としての話調の研究** 『国語アクセント論叢』 1951年
- (12) 藤原 与一 **方言『文アクセント』の研究** 『国語アクセント論叢』 1951年
- (13) 服部 四郎 **音声学** 第9章 1951年

(14) 朝日新聞社新聞用語改善委員会 実態はどうなっているか 新聞用語研究
No. 25 1949年

新聞文章の文の平均文節数は18.8であると報告され、また、新聞文章の実態調査による品詞の比率として、次の表がかかげられている。

名 詞			動 詞	形 容 語	接 続 語	〔が〕 (接助)
固名	普名	数				
17.4	29.3	8.0	19.1	9.7	15.7	0.8
54.7						

(15) 波多野完治 文章心理学 1949年

品詞の使用度数について、次表は本調査と比較することができる。

a. 谷崎・志賀の小説各1000字の文章についての品詞の使用度数

	名 詞	動 詞	形 容 詞
谷 崎	117	113	13
志 賀	166	112	7

(動詞の中に形容動詞を含む。)

b. 谷崎・横光の小説各1000字の文章についての品詞の使用度数

	名 詞	動 詞	形 容 詞	副 詞
谷 崎	140	103	16	35
横 光	127	104	0	51

(形容詞に形容動詞を含む。
副詞に形容詞の副詞形を含む。)

(16) 矢田部 遠 郎 児童の言語 1949年

(17) 樺 島 忠 夫 文の構造について 国語国文 23の3 1954年

(18) 中 村 通 夫 談話のことばと放送のことば 言語生活 2号 1951年

(19) 伊佐早 敦 子 はなしことば序 国語国文 22の3 1953年

(20) 遠 藤 嘉 基 話し言葉と書き言葉 言語生活 21号 1953年

(21) 国立国語研究所 言語生活の実態 1951年

(22) " 地域社会の言語生活 1953年

- 22) 放送文化研究所 用語研究——放送文の長さについて—— 放送文化研究所
報 No. 13 1949年
- 24) 波多野完治 新聞記事 1948年
- 25) " 現代文章心理学 1950年
- 26) 森岡健二 教科書文章の難易調査 言語生活 30号 1954年
- 27) 樺島忠夫 文の長さについて 国語学 第15輯 1953年
- 28) Otto Jespersen *Analytic Syntax* 1937年
- 29) 大槻文彦 広日本文典 1897年
- 30) 山田孝雄 日本文法論 1908年
- 31) 鶴田常吉 日本口語法 1924年
- 32) 松下大三郎 改撰標準日本文法 1928年
- 33) 安田喜代門 高等国語法 1929年
- 34) 湯沢幸吉郎 解説日本文法 1931年
- 35) 橋本進吉 国語法要説 1936年
- 36) 湯沢幸吉郎 口語法精説 (国語科学講座) 1934年
- 37) 山田孝雄 日本文法学概論 1934年
- 38) 松尾捨治郎 国語法論攷 1936年版
- 39) 佐久間鼎 現代日本語の表現と語法 1936年
- 40) 橋本進吉 新文典別記 (口語篇) 1938年
- 41) 木枝増一 高等国文法新講 (文章篇) 1938年
- 42) 佐久間鼎 現代日本語法の研究 1940年
- 43) " 日本語の特質 1941年
- 44) 金田一京助 新国文法 1941年
- 45) 木枝増一 語法の論理 1941年
- 46) 時枝誠記 国語学原論 1941年
- 47) 青年文化協会 日本語基本文型 1942年
- 48) 佐久間鼎 日本語の言語理論的研究 1943年
- 49) 国際文化振興会 日本語表現文典 1944年

- (50) 藤原与一 日本語 1944年
 (51) 岩井良雄 標準語の語法 1944年
 (52) 文部省 中等文法 口語 1947年
 (53) 岩淵悦太郎 国語概説 1948年
 (54) // 図表国文法 1948年
 (55) 三尾砂 国語法文章論 1948年
 (56) 藤原与一 日本語方言文法の研究 1949年
 (57) 時枝誠記 日本語法口語篇 1950年
 (58) 吉沢義則 日本語法(理論篇) 1950年
 (59) 遠藤嘉基 松井利男 わたくしたちのことばと文法(口語文章篇) 1953年
 (60) 佐伯梅友 国文法——高等学校用—— 1953年
 (61) 三上章 現代語法序説 1953年
 (62) 鶴田常吉 日本文学原論 1953年
 (63) 橋本進吉 文節による文の構造について 国語学 第13・14輯 1953年
 (64) 浅野信 現代日本語の特質 コトバ5の8 1943年

「形容詞も仮定形と連用形が次第に分解分化してふかの傾向にある。それは如何なる分裂分化の道を辿つてゐるかといふに、大体次のように二単語に分裂し、一つはその語の他の活用形、他は他の語(助動詞乃至助詞)を拉し來るのである。すなわち、

〔形容詞〕 近くて→近いので(連用形→連体形) 近ければ→近いならば(仮定形→連体形) 近い→近い(の・ん)です(終止形→連体形)』

- (65) 樺島忠夫 現代文における品詞の比率とその増減の要因について
 国語学 第18輯 1954年

日常会話・小説会話・哲学書・小説地の文・新聞記事の5種の文について品詞の比率を調べ、文の凝縮度が文中の品詞の割合を決定する一要因であることを論じている。

- (66) 国立国語研究所 国立国語研究所年報 1 1951年

朝日新聞1か月間の用語の品詞別使用度数が報告されている。自立語だけの調査である。

	名詞	動詞	形容詞	形容 動詞	副詞	連体詞	接続詞	感動詞
数	11247	3874	442	518	597	440	227	0
百分比	65	22	3	3	3	3	1	0

(67) 国立国語研究所資料集 2 語彙調査 一現代新聞用語の一例一 1952年

1か月間の新聞用語の調査で、品詞別の使用度数をかき上げているところから抄録すると、

無活用語の部 18,6170 (自立語のみ。形容動詞語幹を含む。)

動詞の部 5,2333

形容詞の部 4573

(68) 佐久間 鼎 新しい語法 国語文化講座問題篇 1941年

(69) 山田 孝 雄 日本口語法講義 第14章 1929年版

第一次 1 の～	87	三次の文	77
第一次 1, 11回以上の～	88	字音語の使用率 (形容動詞にお ける)	177
第一次 2 の～	91	主語を含む文の数	89
第二次以下の～	112	主語の分類	113
第二次, 11回以上の～	98	主語の割合	
型の分類		体言による～	114
第一次の～	89	ガ助詞による～	114
第二次の～	98	ハ助詞による～	114
感情を表現するイントネーション	35	モ助詞による～	114
感動詞 (ニュース解説における)	43	述語の分類	
感動詞 I	138	文末部による～	117
感動詞 II	138	ます・です体, だ体による～	116
感動詞 III	138	述語の割合	
間投助詞の現れ方	132	自立語の種類による～	123
間投の成分	132	文末助詞による～	117
感動の成分	132	ます・です体, だ体による～	116
機械連記 (Soku-Taipu)	1	述・主の成分	79, 96, 99
擬声語・擬態語の使用率 (副詞にお ける)	152	述・体の成分	126
既知どうし未知どうしの場合	140	述・独の成分	96, 99
基本文型	94	述・用の成分	79, 96, 99, 128
逆接の接続詞	157	順接の接続詞	157
句末	15	使用度数	
K. L. Pike の方式	178	副詞上位 5 語の～	153
形容詞	13	副詞「そう」の～	153
形容動詞	13	使用率	
形容動詞の異語数を多くする要素	177	感動詞の～	138, 142
形容動詞の判別	4	形容詞の～	142
五成分	133	コソア語の～	138, 142
コソア語	142	動詞の～	142
語の長さ	9	副詞の～	142
語の不確実な使い方	180	補助用言の～	138
		名詞の～	142
サ 行		融合形の～	142
サ行変格活用動詞の取扱い	4	自立語の現れ方 (述語における)	123

性格 (Personality)	35
性・年齢・教養の影響 (イントネーションにおける)	6
成分の構造	11
成分の組合せ	10
成分の比率	11
接続詞	13
A用法の～	158
B用法の～	158
C用法の	158, 163
D用法の～	158
軽い用法の～	161
文中の～	158
文頭の～	158
話頭の～	158
接続詞の重複・冗用	161
接続詞の用法の分析	181
接続詞の用法の分類	158
接続の成分	131
選択の接続詞	157
総語数	
サンプル調査, 日常談話の～	69
サンプル調査, 比較資料の～	69
日常談話の～	69
比較資料の～	69
総文数	
サンプル調査, 日常談話の～	59
日常談話の～	52
比較資料の～	52
総文節数	
サンプル調査, 日常談話の～	61, 65
日常談話の～	61
比較資料の～	61

々 行

第一次の成分	79
体言の連体修飾語	127
だ体	116
中止法	94
調査資料	
イントネーションの～	6, 15
学校で採集した～	73
家庭で採集した～	73
基礎話調だ調の～	76
近隣で採集した～	73
公共施設で採集した～	73
下町地方で採集した～	72
事務的態度の～	76
若年層相互の～	74
周辺地区で採集した	72
職場で採集した～	73
女性相互の～	74
壮若交互の～	74
壮年相互の～	74
だ・です調の～	75
です・ございます調の～	75
男性相互の～	74
なごやかな態度の～	76
文末部のイントネーションの～	35
文末助詞のイントネーションの～	45
ます・です調の～	75
山の手地区で採集した～	72
やや改まった態度の～	76
調査資料の種別による文の長さの差異	9
添加の接続詞	157
「～的」形式の形容動詞	177
対等の成分	132
倒置の型	87
倒置の文とイントネーションとの関係	179

倒置の文の数	89	品詞決定の困難	180
倒置文	4	品詞の使用率	12, 137
独立語	180	副詞	13
独立語の分類	130	文節(附属の關係の)	135
独立語の割合		文節の長さ	8
各成分の比率における～	112	文全体のイントネーション	179
文の数に対する～	130	文・文節・語の構造と長さとの關係	179
		文・文節等の長さを支えている条件	179
		文の数	
		主語を含む～	89
		倒置の文を含む～	89
		独立語を含む～	94
		文の構造調査の単位	180
		文の長さ	8
		学校で採集した資料の～	73
		家庭で採集した資料の～	73
		教養「義」「専」どうしの	75
		基礎話調だ調の～	75
		近隣で採集した資料の～	73
		公共施設で採集した資料の	73
		既知の間柄の～	75
		既知未知混合の～	75
		教養「義」どうしの	75
		教養「専」どうしの	75
		下町地区で採集した資料の	72
		事務的態度の～	76
		若年層相互の～	74
		周辺地区で採集した資料の	72
		職場で採集した資料の～	73
		女性相互の～	74
		壮若交互の～	74
		壮年層相互の～	74
		だ・です調の～	75
		男性相互の～	74
		です・ございます 調の～	75
ナ 行			
長さを計る尺度としての			
各単位の得失	179		
二次の文	77		
延べ語数(全調査語の)	138		
延べ数			
第二次以下の型の～	112		
第二次の型, 11回以上の～	98		
第二次の型の～	97		
延べ文数			
第一次1の型, 11回以上の～	88		
文の構造の調査総数の～	87		
ハ 行			
話し手の条件(「次」の多少と)	77		
場面による変化(イント			
ネーションの)	6		
比較資料	1		
イントネーションの～	34		
語の種類・使用度数・用法の～	137		
文の構造の～	77		
文・文節・語の長さの～	52		
被調査者			
～の教養	3		
～の年齢	3		
被調査者数(延べ)	19		
百分率の最後のケタの数	19		

なごやかな態度の～	76
ます・です調の～	75
未知の間柄の～	75
山の手地区で採集した資料の～	72
やや改まった態度の～	76
文の不整	181
文の平均文節数（日常談話の）	54
文末	15
文末・句末の比較（イントネーションの）	6
文末助詞の現れ方	117
文末助詞のイントネーション	7
文末文節のイントネーション	7
並列の接続詞	157
補充法	4

	マ行	
ます・です体		116
	ヤ行	
融合形		13, 138, 142, 143
	ラ行	
連用修飾語の分類		127
連体修飾語の割合		
各成分の比率における～		112
形容語の～		126
体言的連体修飾語の～		126
連用修飾語の割合		
格助詞による～		128
述・用の成分の～		128

数表・図表一覧

イントネーションの調査

（*を付けたものが図表）

句末のイントネーションと、その話し手別分布	16
話し手の分布	18
文末のイントネーションと、その話し手別分布	20
句末・文末のイントネーションの話し手別百分率	22
句末・文末のイントネーションの合計と、その百分率	24
句末と文末との比較—(句末)—	26
" —(文末)—	28
音の上下の方向	30
性・年齢・教養別のイントネーションの合計と、その百分率	31
音の上下の方向と性・年齢・教養	32
同一人の場面による相違	33
ニュース・ニュース解説のイントネーションの話し手別分布と百分率	34
文末文節のイントネーション（1）—日常の談話から—	36
" （2）—ラジオのニュースから—	43
" （3）—ラジオのニュース解説から—	44
文末の助詞のイントネーションの話し手別分布	46

文・文節・語の長さ

文節を尺度とした文の長さ（談話語）*	52
文節を尺度とした文の長さ（比較資料との百分比）*	54
語を尺度とした文の長さ（談話語）*	56
" （ニュース）*	57
" （ニュース解説）*	57
音節を尺度とした文の長さ（談話語）*	59
文における文節と語（談話語）	62

語を尺度とした文節の長さ (談話語)*	65
" (ニュース)*	66
" (ニュース解説)*	66
" (講義)*	66
" (比較資料との百分比)	67
音節を尺度とした文の長さ (談話語)*	68
" 文節の長さ (談話・ニュース・ニュース解説・講義)	69
" 語の長さ (比較資料との百分比)*	70
文・文節・語の総数と長さの平均	72
文の構造	
「次」の多少	78
第一次の成分の組合せの型 1	80
第一次 1, 11回以上の型	88
第一次, 型の種類と文の数	89
文の構造の特徴	90
第一次の成分の組合せの型 2	91
第一次の成分の組合せの型 3	95
第二次の成分の組合せの型	96
第二次, 11回以上の型	98
第二次, 型の種類と文の数	99
) b y の型	100
) b a の型	107
) b d の型	109
) b t) の型	110
) t) の型	111
成分の比率*	113
主語の構造	114
" *	115

談話語の副詞と書きことばの副詞との比較	154
接続詞の数	155
接続詞の語種・使用度数一覧	155
接続詞の種類別数	157
談話語の接続詞と書きことばの接続詞との比較	159
接続詞の用法別使用度数(1)	160
接続詞の用法別使用度数(2)	160
接続詞各語の用法別使用度数	161
ニュースの接続詞の用法別使用度数	163
ニュース解説の接続詞の用法別使用度数	163
形容詞の数	164
形容詞の活用形とその用法別の使用度数	164
形容詞の語種・使用度数一覧	166
形容動詞の数	172
形容動詞の活用形とその用法別の使用度数	173
形容動詞の語種・使用度数一覧	174

—— 国立国語研究所刊行書

- 国立国語研究所報告 1 八 丈 島 の 言 語 調 査
- 国立国語研究所報告 2 言 語 生 活 の 実 態 (秀英出版刊)
—白河市および附近の農村における— (¥ 300.00)
- 国立国語研究所報告 3 現 代 語 の 助 詞 ・ 助 動 詞
—用法と実例—
- 国立国語研究所報告 4 現代語の語彙調査 婦人雑誌の用語
- 国立国語研究所報告 5 地 域 社 会 の 言 語 生 活 (秀英出版刊)
—函岡における実態調査— (¥ 600.00)
- 国立国語研究所報告 6 少 年 と 新 聞
—小・中学生の新聞への接近と理解—
- 国立国語研究所報告 7 入 門 期 の 言 語 能 力
- 国立国語研究所報告 8 談 話 語 の 実 態
- 国立国語研究所報告 9 読 み の 実 験 的 研 究
—音読にあらわれた読みあやまりの分析—

- 国立国語研究所資料集 1 国 語 関 係 刊 行 書 目 録 (昭和17—24年)
- 国立国語研究所資料集 2 語 彙 調 査
—現代新聞用語の一例—
- 国立国語研究所資料集 3 送 り 仮 名 法 資 料 集

- 昭和 24 年 度 国 立 国 語 研 究 所 年 報 1
- 昭和 25 年 度 国 立 国 語 研 究 所 年 報 2
- 昭和 26 年 度 国 立 国 語 研 究 所 年 報 3
- 昭和 27 年 度 国 立 国 語 研 究 所 年 報 4
- 昭和 28 年 度 国 立 国 語 研 究 所 年 報 5

昭和 30 年 3 月

国立国語研究所

東京都千代田区神田一ツ橋 1—1

電話九段 (83) { 4 2 9 5
 4 2 9 6

UDC 495.6-088(06)

NDC 810.05

RESEARCH
IN
THE COLLOQUIAL JAPANESE

CONTENTS

Foreword

1. Outline of Research

Purpose—Plan and Operation—Summary of Results

2. Intonation

Kinds of Intonation Patterns—Factor Analysis—Words
Ending Sentences with Intonation

3. Length of Words and Sentences

Sentence Length—Length of 'Pause Groups' (*Bunsetsu*)—
Word Length—Factors Determining Sentence Length

4. Sentence Structure

Order of Components—Frequency of Components in
Various Materials—Component Structure

5. Frequency and Function of Words

Frequency of Parts of Speech—Sandhi-forms (*Yûgôkei*)
—Adverbs—Conjunctions—Adjectives—Adjectival
Verbs

6. For Further Research

7. Bibliography

Index

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE
KANDA-HITOTUBASI, TIYODA, TÔKYÔ

1 9 5 5